人間生活学部

教育研究上の目的

人間生活学部は、建学の精神に基づき、「食・栄養・運動・福祉」を教育研究の中核とし、人々の豊かな生活と健康の保持・増進に寄与するために必要な専門的知識と技能を備え、多様な人々の健康で幸福な【健幸】を支援できる人材を育成することを教育研究上の目的とする。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

人間生活学部は、次の学生像を人材育成の方針とする。

1．「食・栄養・運動・福祉」に関する知識を基に、生涯にわたって人・社会に関心をもち、「健幸」について科学的に思考し、探究しつづける力を備えている。

2．多様な価値観と向き合い、他者を尊重し互いを認め合いながら、連携・協働する力を備えている。

3．人間生活における様々な課題を見い出し、解決するための策を思考し、実践する力を備えている。

カリキュラムマップでは、各学科の学生が、卒業までに身につけるべき知識・能力を得るための授業科目が、どのように配置されているか、各授業科目の関連性などがわかるようになっています。

カリキュラムの授業科目間のつながりや年次進行などがわかりますので、履修上の参考にしてください。

共通科目　カリキュラムマップ

（網掛け）→ 必修科目

領域	学生が身につけるべき資質・能力	1年次	2年次	3年次	4年次
ゼミナール	・文章や資料の意味や意図を理解するとともに、自分の考えを文章や図表などを活用してわかりやすく他者に伝えることができる。 ・他者の意見に耳を傾けてその考え方を理解したり、話し合いを通して共感したりするとともに、自分の意見をまわりの人にわかりやすく伝えることができる。 ・実社会や実生活を分析的に捉え、身の回りにある課題に気付くとともに、その解決に向けて必要となる情報や資料を収集し解決に向けた糸口を見つけることができる。 ・実社会や実生活の中から課題を見出し、問いを立てて情報を収集し、整理・分析してまとめ・表現することができる。 ・身のまわりの課題解決に向けて、グループやチームで協働的に取り組み、話し合いを通して考えをまとめ、表現することができる。 ・実社会や実生活にある問題の背景を探り、手順を踏んで検討を重ね、解決に向けたアイディアを分かりやすく表現することができる。 ・他者との関わり中で、主体的・協働的に取り組むとともに、自分の目標を明確にしながら積極的に問題解決に取り組むことができる。 ・他者との関わり合いの中で、互いのよさや役割を意識しながら新たな価値の創造を目指して協働的に課題解決に取り組むことができる。 ・他者と協働しながら解決策を検討するとともに、関係者の意見を取り入れながら更なる課題を見出し、その解決策を継続して探究していくことができる。	入門ゼミナール（必修） 課題発見・探求ゼミナール	課題解決ゼミナール	総合ゼミナール	
総合	・講義や講話を聞いて、自己の既有知識及び他者の既有知識、概念と照合する中で、今までの先入観を壊すような学修をすることができる。 ・講義や講話を聞いて、問題意識をもち、疑問を持って学修する中で、今までの先入観を壊すような学修をすることができる。 ・講義や講話に基づいて関連する情報を集めたり、自己内対話を行う、他者と対話したりなどし、適切なノートテイキングができる。 ・講義や講話に基づいて関連する情報を集めたり、疑問点を整理したりする中で、適切なノートテイキングができる。 ・講義や講話の基づいて自ら選択した科目の重要性に気づいたり、そこでの知見及び他者からの地検を将来に生かそうとしている。 ・講義や講話の基づいて自ら選択した科目の重要性に気づいたり、芽ばえた疑問点を追究する中で得られた知見を将来に生かそうとしている。	地域で学ぶ 人間関係とコミュニケーション 総合科目 自主社会活動	地域と人間生活（必修） 人間理解ワークショップ		
人間	・資料を読解し、疑問を持ってその内容を追究し、必要な資料を探索して研究することができる。 ・さまざまな人の考え方を学びながら、自分にできることを見極め、積極的に行動するとともに、グループやチームでの協働的な問題解決に取り組むことができる。 ・社会の実態を捉え、そこから問題を見つけるとともに、解決に向けて、多様な資料を活用しながら解決に向けた糸口を手に入れることができる。 ・自己課題を見つけ、解決に向けて行動するとともに、その過程を省察しつつ論理的に表現することができる。 ・他者との関わりにおいて課題を見つけ、解決に向けて仲間と一緒に行動するとともに、その過程を仲間とともに省察し、チームとしての成果を発表することができる。 ・現実の社会における事実の背景を探り、ものごとのプロセスを踏まえた検討ができ、解明した内容に関するレポートができるようになる。 ・自ら資料を収集し、内容を分析するとともに、複数の意見をもとに考察を深め、他者と力を合わせ、追究することができる。 ・他者との関わりの中で資料を収集し、その内容を仲間とともに分析するとともに、多様な意見を踏まえた考察を深め、新たな追究課題を創造できる。 ・捉えた社会の姿をもとに、そこに至る過程に光をあてて、将来に向けての解決のためのビジョンを構想したり、仲間とともに実践的に解決策を考えることができる。	キャリアデザインとライフプラン リーガルリテラシー ジェンダーリテラシー 子育てと環境 女性と健康 女性の心と身体	食の科学 歴史のなかの女性 芸術を読みとる		
社会	（同上）	グローバル社会 ネットワーク社会 共生社会入門 多様性と倫理 持続可能な社会 くらしのなかの日本国憲法 ボランティア論	災害と社会 21世紀型の教育		
保健体育	（同上）	身体運動Ⅰ 身体運動Ⅱ			
ICT・データサイエンス	・ICT機器の操作、ネットワークに関する基礎的な知識を理解している。 ・情報に関する法規や制度、情報セキュリティの重要性を理解し、情報倫理を踏まえたICT活用について理解している。 ・データを収集、整理、分析する方法を身につけ、表現方法について理解し、さまざまな社会課題を解決していく力を備えている。 ・情報技術を適切かつ効果的に活用する力を理解し、実際にICT機器の基本となる操作ができる。 ・情報発信における責任、情報モラルについて理解し、情報発信手段の特性の理解及び、適切な手段の選択ができる。 ・問題･課題の発見と解決に向けて意思決定する力を備えており,社会的な課題を解決することができる。 ・ネットワークサービス、コミュニケーション手段の特徴を理解し、それを生かしたICTを活用した情報発信や情報収集をすることができる。 ・情報社会へ主体的に参画する態度を身につけ、自ら積極的に情報を収集し、発信することができる。 ・社会における課題をICTを通して解決しようとするとともに、仲間とともに協力して課題の解決に向けた方策を検討したり、その成果を生かして、身近な課題を解決することができる。	はじめてのデータサイエンス（必修） 情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ			
外国語（基礎科目）	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解をさらに深めるとともに、文字・音声から得られる情報の内容を的確に把握・情報を整理することができる。 ・コミュニケーションを行う目的や場面・状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、その概要や要点・詳細・話し手や聞き手の意図などを的確に理解し、実際のコミュニケーションにおいて活用できる。 ・言語を通じて得た文化や社会的な課題について、複数の資料を収集・活用して、考察を深めることができる。 ・文字･音声から得られる情報の内容を的確に把握･情報を整理し、その概要を文字･音声を使用し、わかりやすい形で表出できる。 ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報を整理しながら考えなどを形成し、伝え合うことができる。 ・言語を通じて得た文化や社会における課題について、自らの意見をまとめ、表現することができる。 ・日常的な話題や社会的な話題について資料を整理・分析し、その概要や自分の意見を論理的に表出したり、他者の意見との違いについて考察を深めることができる。 ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、他者の考えを聞いたり、読んだりし、多様な意見を踏まえたうえで考察を深めることがでる。 ・言語を通じて得た文化や社会的な課題について、複数の資料を収集・活用して、考察を深め、仲間とともに課題を追究することができる。	英語コミュニケーション演習（必修） 英語Ⅰa 英語Ⅰb 中国語Ⅰa 中国語Ⅰb 朝鮮語Ⅰa 朝鮮語Ⅰb フランス語Ⅰa フランス語Ⅰb 海外語学研修	英語Ⅱa 英語Ⅱb 中国語Ⅱa 中国語Ⅱb		
（外国語・発展）	（同上）	アドバンスト・リスニング アドバンスト・リーディング アドバンスト・ライティング TOEIC対策講座 中国語試験対策講座 日本語検定対策講座	実践英語a 実践英語b ビジネス英語 映画・ドラマ英語 メディア英語		
日本語（非母語者向）	・資料を読解し、疑問を持ってその内容を追究し、必要な資料を探索して研究することができる。 ・さまざまな人の考え方を学びながら、自分にできることを見極め、積極的に行動するとともに、グループやチームでの協働的な問題解決に取り組むことができる。 ・社会の実態を捉え、そこから問題を見つけるとともに、解決に向けて、多様な資料を活用しながら解決に向けた糸口を手に入れることができる。 ・自己課題を見つけ、解決に向けて行動するとともに、その過程を省察しつつ論理的に表現することができる。 ・他者との関わりにおいて課題を見つけ、解決に向けて仲間と一緒に行動するとともに、その過程を仲間とともに省察し、チームとしての成果を発表することができる。 ・現実の社会における事実の背景を探り、ものごとのプロセスを踏まえた検討ができ、解明した内容に関するレポートができるようになる。 ・自ら資料を収集し、内容を分析するとともに、複数の意見をもとに考察を深め、他者と力を合わせ、追究することができる。 ・他者との関わりの中で資料を収集し、その内容を仲間とともに分析するとともに、多様な意見を踏まえた考察を深め、新たな追究課題を創造できる。 ・捉えた社会の姿をもとに、そこに至る過程に光をあてて、将来に向けての解決のためのビジョンを構想したり、仲間とともに実践的に解決策を考えることができる。	総合日本語Ⅰa 総合日本語Ⅰb 日本語表現技術Ⅰ 日本語表現技術Ⅱ 日本語表現技術Ⅲ 日本語表現技術Ⅳ 日本語研究A（時事Ⅰ） 日本語研究B（時事Ⅱ） 日本語研究C（ビジネスⅠ） 日本語研究D（ビジネスⅡ） 日本語研究E（医療・福祉専門） 日本語研究F（人文科学） 日本語能力試験対策講座Ⅰ 日本語能力試験対策講座Ⅱ 日本語集中講座（編入）	総合日本語Ⅱa 総合日本語Ⅱb	総合日本語Ⅲa 総合日本語Ⅲb	
キャリア教育	・資料を読解し､疑問を持ってその内容を追究し､必要な資料を探索して研究することができる。 ・さまざまな人の考え方を学びながら、自分にできることを見極め、積極的に行動するとともに、グループやチームでの協働的な問題解決に取り組むことができる。 ・社会の実態を捉え、そこから問題を見つけるとともに、解決に向けて、多様な資料を活用しながら解決に向けた糸口を手に入れることができる。 ・自己課題を見つけ、解決に向けて行動するとともに、その過程を省察しつつ論理的に表現することができる。 ・他者との関わりにおいて課題を見つけ、解決に向けて仲間と一緒に行動するとともに、その過程を仲間とともに省察し、チームとしての成果を発表することができる。 ・現実の社会における事実の背景を探り、ものごとのプロセスを踏まえた検討ができ、解明した内容に関するレポートができるようになる。 ・自ら資料を収集し、内容を分析するとともに、複数の意見をもとに考察を深め、他者と力を合わせ、追究することができる。 ・他者との関わりの中で資料を収集し、その内容を仲間とともに分析するとともに、多様な意見を踏まえた考察を深め、新たな追究課題を創造できる。 ・捉えた社会の姿をもとに、そこに至る過程に光をあてて、将来に向けての解決のためのビジョンを構想したり、仲間とともに実践的に解決策を考えることができる。	インターンシップ短期 インターンシップ長期	キャリアデザイン入門（必修） キャリアロールモデル研究 企業に学ぶキャリアデザイン プロアクティブ人材育成 キャリア基礎力Ⅰ キャリア基礎力Ⅱ	キャリアサポート演習	
DP	人間生活学部は、次の学生像を人材育成の方針とする。 1．「食・栄養・運動・福祉」に関する知識を基に、生涯にわたって人・社会に関心をもち、「健幸」について科学的に思考し、探究しつづける力を備えている。 2．多様な価値観と向き合い、他者を尊重し互いを認め合いながら、連携・協働する力を備えている。 3．人間生活における様々な課題を見い出し、解決するための策を思考し、実践する力を備えている。				

人間生活学部（N）
共通科目教育課程　2024年度生

科目群		卒業に必要な単位数
共通	必修	9単位
	選択必修	6単位
	選択	7単位以上
計		22単位以上

- 必修科目９単位履修すること
- 選択必修科目６単位履修すること。６単位を超えた分は選択科目の単位となる。
- 選択科目７単位以上履修すること
- 合計22単位以上履修すること

▶履修期欄に「前・後」と記載がある科目は、配当年次のいずれかを履修すればよい。

科目区分	授業科目	単位数 必修	選択必修	選択	授業形態	履修期	配当年次	備考	身につく力（◎…重要な目的としている ○…主な目的としている） 資料読解・問題把握・資料探索	自己課題発見・解決への模索・省察	資料収集・資料分析・協働的課題追究	対話的検討・自力解決・協働的学修	協働的課題発見・協働的解決（役割行・チームとしての省察	協働的資料収集・分析・協働的考察	実態把握・資料活用力・課題解決	実態と背景の把握・プレゼンテーション力	社会的課題の析出・解決方策の検討・協働的、実践的解決
ゼミナール	入門ゼミナール	2			講義	前	1		◎	◎	○	◎	○	○	○		
	課題発見・探求ゼミナール			1	演習	後	1·2·3·4		○	◎	○	○	◎		◎	○	
	課題解決ゼミナール			2	演習	前·後	2・3				○	○	◎	◎	○	◎	
	総合ゼミナール			2	演習	前·後	3・4				○		○	◎	○	◎	◎
総合	地域で学ぶ			2	講義	前·後	1·2·3·4		○	○	○	○			○		
	地域と人間生活	2			講義	前·後	2・3・4		○	○	○	○	○		○		
	人間関係とコミュニケーション			2	講義	後	1·2·3·4		○	○	○	○	○		○		
	人間理解ワークショップ			2	講義	前·後	2・3・4		○	○	○	○	○		○	○	
	総合科目			2	講義	前·後	1·2·3·4		○	○	○				○		
	自主社会活動			1	演習	前·後	1·2·3·4		○	○	○				○		
人間	キャリアデザインとライフプラン		2		講義	前·後	1	5科目から1科目2単位以上履修			○			○			
	リーガルリテラシー		2		講義	前·後	1			○	○					○	
	ジェンダーリテラシー		2		講義	前·後	1				○						○
	子育てと環境		2		講義	前·後	1		○				○				
	女性と健康		2		講義	前·後	1			○	○				○		
	女性の心と身体			2	講義	前·後	1・2・3	保育士及び管理栄養士希望者は必修		○		○				○	
	食の科学			2	講義	前·後	2・3		○						○		
	歴史のなかの女性			2	講義	前·後	2・3			○	○	○					
	芸術を読みとる			2	講義	前·後	2・3		○		○						
社会	グローバル社会		2		講義	前·後	1	5科目から1科目2単位以上履修			○	○					
	ネットワーク社会		2		講義	前·後	1			○						○	
	共生社会入門		2		講義	前·後	1			○			○	○			
	多様性と倫理		2		講義	前·後	1		○		○						
	持続可能な社会		2		講義	前·後	1		○							○	○
	くらしのなかの日本国憲法			2	講義	前·後	1・2・3	教員免許取得希望者は必修	○				○				○
	ボランティア論			2	講義	前·後	1・2・3		○		○			○			
	災害と社会			2	講義	前·後	2・3			○					○		
	21世紀型の教育			2	講義	前·後	2・3			○	○		○				
保健体育	身体運動Ⅰ		1		実技	前	1·2·3·4	1科目1単位履修「身体運動Ⅰ」を履修することが望ましい。教免及び保育士希望者は2科目2単位履修すること	○	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	○
	身体運動Ⅱ		1		実技	後	1·2·3·4		○	○	○	○	○	◎	○	○	○
ICT・データサイエンス	はじめてのデータサイエンス	2			講義	後	1										◎
	情報処理演習Ⅰ			1	演習	前	1		◎								
	情報処理演習Ⅱ			1	演習	後	1·2·3·4								◎		
外国語（基礎科目）	英語コミュニケーション演習	1			演習	前·後	1		○	◎		◎	○				
	英語Ⅰa		1		演習	前	1	12科目から1科目を選択必修 ただし、日本語を母国語としない者は、「総合日本語Ⅰa」「総合日本語Ⅰb」を履修すること 教員免許取得希望者は、「英語Ⅰa」「英語Ⅰb」、「中国語Ⅰa」「中国語Ⅰb」、「朝鮮語Ⅰa」「朝鮮語Ⅰb」、「フランス語Ⅰa」「フランス語Ⅰb」のいずれか2科目2単位を履修	◎	○	○						
	英語Ⅰb		1		演習	後	1		◎	○	○						
	英語Ⅱa		1		演習	前	2・3・4		◎	○	○			○	◎	○	
	英語Ⅱb		1		演習	後	2・3・4		◎	○	○			○	◎	○	
	中国語Ⅰa		1		演習	前	1		○	○		○	○	○			
	中国語Ⅰb		1		演習	後	1		○	○		○	○	○			
	中国語Ⅱa		1		演習	前	2・3・4		○	○		○	○	○			
	中国語Ⅱb		1		演習	後	2・3・4		○	○		○	○	○			
	朝鮮語Ⅰa		1		演習	前	1		○	○		○	○	○			
	朝鮮語Ⅰb		1		演習	後	1		○	○		○	○	○			
	フランス語Ⅰa		1		演習	前	1		○	○		○	○	○			
	フランス語Ⅰb		1		演習	後	1		○	○		○	○	○			
	海外語学研修			1	実習	前	1·2·3·4				○			○		○	○

科目区分	授業科目	単位数			授業形態	履修期	配当年次	備考	身につく力（◎…重要な目的としている　○…主な目的としている）									
		必修	選択必修	選択					資料読解・問題把握・資料探索	自己課題発見・解決への模索・省察	資料収集・資料分析・協働的課題追究	対話的検討・自力解決・協働的学修	協働的課題発見・協働的解決への試行・チームとしての省察	協働的資料収集・分析・協働的考察	実態把握・資料活用力・課題解決	実態と背景の把握・プレゼンテーション力	社会的課題の析出・解決方策の検討・協働的・実践的解決
外国語目的別科目	実践英語ａ			1	演習	前	2・3・4		○	◎		◎	○				
	実践英語ｂ			1	演習	後	2・3・4		○	◎		◎	○				
	アドバンスト・リスニング			2	講義	後	1・2・3・4		◎	○		◎	○		◎		
	アドバンスト・リーディング			2	講義	前・後	1・2・3・4		◎	○		◎	○		◎		
	アドバンスト・ライティング			2	講義	前・後	1・2・3・4		○	◎		◎	○			◎	
	ビジネス英語			2	講義	後	2・3・4		○	◎		◎	○			◎	
	映画・ドラマ英語			2	講義	前・後	2・3・4		◎	○		◎					
	メディア英語			2	講義	前	2・3・4		○	◎		◎	○		◎	○	
	TOEIC対策講座			2	講義	後	1・2・3・4		◎	○							
	中国語試験対策講座			2	講義	前	1・2・3・4								○	○	○
	日本語検定対策講座			2	講義	前・後	1・2・3・4								○	○	○
日本語（非母語者向）	総合日本語Ⅰａ			1	演習	前	1	※日本語を母国語としない者は、「総合日本語Ⅰａ」「総合日本語Ⅰｂ」を履修することただし、JLPTN1を取得している（なければ模擬試験）、かつ、教員が実施する課題をもって話す能力と書く能力がCEFRのC2レベルであると判断された者は、他の外国語を選択することができる。	○	○			○				
	総合日本語Ⅰｂ			1	演習	後	1		○	○			○				
	総合日本語Ⅱａ			1	演習	前	2		○	○			○				
	総合日本語Ⅱｂ			1	演習	後	2		○	○			○				
	総合日本語Ⅲａ			1	演習	前	3・4		○	○			○				
	総合日本語Ⅲｂ			1	演習	後	3・4		○	○			○				
	日本語表現技術Ⅰ			1	演習	前	1・2・3・4		○	○			○				
	日本語表現技術Ⅱ			1	演習	後	1・2・3・4		○	○			○				
	日本語表現技術Ⅲ			1	演習	前	1・2・3・4		○	○			○				
	日本語表現技術Ⅳ			1	演習	後	1・2・3・4		○	○			○				
	日本語研究Ａ（時事Ⅰ）			1	演習	前	1・2・3・4		○	○			○				
	日本語研究Ｂ（時事Ⅱ）			1	演習	前	1・2・3・4		○	○			○				
	日本語研究Ｃ（ビジネスⅠ）			1	演習	前	1・2・3・4		○	○			○				
	日本語研究Ｄ（ビジネスⅡ）			1	演習	後	1・2・3・4		○	○			○				
	日本語研究Ｅ（医療・福祉専門）			1	演習	後	1・2・3・4		○	○			○				
	日本語研究Ｆ（人文科学）			1	演習	後	1・2・3・4		○	○			○				
	日本語能力試験対策講座Ⅰ			1	演習	前	1・2・3・4								○	○	○
	日本語能力試験対策講座Ⅱ			1	演習	後	1・2・3・4								○	○	○
	日本語集中講座			1	演習	前	1・2・3・4								○	○	○
キャリア教育	キャリアデザイン入門	2			講義	前・後	2	学科ごとに異なる		○	◎	○	○	○	◎	◎	◎
	キャリアロールモデル研究			2	講義	後	2										○
	企業に学ぶキャリアデザイン			2	講義	前	2										○
	プロアクティブ人材育成			2	講義	後	2										○
	キャリアサポート演習			2	演習	通	3			○	◎	○		◎	◎	◎	◎
	キャリア基礎力Ⅰ			2	講義	前	2・3		◎	○	○						
	キャリア基礎力Ⅱ			2	講義	後	2・3		◎	○	○						
	インターンシップ短期			1	実習	前・後	1・2・3		○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	インターンシップ長期			2	実習	前・後	1・2・3		○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

1 人間生活学部　健康栄養学科

教育研究上の目的

健康栄養学科は、栄養学を基礎として、運動の分野及び食文化の分野に関する専門的知識や技術を習得するとともに、すべての人が生涯にわたり心身ともに健康で、自らの人生を主体的に設計し活躍していくための支援や相談を担う技能と態度を備え、さらに社会の中で健康生活を推進できるリーダーシップを有した人材を育成することを教育研究上の目的とする。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

健康栄養学科では、教育研究上の目的を達成するために、次の学生像を人材育成の方針とする。

1．栄養学を基盤として運動や食文化の分野に関する専門的知識や技能を備えている。
2．多様な価値観と向き合い他者を理解する力を備えている。
3．すべての人々が「健幸」な生活を送ることのできる社会を実現する力を備えている。

そのうえで、次の資質及び能力を有している者に「学士（栄養学）」の学位を授与する。

①知識・技能

1．栄養学を基盤として、運動と食文化に関する専門的な知識と技能を備えている。
2．栄養、運動、食文化に関する専門的知識に基づいて、適切な情報を発信できる。
3．社会における食と健康の課題を捉えることができる。

②思考力・判断力・表現力

1．栄養、運動、食文化について科学的思考により的確に判断し、自己の考えを表現できる。
2．栄養、運動、食文化に関する専門的知識に基づいて、他者の考えに協調し、理解しながらコミュニケーションをとることができる。
3．社会における食と健康の課題に対して、解決策を立案することができる。

③主体性・多様性・協働性

1．常に食と健康に関心を持ち、生涯にわたり意欲的に学び続ける資質を備えている。
2．栄養、運動、食文化に関する専門的知識に基づいて、多様な人々とのつながりや協働を生み出すことができる。
3．すべての人々が「健幸」な生活を送ることができる社会の実現に貢献することができる。

教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

健康栄養学科では、栄養学を基盤として、運動と食文化の分野における専門知識や技能を身につけ、理解することにより、すべての人々が心身ともに健康で幸福な生活を送る【健幸】のために、多様な人々とのつながりや協働を生み出すことができる人材を育成することが教育研究上の目的である。

1．栄養士養成の教育課程を基盤とし、運動や食文化の専門知識や技能を展開、統合して、社会の健康づくりに貢献できる人材育成のためのカリキュラムを編成する。
2．栄養領域では、健康づくりのスペシャリストとしての動機づけと意識を高めるための入門科目と、講義や実験・実習、校外実習科目を通して栄養学の基礎的知識と技術を修得し、栄養士として必要な資質や能力を培う。
3．健康運動領域・食文化領域では、演習、実技などの多様な科目を展開することで、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につける。
4．栄養領域に健康運動領域と食文化領域を展開、統合させ、総合的理解とキャリア意識の醸成を図る教育課程の編成とする。

そのための教育課程の編成方針は以下のとおりである。

栄養領域

1．栄養士として必要な基礎的知識と技能を修得させ、コミュニケーション能力を用いて健康づくりを実践させる。
2．栄養学を基礎として、健康に関わる情報を科学的な根拠を元に判断し、自分の考えをもとに自己表現する能力を育成する。
3．広い視野で社会の変化を捉え、健康に関して意欲的、継続的に学び、健康で活力ある生活を送る社会実現に向けて、多様な人々との協働を生み出す力を養う。

健康運動領域

1．すべての人々が生涯を通じて健康づくりのために必要な運動とその指導の基礎的知識と技術を修得させる。
2．運動と栄養に関わる問題を論理的に思考し、その対象に合った適切な運動プログラムを作成し、プレゼンテーション能力を育成する。
3．子どもから高齢者まで、あるいは障害者、アスリートなどすべての人々に対して、運動を通して、相互に関わりながら、幅広く主体的に健康支援できる力を養う。

食文化領域

1．食文化に関する基礎的知識の理解と多彩な料理や食事のスキルを修得させ、健康づくりのために必要な食生活の支援ができる力を養う。
2．食生活を栄養科学的、感性的、文化的に捉え、総合的に理解し、食の多様性や奥深さ、異文化への見識を深め、健康づくりの食を表現、発信する能力を育成する。
3．社会における食の役割を理解させ、実践活動と結びつけるために、深い洞察力、良識ある判断力、豊かな想像力を涵養し、人々の健康づくりに協働性をもって貢献できる能力を総合的に身につけさせる。

演習・卒業研究

1．研究活動に必要な専門知識を修得し、研究方法について理解させる。
2．自らの興味関心に基づいたテーマを設定し、科学的な知見から論理的・客観的に表現する能力を養う。
3．すべての人々が健康を享受する社会実現を目指し、多様な問題に対し主体的に課題解決する姿勢を養う。

カリキュラムマップでは、各学科の学生が、卒業までに身につけるべき知識・能力を得るための授業科目が、どのように配置されているか、各授業科目の関連性などがわかるようになっています。

カリキュラムの授業科目間のつながりや年次進行などがわかりますので、履修上の参考にしてください。

健康栄養学科　カリキュラムマップ

□ → 必修科目

領域	学生が身につけるべき資質・能力	1年次	2年次	3年次	4年次
栄養領域	・栄養士として必要な基礎的知識と技能を修得し、コミュニケーション能力を用いて健康づくりを実践できる。 ・栄養学を基礎として、健康に関わる情報を科学的な根拠を元に判断し、自分の考えをもとに自己表現することができる。 ・広い視野で社会の変化を捉え、健康に関して意欲的、継続的に学び、健康で活力ある生活を送る社会実現に向けて、多様な人々との協働を生み出すことができる。	統計学演習	公衆衛生学（衛生学を含む）	社会福祉概論	
		解剖生理学（解剖学を含む） 解剖生理学実験	生化学 生化学実験 運動生理学（生理学を含む） 病態生理学		
		食品学Ⅰ 食品学Ⅱ 食品学実験 食品衛生学	食品衛生学実験		
		基礎栄養学Ⅰ 基礎栄養学Ⅱ 基礎栄養学実験	応用栄養学 応用栄養学実習	臨床栄養学 臨床栄養学実習 食事療法演習	
			栄養指導論Ⅰ 栄養指導論Ⅱ 栄養指導論実習Ⅰ	栄養指導論実習Ⅱ 栄養教諭実践論 公衆栄養学概論	公衆栄養学実習
		調理学 基礎調理学実習Ⅰ 基礎調理学実習Ⅱ	応用調理学実習 食事計画論演習	給食計画・実務論 給食運営実習	給食運営校外実習 給食運営演習
				食とアレルギー サプリメント概論	健康食育論 分子栄養学 食品機能論
			栄養士実践演習		
健康運動領域	・すべての人々が生涯を通じて健康づくりのために必要な運動とその指導の基礎的知識と技術を修得することができる。 ・運動と栄養に関わる問題を論理的に思考し、その対象に合った適切な運動プログラムを作成し、プレゼンテーションできる。 ・子どもから高齢者まで、あるいは障害者、アスリートなどすべての人々に対して、運動を通して、相互に関わりながら、幅広く主体的に健康支援できる。	健康・運動・栄養の科学 女性のコンディショニング管理論	健康管理概論	健康保育概論 学校保健概論 健康介護概論	スポーツ栄養学（演習を含む） 障害者福祉論
			運動生理学実験 運動プログラム演習 運動の障害と予防 トレーナー学演習 体育原理（体育・スポーツ史を含む） 運動学（運動方法学を含む） 健康・スポーツ心理学 スポーツ社会学（スポーツ経営管理学を含む）	バイオメカニクス トレーニング論演習 体力測定・評価演習 スポーツ医学	コーチング論（演習を含む） 健康スポーツビジネス論
		スポーツ実技・指導法A（体つくり運動・体操） スポーツ実技・指導法C（水泳・陸上競技） スポーツ実技・指導法F（球技基礎）	スポーツ実技・指導法B（ダンス） スポーツ実技・指導法D（器械運動） スポーツ実技・指導法E（武道）	スポーツ実技・指導法G（ゴール型・ネット型） スポーツ実技・指導法H（ベースボール型・ニュースポーツ）	
			野外リクリエーション演習 救急・応急処置演習	健康運動指導演習	健康産業施設実習
			生涯スポーツ指導演習		
食文化領域	・食文化に関する基礎的知識の理解と多彩な料理や食事のスキルを修得し、健康づくりのために必要な食生活の支援ができる。 ・食生活を栄養科学的、感性的、文化的に捉え、総合的に理解し、食の多様性や奥深さ、異文化への見識を深め、健康づくりの食を表現、発信することができる。 ・社会における食の役割を理解し、実践活動と結びつけるために、深い洞察力、良識ある判断力、豊かな想像力を身につけ、人々の健康づくりに協働性をもって貢献できる。	食文化概論 食文化と健康 日本と世界の食文化 料理学	郷土と行事の食 食文化フィールドワーク	食農体験	嗜好品の文化（演習を含む）
			和食文化演習（身体的調理演習）Ⅰ 和食文化演習（身体的調理演習）Ⅱ 菓子・パンの文化演習 食品の調理加工学（演習を含む）	比較料理学（演習を含む） 西洋料理文化演習 中国料理文化演習	食の分析評価論（演習を含む） 現代の食文化事情
			美味学 献立と美味論（演習を含む）	おいしさの科学（演習を含む） 食とことば 食卓美学（演習を含む） 食行動の心理学	
				食のマーケティング（演習を含む） フードサービス論 フードマネージメント論（演習を含む） おもてなし・ホスピタリティ論（演習を含む） カラーコーディネート論（演習を含む）	フードコーディネート論 食の企画と演出（演習を含む） 食のマナー（演習含む）
演習・卒業研究	・研究活動に必要な専門知識を修得し、研究方法について理解し、説明することができる。 ・自らの興味関心に基づいたテーマを設定し、科学的な知見から論理的・客観的に表現することができる。 ・すべての人々が健康を享受する社会実現を目指し、多様な問題に対し主体的に課題解決する姿勢を持ち、解決策を立案する力を身につけることができる。			健康栄養学演習	卒業研究 健康栄養学総合演習

DP

健康栄養学科では、教育研究上の目的を達成するために、次の学生像を人材育成の方針とする。
1．栄養学を基盤として運動や食文化の分野に関する専門的知識や技能を備えている。
2．多様な価値観と向き合い他者を理解する力を備えている。
3．すべての人々が「健幸」な生活を送ることのできる社会を実現する力を備えている。

CP

健康栄養学科では、栄養学を基盤として、運動と食文化の分野における専門知識や技能を身につけ、理解することにより、すべての人々が心身ともに健康で幸福な生活を送る【健幸】のために、多様な人々とのつながりや協働を生み出すことができる人材を育成することが教育研究上の目的である。
1．栄養士養成の教育課程を基盤とし、運動や食文化の専門知識や技能を展開、統合して、社会の健康づくりに貢献できる人材育成のためのカリキュラムを編成する。
2．栄養領域では、健康づくりのスペシャリストとしての動機づけと意識を高めるための入門科目と、講義や実験・実習、校外実習科目を通して栄養学の基礎的知識と技術を修得し、栄養士として必要な資質や能力を培う。
3．健康運動領域・食文化領域では、演習、実技などの多様な科目を展開することで、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につける。
4．栄養領域に健康運動領域と食文化領域を展開、統合させ、総合的理解とキャリア意識の醸成を図る教育課程の編成とする。

1 人間生活学部　健康栄養学科（NA）
専門科目教育課程　2024年度生

科目群		卒業に必要な単位数	
共通科目		22単位以上	
学科専門科目	必修	14単位	90単位以上
	選択	76単位以上	
自由選択科目		12単位以上	
計		124単位以上	

- 共通科目から、必修科目９単位、選択必修科目６単位を含めた22単位以上を履修
- 専門科目から、必修科目14単位を含めた90単位以上を履修すること
- 選択科目は、健康運動コースは健康運動領域コース必修科目７単位、コース選択必修科目10単位以上を含めて履修し、食文化コースは、食文化領域のコース必須科目10単位、コース選択必修科目12単位以上を含めて履修すること
- 自由選択科目は、12単位以上を履修
- 合計124単位以上を履修

What's “自由選択科目”!?

a．共通科目22単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
例）共通科目28単位取得した場合は、６単位分が自由選択科目の単位となる。

b．自学科の専門選択科目76単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
例）自学科の専門選択科目84単位取得した場合は、８単位分が自由選択科目の単位となる

c．他学科の他学科開放科目を修得すると自由選択科目の単位となる。

a～cを組み合わせて（又は単独で）12単位以上を履修

科目区分		授業科目	単位数 必修	単位数 選択	授業形態	履修期	配当年次	他学科開放	備考	身につく力（◎…重要な目的としている ○…主な目的としている）基礎的知識と技能	科学的思考による判断と表現	主体的・継続的学修	情報発信力	コミュニケーション力	人々との協働	社会における問題の把握	社会における問題解決策の立案	社会における問題解決の実現
栄養領域	社会生活と健康	公衆衛生学（衛生学を含む）	2		講義	後	2年			◎	○	○	○	○		◎	○	◎
		統計学演習		2	演習	前	1年			◎	◎	○	◎			○		
		社会福祉概論		◆2	講義	前	3年			○		○	○		◎	○	◎	◎
	人体の構造と機能	解剖生理学（解剖学を含む）	2		講義	前	1年			◎	◎	◎	○				○	
		解剖生理学実験		◆1	実験	後	1年			○	◎	○	◎	○		◎		○
		生化学		◆2	講義	前	2年			◎	◎	◎	○					
		生化学実験		◆1	実験	後	2年			○	◎	○	◎	○		◎		○
		運動生理学（生理学を含む）		◆2	講義	前	2年			◎	◎	○	○			◎		
		病態生理学		◆2	講義	前	2年			◎	◎	○	○				○	
	食品と衛生	食品学Ⅰ	2		講義	前	1年			◎	○	◎	○			◎		○
		食品学Ⅱ		◆2	講義	後	1年			◎	○	◎	○			◎		○
		食品学実験		◆1	実験	後	1年			◎	◎	○	○	◎		○		
		食品衛生学	2		講義	後	1年			◎	○	○	◎	○		◎	○	
		食品衛生学実験		◆1	実験	前	2年			○	◎		◎	○		◎	○	○
	栄養と健康	基礎栄養学Ⅰ	2		講義	前	1年			◎	◎	○	○			◎		○
		基礎栄養学Ⅱ		◆2	講義	後	1年			◎	◎	○	○			◎		○
		基礎栄養学実験		◆1	実験	前	1年			○	◎	○	◎	○		◎		○
		応用栄養学		◆2	講義	前	2年			○		○	◎	◎	○	○	◎	○
		応用栄養学実習		◆1	実習	後	2年			○	◎	○	◎	○	○	○	○	◎
		臨床栄養学		◆2	講義	前	3年			◎	◎	○	○		○	◎	○	
		臨床栄養学実習		◆1	実習	後	3年			○	○	○	○	○	◎	○	◎	◎
		食事療法演習		2	演習	後	3年			○	○	○	○	◎	○	○	◎	◎
	栄養の指導	栄養指導論Ⅰ		◆2	講義	前	2年			◎	○	○	○	◎	○	○	◎	○
		栄養指導論Ⅱ		◆2	講義	後	2年			○	○	○	◎			◎	◎	○
		栄養指導論実習Ⅰ		◆1	実習	後	2年			◎	○	○	◎	○	○	◎	◎	○
		栄養指導論実習Ⅱ		◆1	実習	前	3年				○	○	◎	◎		○	○	◎
		公衆栄養学概論		◆2	講義	後	3年				◎	○		◎	○	○	◎	
		公衆栄養学実習		◆1	実習	前	4年					◎	○		◎	○	○	◎
		栄養教諭実践論		2	講義	前	3年			◎		○	○	○	◎	○		◎
	給食の運営	調理学	2		講義	前	1年			◎			◎	○		◎	○	
		基礎調理学実習Ⅰ		◆1	実習	前	1年			◎	◎	○		◎	○			○
		基礎調理学実習Ⅱ		◆1	実習	後	1年			◎	◎	○		◎	○			○
		応用調理学実習		1	実習	後	2年			◎	○	◎		○	◎			○
		給食計画・実務論		◆2	講義	前	3年			◎	◎	○	○		○	◎	○	○
		給食運営実習		◆1	実習	後	3年			○	○		◎	○	◎	○	◎	
		給食運営校外実習		◆1	実習	通	4年			○	○	○	○	◎	◎	○	○	◎
		給食運営演習		◆2	演習	通	4年			○	○	◎	○	○	○	◎	◎	○
		食事計画論演習		2	演習	前	2年			◎	◎		◎			○	○	
	発展科目	食とアレルギー		2	講義	後	3年			○	◎	○	○		○	◎	○	◎
		健康食育論		2	講義	前	4年	○			◎	○	◎	○		○	◎	○
		分子栄養学		2	講義	後	4年	○		○	◎	◎	○			◎	○	○
		食品機能論		2	講義	後	4年	○		○	◎	○	◎			◎	○	○
		サプリメント概論		2	講義	後	3年			○	◎	○	◎			◎	○	○
		栄養士実践演習		2	演習	前・後	2・3・4年			◎	○	◎	○			◎	○	

科目区分		授業科目	単位数 必修	単位数 選択	授業形態	履修期	配当年次	他学科開放	備考	身につく力（◎…重要な目的としている　○…主な目的としている）基礎的知識と技能	科学的思考による判断と表現	主体的・継続的学修	情報発信力	コミュニケーション力	人々との協働	社会における問題の把握	社会における問題解決策の立案	社会における問題解決の実現
健康運動領域	健康と運動	健康・運動・栄養の科学		2	講義・演習	前	1年		健康運動コース必修科目	◎	○		○	○		◎		
		健康管理概論		2	講義	前	2年		健康運動コース必修科目		◎	○	○	○	○	◎	◎	
		女性のコンディショニング管理論		2	講義	後	1年			◎	◎	○		○	○	◎	○	
		スポーツ栄養学（演習を含む）		2	講義・演習	前	4年		健康運動コース選択必修科目1科目2単位以上を履修すること	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○
		健康保育概論		2	講義	前	3年			○	○	◎	○	○	◎	◎	○	○
		学校保健概論		2	講義	前	3年						○	○	◎	◎	◎	○
		健康介護概論		2	講義	前	3年					○	○	○	◎	◎	○	◎
		障害者福祉論		2	講義	後	4年			○	○	◎	○	○	◎	◎	○	○
	運動・スポーツの科学	運動生理学実験		1	実験	後	2年		健康運動コース選択必修科目2科目4単位以上を履修すること		◎		◎				◎	
		バイオメカニクス		2	講義	前	3年			◎	○	◎		○	○	◎	○	
		トレーニング論演習		2	演習	後	3年				◎		◎		◎		○	○
		運動プログラム演習		2	演習	前	2年			◎	◎	○	◎	○	○	○	○	○
		体力測定・評価演習		2	演習	後	3年				◎		◎	○	○		◎	○
		スポーツ医学		2	講義	後	3年			◎	◎	◎	○			○	○	
		運動の障害と予防		2	講義	前	2年				◎		◎	○	○		○	◎
		トレーナー学演習		2	演習	前	2年				◎		◎	◎	○		○	○
		コーチング論（演習を含む）		2	講義・演習	前	4年				◎		◎	○	○			
		体育原理（体育・スポーツ史を含む）		2	講義	前	2年				◎		◎	○	○			◎
		運動学（運動方法学を含む）		2	講義	後	2年		健康運動コース選択必修科目1科目2単位以上を履修すること		◎		◎	◎				
		健康・スポーツ心理学		2	講義	後	2年				◎		◎	◎			○	
		スポーツ社会学（スポーツ経営管理学を含む）		2	講義	後	2年				◎		◎					◎
		健康スポーツビジネス論		2	講義	前	4年	○							◎		○	◎
	運動・スポーツの実践と指導	スポーツ実技・指導法A（体つくり運動・体操）		1	実習	前	1年		健康運動コース必修科目			◎			◎			◎
		スポーツ実技・指導法B（ダンス）		1	実習	後	2年		健康運動コース選択必修科目2科目2単位以上を履修すること			◎		○	◎			◎
		スポーツ実技・指導法C（水泳・陸上競技）		1	実習	前	1年			○	○	◎		◎	◎			○
		スポーツ実技・指導法D（器械運動）		1	実習	後	2年			○	○	◎		◎	◎			○
		スポーツ実技・指導法E（武道）		1	実習	後	2年			○	○	◎		◎	◎			○
		スポーツ実技・指導法F（球技基礎）		1	実習	後	1年			○	○	◎		◎	◎			○
		スポーツ実技・指導法G（ゴール型・ネット型）		1	実習	前	3年				◎	○		◎	◎			
		スポーツ実技・指導法H（ベースボール型・ニュースポーツ）		1	実習	後	3年			○	○	○		◎	◎			◎
		野外レクリエーション演習		1	演習	前	2年			○	○	◎		◎	◎		○	○
		救急・応急処置演習		2	演習	後	2年		健康運動コース必修科目		◎		◎	◎	○		○	○
		生涯スポーツ指導演習		2	演習	通	2・3・4年					◎		○	◎		○	◎
		健康産業施設実習		1	実習	後	4年						○	○	◎	◎	◎	◎
		健康運動指導演習		2	演習	後	3年					◎		○	◎		○	◎
食文化領域	食の文化	食文化概論		2	講義	前	1年		食文化コース必修科目	◎	○		◎		◎	○		
		食文化と健康		2	講義	前	1年		食文化コース必修科目	○	○	◎		◎		◎		
		日本と世界の食文化		2	講義	後	1年		食文化コース必修科目	◎	○		◎		◎	○		
		郷土と行事の食		2	講義	前	2年				◎	○	◎	◎	○			
		嗜好品の文化（演習を含む）		2	講義・演習	前	4年			○		◎	◎	○				◎
		食文化フィールドワーク		1	演習	後	2年				○	○		◎	○	◎		◎
		食農体験		1	演習	前	3年				○		◎	○	◎	◎		○
	現代の食事文化	料理学		2	講義	後	1年		食文化コース必修科目	◎	◎	◎			○			
		比較料理学（演習を含む）		2	講義・演習	後	3年				◎	○	◎			○	◎	
		食の分析評価論（演習を含む）		2	講義・演習	後	4年						◎	○	○	○	◎	◎
		和食文化演習（身体的調理演習）Ⅰ		2	講義・演習	前	2年		食文化コース選択必修科目2科目4単位以上を履修すること	○	○	◎	◎	○	◎			
		和食文化演習（身体的調理演習）Ⅱ		2	講義・演習	後	2年			○	○	◎	◎	○	◎			
		西洋料理文化演習		2	講義・演習	後	3年			○	○	◎	◎	○	◎			
		中国料理文化演習		2	講義・演習	前	3年			○	○	◎	◎	○	◎			
		菓子・パンの文化演習		2	講義・演習	後	2年			○	○	○	○	○	◎			○
		食品の調理加工学（演習を含む）		2	講義・演習	前	2年			◎		◎	○	◎				○
		現代の食文化事情		2	講義	後	4年				○	○		○	○	◎	◎	◎
	食の美学	美味学		2	講義	前	2年		食文化コース必修科目		◎	◎	○	○		◎		○
		おいしさの科学（演習を含む）		2	講義・演習	前	3年		食文化コース選択必修科目2科目4単位以上を履修すること	○	○		◎	◎		○	◎	
		食とことば		2	講義	後	3年				○	○	◎	◎	○			○
		食卓美学（演習を含む）		2	講義・演習	後	3年				○	◎		◎	○	◎		○
		献立と美味論（演習を含む）		2	講義・演習	後	2年				◎	○		◎			◎	○
		食行動の心理学		2	講義	後	3年				◎			◎	○		◎	
	食のビジネス	食のマーケティング（演習を含む）		2	講義・演習	後	3年		食文化コース選択必修科目2科目4単位以上を履修すること			○	◎			◎	◎	
		フードサービス論		2	講義	前	3年				○	○			◎	○	◎	◎
		フードコーディネート論		2	講義	前	4年						◎		◎		○	◎
		フードマネージメント論（演習を含む）		2	講義・演習	前	3年						◎	◎	○		◎	
		食の企画と演出（演習を含む）		2	講義・演習	前	4年						◎	○	◎		◎	○
		おもてなし・ホスピタリティ論（演習を含む）		2	講義・演習	後	3年							○	◎	◎		◎
		カラーコーディネート論（演習を含む）		2	講義・演習	前	3年					◎	◎	○			○	○
		食のマナー（演習を含む）		2	講義・演習	後	4年			◎		◎		○	◎			○
演習・卒業研究		健康栄養学演習		4	演習	通	3年				◎	○	○	◎		○	◎	
		卒業研究		4	演習	通	4年				◎	○	○	◎		○	◎	
		健康栄養学総合演習	2		演習	後	4年				○	◎		○		○	◎	◎

［単位数欄の記号について］
註：単位数欄にある◆印は選択科目であるが、栄養士免許状を取得するためにはすべて履修しなければならない。

［卒業するための要件について］
註１：本学が定める「履修登録単位数の制限」を踏まえ、以下の２つの条件を満たさない場合は、原則として４年間での卒業はできないものとする。
①３年次終了時の修得単位数が卒業要件科目のうち76単位以上であること。
②３年次終了時に次の科目を修得していること。
「解剖生理学（解剖学を含む）」「食品学Ⅰ」「食品学Ⅱ」「食品衛生学」「基礎栄養学Ⅰ」「基礎栄養学Ⅱ」「調理学」

1 栄養士養成 教育課程（健康栄養学科）

[健康栄養学科2024年度生]

栄養士を取得する者は、下表の33科目52単位をすべて修得してください。

規定科目	規定単位数 講義又は演習	規定単位数 実験又は実習	本学開設科目	授業形態	単位数 講義又は演習	単位数 実験又は実習	分類	履修期	配当学年	備　考
社会生活と健康	4	4	公衆衛生学（衛生学を含む）	講義	2		専門科目	後期	2	
			社会福祉概論	講義	2		専門科目	前期	3	
社会生活と健康	8		解剖生理学（解剖学を含む）	講義	2		専門科目	前期	1	
			解剖生理学実験	実験		1	専門科目	後期	1	
			生化学	講義	2		専門科目	前期	2	
			生化学実験	実験		1	専門科目	後期	2	
			運動生理学（生理学を含む）	講義	2		専門科目	前期	2	
			病態生理学	講義	2		専門科目	前期	2	
食品と衛生	6		食品学Ⅰ	講義	2		専門科目	前期	1	
			食品学Ⅱ	講義	2		専門科目	後期	1	
			食品学実験	実験		1	専門科目	後期	1	
			食品衛生学	講義	2		専門科目	後期	1	
			食品衛生学実験	実験		1	専門科目	前期	2	
栄養と健康	8	10	基礎栄養学Ⅰ	講義	2		専門科目	前期	1	
			基礎栄養学Ⅱ	講義	2		専門科目	後期	1	
			基礎栄養学実験	実験		1	専門科目	前期	1	
			応用栄養学	講義	2		専門科目	前期	2	
			応用栄養学実習	実習		1	専門科目	後期	2	
			臨床栄養学	講義	2		専門科目	前期	3	
			臨床栄養学実習	実習		1	専門科目	後期	3	
栄養の指導	6		栄養指導論Ⅰ	講義	2		専門科目	前期	2	
			栄養指導論Ⅱ	講義	2		専門科目	後期	2	
			栄養指導論実習Ⅰ	実習		1	専門科目	後期	2	
			栄養指導論実習Ⅱ	実習		1	専門科目	前期	3	
			公衆栄養学概論	講義	2		専門科目	後期	3	
			公衆栄養学実習	実習		1	専門科目	前期	4	
給食の運営	4		調理学	講義	2		専門科目	前期	1	
			基礎調理学実習Ⅰ	実習		1	専門科目	前期	1	
			基礎調理学実習Ⅱ	実習		1	専門科目	後期	1	
			給食計画・実務論	講義	2		専門科目	前期	3	
			給食運営実習	実習		1	専門科目	後期	3	
			給食運営校外実習	実習		1	専門科目	通年	4	
			給食運営演習	演習	2		専門科目	通年	4	
小　計	36	14	小　計		38	14				
合　計	50		合　計		52					

註：履修に関しては学科の指示に従ってください。

2　健康運動指導士 教育課程（健康栄養学科）

[健康栄養学科2024年度生]

健康運動指導士を取得する者は、下表の16科目26単位をすべて修得してください。

本学開設科目	授業形態	単位数		分類	履修期	配当学年	備　考
		必修	選択				
健康管理概論	講義	2		学科専門	前期	2	
病態生理学	講義	2		学科専門	前期	2	
運動生理学（生理学を含む）	講義	2		学科専門	前期	2	
バイオメカニクス	講義	2		学科専門	前期	3	
トレーニング論演習	演習	2		学科専門	後期	3	
運動の障害と予防	講義	2		学科専門	前期	2	
体力測定・評価演習	演習	2		学科専門	後期	3	
健康運動指導演習	演習	2		学科専門	後期	3	
スポーツ実技・指導法Ａ（体つくり運動・体操）	実習	1		学科専門	前期	1	
スポーツ実技・指導法Ｃ（水泳・陸上競技）	実習	1		学科専門	前期	1	
健康産業施設実習	実習	1		学科専門	後期	4	
救急・応急処置演習	演習	2		学科専門	前期	2	
運動プログラム演習	演習	2		学科専門	後期	2	
運動生理学実験	実験	1		学科専門	後期	2	
健康・スポーツ心理学	講義	2		学科専門	後期	2	
小　　計		26					

註：履修に関しては学科の指示に従ってください。

3　高齢者体力つくり支援士 教育課程（健康栄養学科）

[健康栄養学科2024年度生]

高齢者体力つくり支援士を取得する者は、下表の９科目13単位をすべて修得してください。

本学開設科目	授業形態	単位数		分類	履修期	配当学年	備　考
		必修	選択				
病態生理学	講義	2		学科専門	前期	2	
運動生理学（生理学を含む）	講義	2		学科専門	前期	2	
体力測定・評価演習	演習	2		学科専門	後期	3	
健康運動指導演習	演習	2		学科専門	後期	3	
スポーツ実技・指導法Ａ（体つくり運動・体操）	実習	1		学科専門	前期	1	
スポーツ実技・指導法Ｂ（ダンス）	実習	1		学科専門	後期	2	
スポーツ実技・指導法Ｃ（水泳・陸上競技）	実習	1		学科専門	前期	1	
健康・スポーツ心理学	講義	2		学科専門	後期	2	
小　　計		13					

註：履修に関しては学科の指示に従ってください。

4 フードコーディネーター３級 教育課程（健康栄養学科）

[健康栄養学科2024年度生]

フードコーディネーター３級を取得する者は、下表の13科目23単位をすべて修得してください。

本学開設科目	授業形態	単位数		分類	履修期	配当学年	備　考
		必修	選択				
食文化概論	講義	2		学科専門	前期	1	
食品学Ⅰ	講義	2		学科専門	前期	1	
食品学Ⅱ	講義	2		学科専門	後期	1	
食品衛生学	講義	2		学科専門	後期	1	
基礎栄養学Ⅰ	講義	2		学科専門	前期	1	
基礎栄養学Ⅱ	講義	2		学科専門	後期	1	
調理学	講義	2		学科専門	前期	1	
基礎調理学実習Ⅰ	実習	1		学科専門	前期	1	
基礎調理学実習Ⅱ	実習	1		学科専門	後期	1	
給食運営実習	実習	1		学科専門	後期	3	
フードコーディネート論	講義	2		学科専門	前期	4	
フードマネージメント論（演習を含む）	講義	2		学科専門	前期	3	
食の企画と演出（演習を含む）	講義・演習	2		学科専門	前期	4	
小　　計		23					

註：履修に関しては学科の指示に従ってください。

2 人間生活学部　食物栄養学科

教育研究上の目的

食物栄養学科は、人間栄養学に基づいた食・栄養・健康に関する専門的知識・技能と企画力・実践力を備え、人々の生涯にわたる健康と幸福の実現のために社会に貢献できる人間性豊かな食・栄養・健康の専門家を養成することを教育研究上の目的とする。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

食物栄養学科では、教育研究上の目的を達成するために、次の学生像を人材育成の方針とする。

1．科学的根拠に基づく食・栄養・健康に対する識見を備え、人々の【健幸】の実現に寄与できる力を備えている。
2．関係者と連携・協働して、一人一人により添った適切な栄養管理・栄養教育を実践できる力を備えている。
3．食・栄養・健康の問題を解決するために、社会的視野と倫理観をもった栄養の専門職として取り組むことができる力を備えている。

そのうえで、次の資質及び能力を有している者に「学士（栄養学）」の学位を授与する。

①知識・技能

1．食・栄養・健康に関する科学的な根拠に基づいた基礎知識、専門知識を修得している。
2．食を通してヒトをみる専門家として、一人一人の主体性を尊重したコミュニケーションを図る力を備えている。
3．社会の構造や変化を理解し、食・栄養・健康に関わる問題を発見する力を有している。

②思考力・判断力・表現力

1．食・栄養・健康に関心を持ち、科学的に思考・判断・表現する力を備えている。
2．食を通してヒトをみる専門家として、広い視野と豊かな人間性を備え、一人一人の多様な価値観やニーズを理解する力を有している。
3．食・栄養・健康に関わる問題に対して、倫理観を持った専門職業人として、解決策を立案する力を有している。

③主体性・多様性・協働性

1．向上心をもち主体的に行動する意欲と態度を身につけ、生涯にわたり研鑽していく態度を有している。
2．対象者の主体的な意思決定を尊重し、関係者と連携・協働して栄養管理に取り組む力を有している。
3．食・栄養・健康の諸課題の解決にむけて、使命感をもって実践する力を備えている。

教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

食物栄養学科では、人間栄養学を基盤とする食・栄養・健康の専門知識・技能を有し、健康や食生活の問題に取り組み、的確な栄養管理ができる人材の育成を教育研究上の目的としている。そのため、基礎的な内容から総合的・統合的な内容へ、順次学修を発展させるカリキュラムとして、専門基礎領域・応用領域・展開領域・実践領域の４領域を設定している。

専門基礎領域；社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康
応　用　領　域；基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論
展　開　領　域；臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論・複合展開科目
実　践　領　域；総合演習、臨地実習、卒業研究

さらに各領域には、食物栄養関連科目として、より専門性の高い講義や演習科目を配置する。

そのための教育課程の編成方針は以下のとおりである。

社会・環境と健康

1．公衆衛生学、健康管理概論、健康情報処理実習、社会福祉概論分野における専門的な知識・技術を修得する。
2．社会の構造や保健・医療・福祉制度を理解し、統計資料や健康情報をとおして、健康の維持・増進や疾病

予防に役立てる考え方を身につける。
3．将来のリーダーとなるために、主体的に学び、他者と協力しながら物事を進められるスキルを身につける。

人体の構造と機能及び疾病の成り立ち

1．解剖生理学、運動生理学、人間生物化学、医学概論、病態生理学、系統別疾病学、病原物質・微生物学分野における専門的な知識・技術を修得する。
2．人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて、科学的視点から説明することができる。
3．専門職として必要な倫理観を理解し、主体的に学び続ける意欲と態度を身につける。

食べ物と健康

1．食品学、調理学、食品衛生学分野における専門的な知識・技術を修得する。
2．食べ物と健康分野における基礎知識に基づき、実験・実習を通して食品の利用法や食の安全について、科学的視点から説明することができる。
3．専門職としての能力を修得するために、常に新しい知識を主体的に学び続ける意欲と態度を身につける。

基礎栄養学

1．基礎栄養学分野における専門的な知識・技術を修得する。
2．栄養の基本的概念、栄養素の代謝とその生理的意義等について、科学的視点を持って説明することができる。
3．専門職としての能力を修得するために、主体的に学び続ける意欲と態度を身につける。

応用栄養学

1．応用栄養学分野における専門的な知識・技術を修得する。
2．食事摂取基準策定の考え方を理解し、各ライフステージにおける栄養状態や心身機能の特徴に基づいた栄養管理について説明することができる。
3．一人一人に合わせた栄養ケア・マネジメントを実践するために、専門職として生涯にわたり研鑽する態度を身につける。

栄養教育論

1．栄養教育分野における専門的な知識・技術を修得し、対象者の主体性を尊重したコミュニケーションを図ることができる。
2．対象者の多様な価値観やニーズを理解し、問題の解決策を立案し支援することができる。
3．使命感をもって栄養教育を実践する力と、専門職として生涯にわたり研鑽する態度を身につける。

臨床栄養学

1．傷病者及び要介護者に対する栄養管理に関する専門的な知識・技術を修得する。
2．専門職として高い倫理観を備え、傷病者及び要介護者の栄養に関連した問題に対して論理的に思考し、適切な解決策を提案する能力を養う。
3．傷病者及び要介護者一人一人の多様性を理解し、個々人の疾患・病態や栄養状態、心身機能の特徴に応じた適切な栄養管理を他者と協調しながら主体的に取り組む力を習得する。

公衆栄養学

1．公衆栄養学分野における専門的な知識・技術を修得する。
2．地域診断を通じた地域・集団における人々の健康・栄養状態及び社会・生活環境の特徴に基づいた問題の解決策を立案する力を身につける。
3．地域や社会の栄養に関連した問題に対して、主体的に地域の関係者と連携・協働して公衆栄養活動に取り組む力を養う。

給食経営管理論

1．給食の運営及び給食経営管理における専門的な知識・技術を修得する。
2．給食の運営及び給食経営管理に関わる問題に対して、科学的に思考・判断し、解決策を立案する力を身につける。
3．対象者の多様な価値観やニーズを理解し、主体的に関係者と連携・協働して給食のマネジメントを実践する技術と能力を身につける。

総合演習

1．各領域で学んだ知識を統合して、管理栄養士に求められる実践的な知識、技能を修得する。
2．実践活動の場での課題の発見・解決を思考・判断する力、実習終了後に臨地実習で取り組んだことや学ん

だことをまとめ、発表する技術を習得する。
3．臨地実習において主体的に学ぶ姿勢、多職種協働を理解し、管理栄養士として研鑽する意欲と態度を養う。

臨地実習

1．管理栄養士が果たすべき多様な専門領域に関する基本となる能力を養い、他職種や対象者とのコミュニケーションを図ることのできる力を身につける。
2．管理栄養士として必要な専門的な知識と技術を統合し、実践活動の場での課題発見、問題解決のための思考を修得する。
3．管理栄養士として社会に貢献する視点を育み、課題解決にむけて使命感をもって実践する力を身につけ、生涯にわたり研鑽する意欲と態度を養う。

卒業研究

1．科学的議論を通して、研究やプレゼンテーション能力を養う。
2．自ら設定した課題について、科学的な手法を用いて分析を行い、客観的かつ論理的に表現する能力を身につける。
3．食と栄養を通し、人々の健康に貢献するため、課題解決能力と実践力を修得し、生涯にわたり研鑽する意欲と態度を養う。

食物栄養関連科目

1．高い専門性の基盤となる幅広い知識、また多分野にまたがる食・栄養・健康問題について国際的な視点とともに見識を広げ、管理栄養士が果たす役割を多角的に理解することができる。
2．食・栄養・健康問題に関する人々の多様な価値観やニーズを理解し、管理栄養士として具体的な解決策を提案する能力を習得する。
3．複雑化した社会における食・栄養・健康問題に対し、管理栄養士の専門性を発揮しながら分野を超えて連携･協働･調整し、解決に導く力を習得する。

カリキュラムマップでは、各学科の学生が、卒業までに身につけるべき知識・能力を得るための授業科目が、どのように配置されているか、各授業科目の関連性などがわかるようになっています。

カリキュラムの授業科目間のつながりや年次進行などがわかりますので、履修上の参考にしてください。

食物栄養学科　カリキュラムマップ

（網掛け）→ 必修科目

領域	分野	学生が身につけるべき資質・能力	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期
専門基礎領域	社会・環境と健康	1．公衆衛生学、健康管理概論、健康情報処理実習、社会福祉概論分野における専門的な知識・技術を修得する。 2．社会の構造や保健・医療・福祉制度を理解し、統計資料や健康情報をとおして、健康の維持・増進や疾病予防に役立てる考え方を身につける。 3．将来のリーダーとなるために、主体的に学び、他者と協力しながら物事を進められるスキルを身につける。	公衆衛生学 人間栄養学概論＊	公衆衛生学実験 社会福祉概論	健康管理概論 健康情報処理実習					
専門基礎領域	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	1．解剖生理学、運動生理学、人間生物化学、医学概論、病態生理学、系統別疾病学、病原物質・微生物学分野における専門的な知識・技術を修得する。 2．人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて、科学的視点から説明することができる。 3．専門職として必要な倫理観を理解し、主体的に学び続ける意欲と態度を身につける。		解剖生理学 人間生物化学	解剖生理学実験 医学概論	人間生活生理学 人間生物化学実験 病態生理学	運動生理学 栄養化学 系統別疾病学 病原物質・微生物学	分子栄養学＊ 微生物学実験		
専門基礎領域	食べ物と健康	1．食品学、調理学、食品衛生学分野における専門的な知識・技術を修得する。 2．食べ物と健康分野における基礎知識に基づき、実験・実習を通して食品の利用法や食の安全について、科学的視点から説明することができる。 3．専門職としての能力を修得するために、常に新しい知識を主体的に学び続ける意欲と態度を身につける。	食品学Ⅰ 生物有機化学＊ 調理学 調理学実習Ⅰ	食品学Ⅱ 食品化学実験 食品衛生学 調理学実習Ⅱ 食物栄養学概論 食事計画論Ⅰ（演習を含む）＊	食品加工学 食品加工学実習 食品衛生学実験 食事計画論Ⅱ（演習を含む）＊	調理学実習Ⅲ(実験を含む) 食文化論＊		食品の官能評価・鑑別論＊ 食品化学 食品機能論＊ 調理学実習Ⅳ	食薬理学＊ 食生活論＊	
応用領域	基礎栄養学	1．基礎栄養学分野における専門的な知識・技術を修得する。 2．栄養の基本的概念、栄養素の代謝とその生理的意義等について、科学的視点を持って説明することができる。 3．専門職としての能力を修得するために、主体的に学び続ける意欲と態度を身につける。	基礎栄養学 基礎栄養学実験	栄養学						
応用領域	応用栄養学	1．応用栄養学分野における専門的な知識・技術を修得する。 2．食事摂取基準策定の考え方を理解し、各ライフステージにおける栄養状態や心身機能の特徴に基づいた栄養管理について説明することができる。 3．一人一人に合わせた栄養ケア・マネジメントを実践するために、専門職として生涯にわたり研鑽する態度を身につける。			応用栄養学Ⅰ	応用栄養学Ⅱ	応用栄養学実習		応用栄養学Ⅲ 食育論＊ スポーツ栄養学＊ スポーツコーチング論＊	
応用領域	栄養教育論	1．栄養教育分野における専門的な知識・技術を修得し、対象者の主体性を尊重したコミュニケーションを図ることができる。 2．対象者の多様な価値観やニーズを理解し、問題の解決策を立案し支援することができる。 3．使命感をもって栄養教育を実践する力と、専門職として生涯にわたり研鑽する態度を身につける。			栄養教育論Ⅰ	栄養教育論Ⅱ 栄養教育論実習Ⅰ	栄養教育論実習Ⅱ	カウンセリング論(演習を含む)		
展開領域	給食経営管理論	1．給食の運営及び給食経営管理における専門的な知識･技術を修得する。 2．給食の運営及び給食経営管理に関わる問題に対して、科学的に思考・判断し、解決策を立案する力を身につける。 3．対象者の多様な価値観やニーズを理解し、主体的に関係者と連携・協働して給食のマネジメントを実践する技術と能力を身につける。			給食経営管理論Ⅰ	給食経営管理論Ⅱ	給食経営管理論実習			
展開領域	臨床栄養学	1．傷病者及び要介護者に対する栄養管理に関する専門的な知識・技術を修得する。 2．専門職として高い倫理観を備え、傷病者及び要介護者の栄養に関連した問題に対して論理的に思考し、適切な解決策を提案する能力を養う。 3．傷病者及び要介護者一人一人の多様性を理解し、個々人の疾患・病態や栄養状態、心身機能の特徴に応じた適切な栄養管理を他者と協調しながら主体的に取り組む力を習得する。				臨床栄養学Ⅰ	臨床栄養学Ⅱ 臨床栄養学実習Ⅰ	臨床栄養学Ⅲ 臨床栄養学実習Ⅱ	臨床栄養学Ⅳ	
展開領域	公衆栄養学	1．公衆栄養学分野における専門的な知識・技術を修得する。 2．地域診断を通じた地域･集団における人々の健康･栄養状態及び社会･生活環境の特徴に基づいた問題の解決策を立案する力を身につける。 3．地域や社会の栄養に関連した問題に対して、主体的に地域の関係者と連携・協働して公衆栄養活動に取り組む力を養う。					公衆栄養学Ⅰ 栄養疫学（演習を含む）＊	公衆栄養学Ⅱ 公衆栄養学実習	多職種連携論（演習を含む）＊ 国際栄養学＊ 管理栄養士のための経営学＊	
実践領域	総合演習	1．各領域で学んだ知識を統合して、管理栄養士に求められる実践的な知識、技能を修得する。 2．実践活動の場での課題の発見・解決を思考・判断する力、実習終了後に臨地実習で取り組んだことや学んだことをまとめ、発表する技術を習得する。 3．臨地実習において主体的に学ぶ姿勢、多職種協働を理解し、管理栄養士として研鑽する意欲と態度を養う。					総合演習Ⅰ		総合演習Ⅱ	総合演習Ⅱ
実践領域	臨地実習	1．管理栄養士が果たすべき多様な専門領域に関する基本となる能力を養い、他職種や対象者とのコミュニケーションを図ることのできる力を身につける。 2．管理栄養士として必要な専門的な知識と技術を統合し、実践活動の場での課題発見、問題解決のための思考を修得する。 3．管理栄養士として社会に貢献する視点を育み、課題解決にむけて使命感をもって実践する力を身につけ、生涯にわたり研鑽する意欲と態度を養う。					給食運営臨地実習	給食運営臨地実習	給食経営管理臨地実習 臨床栄養臨地実習Ⅰ 臨床栄養臨地実習Ⅱ 公衆栄養臨地実習 専門分野臨地実習	給食経営管理臨地実習 臨床栄養臨地実習Ⅰ 臨床栄養臨地実習Ⅱ 公衆栄養臨地実習
実践領域	卒業研究	1．科学的議論を通して、研究やプレゼンテーション能力を養う。 2．自ら設定した課題について、科学的な手法を用いて分析を行い、客観的かつ論理的に表現する能力を身につ付ける。 3．食と栄養を通し、人々の健康に貢献するため、課題解決能力と実践力を修得し、生涯にわたり研鑽する意欲と態度を養う。					食物栄養学演習＊	食物栄養学演習＊	卒業研究	

DP

食物栄養学科では、教育研究上の目的を達成するために、次の学生像を人材育成の方針とする。
1．科学的根拠に基づく食・栄養・健康に対する識見を備え、人々の【健幸】の実現に寄与できる力を備えている。
2．関係者と連携・協働して、一人一人により添った適切な栄養管理・栄養教育を実践できる力を備えている。
3．食・栄養・健康の問題を解決するために、社会的視野と倫理観をもった栄養の専門職として取り組むことができる力を備えている。

CP

食物栄養学科では、人間栄養学を基盤とする食・栄養・健康の専門知識・技能を有し、健康や食生活の問題に取り組み、的確な栄養管理ができる人材の育成を教育研究上の目的としている。そのため、基礎的な内容から総合的・統合的な内容へ、順次学修を発展させるカリキュラムとして、専門基礎領域・応用領域・展開領域・実践領域の４領域を設定している。
専門基礎領域；社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康
応　用　領　域；基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論
展　開　領　域；臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論
実　践　領　域；総合演習、臨地実習、卒業研究
さらに食物栄養関連科目として、より専門性の高い講義や演習科目を配置する。

＊教育課程表の食物栄養関連科目
1．高い専門性の基盤となる幅広い知識、また多分野にまたがる食・栄養・健康問題について国際的な視点とともに見識を広げ、管理栄養士が果たす役割を多角的に理解することができる。
2．食・栄養・健康問題に関する人々の多様な価値観やニーズを理解し、管理栄養士として具体的な解決策を提案する能力を習得する。
3．複雑化した社会における食・栄養・健康問題に対し、管理栄養士の専門性を発揮しながら分野を超えて連携・協働・調整し、解決に導く力を習得する。

2 人間生活学部　食物栄養学科（NB）
専門科目教育課程　2024年度生

科目群		卒業に必要な単位数	
共通科目		22単位以上	
学科専門科目	必修	38単位	90単位以上
	選択	52単位以上	
自由選択科目		12単位以上	
計		124単位以上	

- 共通科目から、必修科目９単位、選択必修科目６単位を含めた22単位以上を履修
- 専門科目から、必修科目38単位（卒業研究を含む）を含めた90単位以上を履修
- 自由選択科目は、12単位以上を履修
- 合計124単位以上を履修

What's “自由選択科目”!?

a．共通科目22単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
例）共通科目28単位取得した場合は、６単位分が自由選択科目の単位となる。

b．自学科の専門選択科目52単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
例）自学科の専門選択科目60単位取得した場合は、８単位分が自由選択科目の単位となる

c．他学科の他学科開放科目を修得すると自由選択科目の単位となる。

a～cを組み合わせて（又は単独で）12単位以上を履修

科目区分		授業科目	単位数 必修	単位数 選択	授業形態	履修期	配当年次	他学科開放	備考	身につく力（◎…重要な目的としている ○…主な目的としている）食・栄養・健康の基礎知識 専門知識	科学的な思考・判断	主体的・継続的学修	コミュニケーション力	多様性の理解	関係者と連携・協働して栄養管理に取り組む力	問題発見力	専門職としての解決策の立案	課題解決にむけた態度
専門基礎領域	社会・環境と健康	健康管理概論		※2	講義	前	2年	×			◎			◎				
		公衆衛生学	2		講義	前	1年	×		◎							◎	
		公衆衛生学実験		※1	実験	後	1年	×				◎			◎			
		健康情報処理実習	1		実習	前	2年	×			◎						◎	
		社会福祉概論		※※2	講義	後	1年	×						◎	◎			
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	解剖生理学	2		講義	後	1年	×		◎								
		解剖生理学実験		※※1	実験	前	2年	×			◎							
		運動生理学		2	講義	前	3年	×		◎								
		人間生物化学	2		講義	後	1年	×		◎								
		人間生物化学実験		※※1	実験	後	2年	×		◎	◎							
		人間生活生理学		※※2	講義	後	2年	×		◎								
		栄養化学		2	講義	前	3年	×		◎								
		医学概論	2		講義	前	2年	×		◎	◎	◎				○		
		病態生理学		※※2	講義	後	2年	×		◎	◎	◎				○		
		系統別疾病学		※2	講義	前	3年	×		◎	◎	◎				○		
		病原物質・微生物学		※2	講義	前	3年	×		◎								
		微生物学実験		※1	実験	後	3年	×	△		◎							
	食べ物と健康	食物栄養学概論		※2	講義	後	1年	×		◎		◎						
		食品学Ⅰ	2		講義	前	1年	×		◎				○		◎		
		食品学Ⅱ	2		講義	後	1年	×		◎				○		○		
		食品化学		2	講義	後	3年	×		◎				○		○		
		食品化学実験		※※1	実験	後	1年	×		◎			○	○		◎		
		食品加工学		※※1	講義	後	2年	×		◎			○	○		◎		
		食品加工学実習		※1	実習	前	2年	×		◎			○	○		◎		
		調理学	2		講義	前	1年	×		◎	◎							
		調理学実習Ⅰ	1		実習	前	1年	×		◎		◎	○					
		調理学実習Ⅱ	1		実習	後	1年	×		◎	◎		○					
		調理学実習Ⅲ（実験を含む）		※1	実習	後	2年	×		◎	◎		○			○		
		調理学実習Ⅳ		1	実習	後	3年	×				◎	○					
		食品衛生学		※※2	講義	後	1年	×		◎				○		○		
		食品衛生学実験		※※1	実験	前	2年	×		◎			○			◎		
応用領域	基礎栄養学	基礎栄養学	2		講義	前	1年	×		◎								
		栄養学	2		講義	後	1年	×		◎								
		基礎栄養学実験		※※1	実験	前	1年	×		◎	◎							
	応用栄養学	応用栄養学Ⅰ	2		講義	前	2年	×		◎				○		○		
		応用栄養学Ⅱ		※2	講義	後	2年	×		◎				○		○		
		応用栄養学Ⅲ		※2	講義	前	4年	×		◎				○				
		応用栄養学実習		※※1	実習	前	3年	×	△		◎		○	○			◎	○
	栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	2		講義	前	2年	×					○	◎	◎	○		
		栄養教育論Ⅱ		※※2	講義	後	2年	×					◎			○	◎	○
		栄養教育論実習Ⅰ		※※1	実習	後	2年	×			○	○		◎		◎		○
		栄養教育論実習Ⅱ		※※1	実習	前	3年	×	△		○	○			◎		◎	○
		カウンセリング論（演習を含む）		※2	講義・演習	後	3年	×	△			○	◎	◎	○			

科目区分		授業科目	単位数 必修	単位数 選択	授業形態	履修期	配当年次	他学科開放	備考	身につく力（◎…重要な目的としている　○…主な目的としている）食・栄養・健康の基礎知識 専門知識	科学的な思考・判断	主体的・継続的学修	コミュニケーション力	多様性の理解	関係者と連携・協働して栄養管理に取り組む力	問題発見力	専門職としての解決策の立案	課題解決にむけた態度
展開領域	臨床栄養学	臨床栄養学Ⅰ	2		講義	後	2年	×		◎	○			○		○		
		臨床栄養学Ⅱ		※※2	講義	前	3年	×		◎	○			○		◎	○	
		臨床栄養学Ⅲ		※2	講義	後	3年	×		◎	○			○		◎	○	
		臨床栄養学Ⅳ		※2	講義	前	4年	×	△	◎		○		○		◎	○	
		臨床栄養学実習Ⅰ		※※1	実習	前	3年	×				○	○	◎			◎	
		臨床栄養学実習Ⅱ		※1	実習	後	3年	×	△		○		○	○	◎	○	◎	○
	公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ	2		講義	前	3年	×		◎				○		○		
		公衆栄養学Ⅱ		※2	講義	後	3年	×	△	○	◎					○	○	
		公衆栄養学実習		※※1	実習	後	3年	×	△				○		○	○	◎	○
	給食経営管理論	給食経営管理論Ⅰ	2		講義	前	2年	×		◎			○			◎		
		給食経営管理論Ⅱ		※※2	講義	後	2年	×			◎			○			◎	
		給食経営管理論実習		※※1	実習	前	3年	×	△			◎		○	◎			◎
実践領域	総合演習	総合演習Ⅰ	1		演習	通年	3・4年	×	3年、4年連続履修			◎	○					◎
		総合演習Ⅱ		※2	演習	通年	4年	×		◎	◎	◎				○	○	○
	臨地実習	臨床栄養臨地実習Ⅰ		※1	実習	通年	4年	×	△ 管理栄養士の受験資格を取得するためには、3科目3単位以上を履修すること			○	○	○	◎	◎	◎	◎
		臨床栄養臨地実習Ⅱ		※1	実習	通年	4年	×	△			○	○	○	◎	◎	◎	◎
		公衆栄養臨地実習		※1	実習	通年	4年	×	△			○			○	○	○	◎
		給食経営管理臨地実習		※1	実習	通年	4年	×	△		○	◎		○	◎		○	◎
		給食運営臨地実習		※※1	実習	通年	3年	×	△		○	◎		○	◎		○	◎
		専門分野臨地実習		2	実習	通年	4年	×				◎			◎			◎
食物栄養関連科目	専門基礎関連科目	人間栄養学概論		2	講義	前	1年	×		◎								
		生物有機化学		2	講義	前	1年	×			◎							
		分子栄養学		2	講義	後	3年	×		◎	◎							
		食事計画論Ⅰ（演習を含む）		2	講義・演習	後	1年	×		◎			○					
		食事計画論Ⅱ（演習を含む）		2	講義・演習	前	2年	×		◎			○			○		
		食品機能論		2	講義	後	3年	○		◎	◎							
		食品の官能評価・鑑別論		2	演習	後	3年	×		◎			◎	○				
		食薬理学		2	講義	前	4年	○		◎	◎							
		食文化論		2	講義	後	2年	○					○	◎				
		食生活論		2	講義	前	4年	○					○	◎				
	複合展開科目	食育論		2	講義	前	4年	○			◎					◎		
		スポーツ栄養学		2	講義	後	3年	×		◎								
		スポーツコーチング論		2	講義・演習	前	4年	×			◎				◎		◎	
		栄養疫学（演習を含む）		2	講義・演習	前	3年	×		○	◎	○				○	◎	○
		多職種連携論		2	講義	前	4年	×							◎			◎
		国際栄養学		2	講義	前	4年	○					◎					
		管理栄養士のための経営学		2	講義	前	4年	×				◎			◎			◎
演習・卒業研究		食物栄養学演習	2		演習	通年	3年	×		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		卒業研究	4		演習	通年	4年	×		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

［「卒業研究」の履修について］
註１：「卒業研究」履修のためには、「食物栄養学演習」を修得していること。
註２：原則として、「食物栄養学演習」履修のためには、卒業要件科目のうち、２年次終了時までに60単位以上を修得していること。
註３：原則として、教育課程表の備考欄に△の付された選択科目を履修するためには、２年次終了時までに、学科専門科目の卒業必修単位29単位のうち21単位以上を修得していること。

［資格の履修について］
註１：栄養士資格を取得するためには、単位数欄にある※※印の選択科目をすべて履修しなければならない。
註２：管理栄養士国家試験受験資格を取得するためには、単位数欄にある※※印の選択科目及び※印の選択科目をすべて履修しなければならない。そのうち、「臨床栄養臨地実習Ⅰ」「臨床栄養臨地実習Ⅱ」「公衆栄養臨地実習」「給食経営管理臨地実習」より、３科目３単位以上を履修すること。

1 栄養士養成 教育課程（食物栄養学科）

[食物栄養学科2024年度生]

栄養士を取得する者は、下表の34科目53単位をすべて修得してください。

規定科目	単位数 講義又は演習	単位数 実験又は実習	本学開設科目	授業形態	単位数 講義又は演習	単位数 実験又は実習	分類	履修期	配当学年	備　考
社会生活と健康	4	4	公衆衛生学	講義	2		学科専門	前期	1	
			社会福祉概論	講義	2		学科専門	後期	1	
人体の構造と機能	8		解剖生理学	講義	2		学科専門	後期	1	
			解剖生理学実験	実験		1	学科専門	前期	2	
			人間生物化学	講義	2		学科専門	後期	1	
			人間生物化学実験	実験		1	学科専門	後期	2	
			人間生活生理学	講義	2		学科専門	後期	2	
			病態生理学	講義	2		学科専門	後期	2	
食品と衛生	6		食品学Ⅰ	講義	2		学科専門	前期	1	
			食品学Ⅱ	講義	2		学科専門	後期	1	
			食品化学実験	実験		1	学科専門	後期	1	
			食品加工学	講義	1		学科専門	前期	2	
			食品衛生学	講義	2		学科専門	後期	1	
			食品衛生学実験	実験		1	学科専門	前期	2	
栄養と健康	8	10	基礎栄養学	講義	2		学科専門	前期	1	
			基礎栄養学実験	実験		1	学科専門	前期	1	
			応用栄養学Ⅰ	講義	2		学科専門	前期	2	
			応用栄養学実習	実習		1	学科専門	前期	3	
			臨床栄養学Ⅰ	講義	2		学科専門	後期	2	
			臨床栄養学Ⅱ	講義	2		学科専門	前期	3	
			臨床栄養学実習Ⅰ	実習		1	学科専門	前期	3	
栄養の指導	6		栄養教育論Ⅰ	講義	2		学科専門	前期	2	
			栄養教育論Ⅱ	講義	2		学科専門	後期	2	
			栄養教育論実習Ⅰ	実習		1	学科専門	後期	2	
			栄養教育論実習Ⅱ	実習		1	学科専門	前期	3	
			公衆栄養学Ⅰ	講義	2		学科専門	前期	3	
			公衆栄養学実習	実習		1	学科専門	後期	3	
給食の運営	4		給食経営管理論Ⅰ	講義	2		学科専門	前期	2	
			給食経営管理論Ⅱ	講義	2		学科専門	後期	2	
			給食経営管理論実習	実習		1	学科専門	前期	3	
			給食運営臨地実習	実習		1	学科専門	通年	3	
			調理学	講義	2		学科専門	前期	1	
			調理学実習Ⅰ	実習		1	学科専門	前期	1	
			調理学実習Ⅱ	実習		1	学科専門	後期	1	
小　計	36	14	小　計		39	14				
	50				53					

2　管理栄養士国家試験受験資格（食物栄養学科）

［食物栄養学科2024年度生］

本学の食物栄養学科は、管理栄養士養成施設です。卒業に必要な単位を修め、指定科目を修得することで管理栄養士国家試験の受験資格が取得できます。下表の科目の単位をすべて修得してください。ただし、臨地実習については、給食運営臨地実習と＊印の臨地実習から３科目３単位以上の履修が必要です。

規定科目		単位数 講義又は演習	単位数 実験又は実習	本学開設科目	授業形態	単位数 講義又は演習	単位数 実験又は実習	分類	履修期	配当学年	備　考
専門基礎分野	社会・環境と健康	6	10	健康管理概論	講義	2		学科専門	前期	2	
				公衆衛生学	講義	2		学科専門	前期	1	
				公衆衛生学実験	実験		1	学科専門	後期	1	
				健康情報処理実習	実習		1	学科専門	前期	2	
				社会福祉概論	講義	2		学科専門	後期	1	
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	14		解剖生理学	講義	2		学科専門	後期	1	
				解剖生理学実験	実験		1	学科専門	前期	2	
				人間生物化学	講義	2		学科専門	後期	1	
				人間生物化学実験	実験		1	学科専門	後期	2	
				人間生活生理学	講義	2		学科専門	後期	2	
				医学概論	講義	2		学科専門	前期	2	
				病態生理学	講義	2		学科専門	後期	2	
				系統別疾病学	講義	2		学科専門	前期	3	
				病原物質・微生物学	講義	2		学科専門	前期	3	
				微生物学実験	実験		1	学科専門	後期	3	
	食べ物と健康	8		食物栄養学概論	講義	2		学科専門	後期	1	
				食品学Ⅰ	講義	2		学科専門	前期	1	
				食品学Ⅱ	講義	2		学科専門	後期	1	
				食品化学実験	実験		1	学科専門	後期	1	
				食品加工学	講義	1		学科専門	前期	2	
				食品加工学実習	実習		1	学科専門	前期	2	
				調理学	講義	2		学科専門	前期	1	
				調理学実習Ⅰ	実習		1	学科専門	前期	1	
				調理学実習Ⅱ	実習		1	学科専門	後期	1	
				調理学実習Ⅲ（実験を含む）	実習		1	学科専門	後期	2	
				食品衛生学	講義	2		学科専門	後期	1	
				食品衛生学実験	実験		1	学科専門	前期	2	
	小計	28	10			31	11				
専門分野	基礎栄養学	2	8	基礎栄養学	講義	2		学科専門	前期	1	
				基礎栄養学実験	実験		1	学科専門	前期	1	
	応用栄養学	6		応用栄養学Ⅰ	講義	2		学科専門	前期	2	
				応用栄養学Ⅱ	講義	2		学科専門	後期	2	
				応用栄養学Ⅲ	講義	2		学科専門	前期	4	
				応用栄養学実習	実習		1	学科専門	前期	3	
	栄養教育論	6		栄養教育論Ⅰ	講義	2		学科専門	前期	2	
				栄養教育論Ⅱ	講義	2		学科専門	後期	2	
				栄養教育論実習Ⅰ	実習		1	学科専門	後期	2	
				栄養教育論実習Ⅱ	実習		1	学科専門	前期	3	
				カウンセリング論（演習を含む）	講義・演習	2		学科専門	後期	3	
	臨床栄養学	8		臨床栄養学Ⅰ	講義	2		学科専門	後期	2	
				臨床栄養学Ⅱ	講義	2		学科専門	前期	3	
				臨床栄養学Ⅲ	講義	2		学科専門	後期	3	
				臨床栄養学Ⅳ	講義	2		学科専門	前期	4	
				臨床栄養学実習Ⅰ	実習		1	学科専門	前期	3	
				臨床栄養学実習Ⅱ	実習		1	学科専門	後期	3	
	公衆栄養学	4		公衆栄養学Ⅰ	講義	2		学科専門	前期	3	
				公衆栄養学Ⅱ	講義	2		学科専門	後期	3	
				公衆栄養学実習	実習		1	学科専門	後期	3	

規定科目		単位数 講義又は演習	単位数 実験又は実習	本学開設科目	授業形態	単位数 講義又は演習	単位数 実験又は実習	分類	履修期	配当学年	備　考
専門分野	給食経営管理論	4	8	給食経営管理論Ⅰ	講義	2		学科専門	前期	2	
				給食経営管理論Ⅱ	講義	2		学科専門	後期	2	
				給食経営管理論実習	実習		1	学科専門	前期	3	
	総合演習	2		総合演習Ⅰ	演習	1		学科専門	通年	3・4	
				総合演習Ⅱ	演習	2		学科専門	通年	4	
	臨地実習		4	臨床栄養臨地実習Ⅰ	実習		＊1	学科専門	通年	4	＊印の３科目３単位以上を履修すること
				臨床栄養臨地実習Ⅱ	実習		＊1	学科専門	通年	4	
				公衆栄養臨地実習	実習		＊1	学科専門	通年	4	
				給食経営管理臨地実習	実習		＊1	学科専門	通年	4	
				給食運営臨地実習	実習		1	学科専門	通年	3	
小　計		32	12			33	13				
合　計		60	22	合　計		64	24				

【履修における留意事項】
①臨地実習科目の履修は、「総合演習Ⅰ」を同時履修してください。
②「給食運営臨地実習」「給食経営管理臨地実習」の履修には、「給食経営管理論実習」を事前に履修してください。
③「臨床栄養臨地実習Ⅰ」「臨床栄養臨地実習Ⅱ」の履修には、「食品衛生学」「給食経営管理論Ⅰ」「給食経営管理論実習」の単位を取得し、「臨床栄養学Ⅰ」「臨床栄養学Ⅱ」「臨床栄養学Ⅲ」を事前に履修してください。
④「公衆栄養臨地実習」の履修には、「給食運営臨地実習」の単位を取得し、「臨床栄養臨地実習Ⅰ」「臨床栄養臨地実習Ⅱ」「公衆栄養学Ⅰ」「公衆栄養学Ⅱ」「公衆栄養学実習」を事前に履修してください。

3　第一種衛生管理者 教育課程（食物栄養学科）

［食物栄養学科　2024年度生］

第一種衛生管理者免許を取得する者は、下表の11科目19単位をすべて修得してください。

本学開設科目	授業形態	単位数 必修	単位数 選択	分類	履修期	配当学年	備　考
公衆衛生学	講義	2		学科専門	前期	1	
公衆衛生学実験	実験	1		学科専門	後期	1	
解剖生理学	講義	2		学科専門	後期	1	
解剖生理学実験	実験	1		学科専門	前期	2	
人間生活生理学	講義	2		学科専門	後期	2	
医学概論	講義	2		学科専門	前期	2	
インダストリアルハイジーン論Ⅰ	講義	2		資格科目	前期	3	
インダストリアルハイジーン論Ⅱ	講義	2		資格科目	後期	3	
安全・救急法演習	演習	1		資格科目	前期	2	
衛生行政Ⅰ	講義	2		資格科目	前期	3	
衛生行政Ⅱ	講義	2		資格科目	後期	3	
小　計		19					

註：資格科目は卒業単位には含まれません。

3 人間生活学部　食品開発学科

教育研究上の目的

食品開発学科は、食の科学をベースとして、開発、おいしさ、安全と安心、機能性、ビジネスの知識を基盤として備え、さらに、【健幸】の支援に寄与することを目指して新たな食品を創造し開発できる人材を育成することを教育研究上の目的とする。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

食品開発学科では、教育研究上の目的を達成するために、次の学生像を人材育成の方針とする。

1．食品開発の基盤となる領域の専門的知識と確かなる技術を備え、人々のさまざまなニーズに応える食品の開発を科学的に思考し、探求できる力を備えている。
2．多様な価値観をもつ他者と相互に理解し合い、連携・協働して、食品の開発や食サービスに取り組むことができる力を備えている。
3．食に関わるさまざまな課題を見い出し、高い倫理観と科学的根拠に立脚した判断力、食品を創造し開発する能力で課題に向き合い、人々が【健幸】で持続可能な社会の実現に貢献する力を備えている。

そのうえで、次の資質及び能力を有している者に「学士（食品学）」の学位を授与する。

①知識・技能

1．食に関わる基礎的知識と食の開発、おいしさ、安全と安心、機能性、ビジネスに関する専門的知識と技能を身につけている。
2．食品を創造し、開発するために必要な情報収集能力、言語能力を身につけている。
3．食品を創造するための開発研究を推進する能力と加工食品を製造、販売し、その情報を発信する実践力を有している。

②思考力・判断力・表現力

1．科学的根拠に立脚し、論理的に思考、判断できる能力を有している。
2．食の専門家として、論理的でわかりやすい文章作成能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を有している。
3．食に関わるさまざまな問題について、多面的に考え、判断する能力を有している。

③主体性・多様性・協働性

1．食の専門家としての倫理観、責任感を身につけている。
2．食の専門家として、新たな食品の開発や食サービスを通して社会に貢献する意欲を備えている。
3．食に関わるさまざまな課題に関心をもち、主体的かつ継続的に学修する意欲と態度を有している。

教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

食品開発学科では、食の科学をベースとして、開発、おいしさ、安全と安心、機能性、ビジネスに関する専門的知識を備えた人材を養成する。さらに、高度な食品開発研究を推進し、食農体験、カフェ実習、商品開発企業演習に参画し、卒業研究を通して高度な専門性を活用した課題解決能力を育成する。これらの学修により、食品開発に対する多様なニーズに応える高度な専門知識と技術を修得させることが本学科の特色である。

そのための教育課程の編成方針は以下のとおりである。

「食の科学」区分

1．食品開発の基礎となる科目を配置し、科学的思考力を修得する。
2．情報収集能力、言語能力に関する基礎知識と基本技術を修得する。
3．食の科学分野における課題に向き合うための知識と技術を修得する。
4．専門性の高い知識を修得する。
5．食の科学分野で得た知識･技術に基づき､食の専門家としての文章作成やコミュニケーション技術を有する。
6．課題に対し、科学的根拠に基づき思考し、判断できる能力を修得する。

7．食の専門家として必要な科学知識と技術を統合している。
8．他者と協働かつ主体的に、文章作成やプレゼンテーションを行うことができる。
9．課題に対し、他者と協働かつ主体的に解決できる能力を修得する。

「食の開発」区分

1．食品を創造し、開発するために必要な専門的知識と技能を修得する。
2．食品を開発するための情報収集力、開発した商品の情報を発信する能力を修得する。
3．食の開発に関わるさまざまな課題に向き合うための知識と技能を修得する。
4．食品を創造し、開発するための思考力、判断力、表現力を向上させる。
5．食の開発を実践するプレゼンテーション能力を修得する。
6．自ら食の開発に関わる課題を見つけ出し、課題解決に向けて多面的、論理的に思考できる能力を修得する。
7．新たな食品の開発を通して社会に貢献する意欲を備え、自主的、継続的に学習する態度を有する。
8．多様な人々と協働して食品の開発に取り組むコミュニケーション能力を修得する。
9．食の開発に関わる課題に主体的に向き合い、多様な人々と協働して課題の解決に取り組む能力を修得する。

「食のおいしさ」区分

1．食品開発に必要な調理や食品加工の基礎を修得する。
2．食のおいしさについて、専門家として論理的でわかりやすい文章を作成し、コミュニケーションをはかり、プレゼンテーションができる基本技術を修得する。
3．食のおいしさに関する課題に向き合う、知識と技能を修得する。
4．食のおいしさを科学的に分析するための知識と技術を修得する。
5．食のおいしさについて、専門家として論理的でわかりやすい文章を作成し、コミュニケーションをはかり、プレゼンテーションができる思考力や判断力を有する。
6．食のおいしさに関するさまざまな課題に関心を持ち、論理的に思考・判断できる知識と技術を修得する。
7．おいしさについてより実践的に学び、高度な知識と技術を修得する。
8．食のおいしさについて、専門家として主体的に論理的でわかりやすい文章を作成し、コミュニケーションをはかり、プレゼンテーションができ、さらに社会に貢献するための知識と技術を統合している。
9．食のおいしさに関するさまざまな課題について、主体的に多面的に考え、判断できる知識と技術を修得する。

「食の安全と安心」区分

1．食品の安全性に関わる関連法規に関連する知識を修得する。
2．食の安全と安心に関して他者とリスクコミュニケーションを行うスキルを修得する。
3．食の安全と安心、機能性に関わる課題に向き合うための知識と技術を修得する。
4．食の安全と安心に関する基礎的な知識と技術を修得する。
5．科学的根拠を客観的かつ論理的に表現する。
6．論理的な思考力と判断力と表現力を修得する。
7．食の安全と安心に関する高度な演習・実験を行い、専門性の高い知識と技術を修得する 。
8．他者と協働し、高度な演習・実験・実習を行い、実践力を向上させる。
9．課題に対して主体的に活動し、他者と協働して対応できる能力を修得する。

「食の機能性」区分

1．食品の機能について基礎知識を修得する。
2．食品の機能について基礎知識を説明できる。
3．食品の機能についての課題を説明できる。
4．食品の機能について科学的に思考できる。
5．食品の機能の科学的根拠を説明できる。
6．食品の機能について課題を科学的に解決できる。
7．食品の機能について科学的に判断できる。
8．食品の機能の科学的根拠を判断できる。
9．食品の機能についての課題を総括できる。

「食のビジネス」区分

1．食品開発のプロセスや成果を国際的に発信する能力や、食品開発にかかる研究領域において活躍できる能

力を修得する。
2．食品の開発、製造、販売、流通のために必要な知識、語学力を身につける。
3．市場ニーズを発掘しニーズに沿った開発研究を推進する能力と加工食品を製造、販売し、その情報を発信する実践力を有する。
4．実践的な高度な能力を修得する。
5．食の専門家として、論理的でわかりやすい文章作成能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を有する。
6．食の開発、製造、販売、サービスに関するさまざまな問題について、多面的に考え、判断する能力を有する。
7．食の専門家としての倫理観、責任感を身につける。
8．食の専門家として、新たな食品の開発、提案や食サービスを通して社会に貢献する意欲を備える。
9．食の開発、製造、販売、サービスに関するさまざまな課題に関心をもち、主体的かつ継続的に学修する意欲と態度を有する。

演習・卒業研究

1．身につけた知識と技術を活用しながら論理的思考に基づき研究を遂行する能力を有する。
2．科学的議論を通して、研究やプレゼンテーション能力を養う。
3．自己の研究課題に向き合うための知識と技術を修得する。
4．思考力や応用力、専門的な知識や技能を深め、ＰＤＣＡの全ステップを遂行する。
5．研究によって得られたデータを科学的根拠に基づき客観的かつ論理的に表現する。
6．研究課題に対して論理的な思考力と表現力を修得する。
7．研究課題について、科学的な手法を用いて分析を行い、客観的かつ論理的に表現する能力を養う。
8．主体的かつ継続的に研究を遂行する意欲と態度を有する。
9．主体的かつ他者と協働しながら研究遂行能力を修得する。

カリキュラムマップでは、各学科の学生が、卒業までに身につけるべき知識・能力を得るための授業科目が、どのように配置されているか、各授業科目の関連性などがわかるようになっています。

カリキュラムの授業科目間のつながりや年次進行などがわかりますので、履修上の参考にしてください。

食品開発学科　カリキュラムマップ

→ 必修科目

領域	学生が身につけるべき資質・能力	1年次	2年次	3年次	4年次
食の科学	・食品開発の基礎となる知識を修得し、分析技術を修得することができる。 ・科学的根拠に立脚し、論理的に思考・判断することができる。 ・食の専門家としての倫理観、責任感を修得することができる。	食品成分の化学 食品の特性 食品科学実験Ⅰ 食品科学実験Ⅱ 基礎化学 有機化学 基礎微生物学 統計学演習Ⅰ 動物・植物生理学	食品微生物学 食品微生物学実験 統計学演習Ⅱ		
食の開発	・食の開発についての方途を具体的に修得することができる。 ・地域連携による食の開発を実践することができる。 ・プレゼンテーション能力を修得し、実践力を向上させることができる。	食品開発学概論 食パッケージデザイン演習	食品加工学 食品の加工学実習Ⅰ 食品の加工学実習Ⅱ 食農体験Ⅰ 食農体験Ⅱ	食品開発実習 発酵食品開発学 食医学	発酵食品開発学実験 地域食品企画演習
食のおいしさ	・食品開発に必要な調理や食品加工の基礎を修得することができる。 ・食のおいしさを科学的に分析するための知識と技術を修得することができる。 ・おいしさについてより実践的に学び、高度な知識と技術を修得することができる。	おいしさの調理学 食品開発基礎実習Ⅰ 食品開発基礎実習Ⅱ	おいしさの生理学 食品物性論 製菓実習 製パン実習	食品の官能評価学 食品の官能評価学演習 食品物性論演習Ⅰ	食品物性論演習Ⅱ 食品フレーバーの化学 食品の安全性評価演習Ⅱ 食品免疫学実験Ⅱ
食の安全・安心	・食や食品開発に関わる法的根拠、ならびに知的財産に関連することがらを学ぶことができる。 ・食の安全・安心と機能性に関する基礎的な知識と技術を修得することができる。 ・高度な演習・実験・実習を行い、専門性の高い知識と技術を修得することができる。	食品衛生学	食品衛生学実験 公衆衛生学 食品安全学 食品の安全性評価論 食品分析学 食品分析学実験	食品の安全性評価演習Ⅰ	
食の機能性	・食や食品開発に関わる法的根拠、ならびに知的財産に関連することがらを学ぶことができる。 ・食の安全・安心と機能性に関する基礎的な知識と技術を修得することができる。 ・高度な演習・実習を行い、専門性の高い知識と技術を修得することができる。	栄養生理学 ライフステージの栄養学 生化学	食品免疫学 食品機能学 生理機能評価論	生化学実験 食品免疫学実験Ⅰ	
食のビジネス	・食品開発のプロセスや成果を国際的に発信する能力や、食品開発にかかる研究領域において活躍できる能力を修得することができる。 ・実践的な高度な能力を修得することができる。	フードマーケティング論	フードマネジメント論	食品・開発関連法規 食品開発外国語演習 カフェ実習Ⅰ カフェ実習Ⅱ 食料経済 食空間デザイン論 フードコーディネート論（演習含む） フードコーディネート実習 フードスペシャリスト論 食文化概論 商品開発企業実習	
演習・卒業研究	・食に関わる基礎的知識と食のおいしさ、開発、安全・安心、機能性、ビジネスに関する専門的知識を修得することができる。 ・科学的根拠に立脚し、理論的に思考、判断できる能力を養うことができる。 ・食に関わるさまざまな課題に関心をもち、自主的、継続的に学修する意欲と態度を修得することができる。 ・科学的議論を通して、研究やプレゼンテーション能力を養うことができる。 ・思考力や応用力、専門的な知識や技能を深め、PDCAの全ステップを遂行することができる。 ・自ら設定した課題について、科学的な手法を用いて分析を行い、客観的かつ論理的に表現する能力を養うことができる。			食品開発学演習	卒業研究

DP	食品開発学科では、教育研究上の目的を達成するために、次の学生像を人材育成の方針とする。 1．食品開発の基盤となる領域の専門的知識と確かなる技術を備え、人々のさまざまなニーズに応える食品の開発を科学的に思考し、探求できる力を備えている。 2．多様な価値観をもつ他者と相互に理解し合い、連携・協働して、食品の開発や食サービスに取り組むことができる力を備えている。 3．食に関わるさまざまな課題を見い出し、高い倫理観と科学的根拠に立脚した判断力、食品を創造し開発する能力で課題に向き合い、人々が【健幸】で持続可能な社会の実現に貢献する力を備えている。
CP	食品開発学科では、食の科学をベースとして、開発、おいしさ、安全と安心、機能性、ビジネスに関する専門的知識を備えた人材を養成する。さらに、高度な食品開発研究を推進し、食農体験、カフェ実習、商品開発企業演習に参画し、卒業研究を通して高度な専門性を活用した課題解決能力を育成する。これらの学修により、食品開発に対する多様なニーズに応える高度な専門知識と技術を修得させることが本学科の特色である。

3 人間生活学部　食品開発学科（NC）
専門科目教育課程　2024年度生

科目群		卒業に必要な単位数	
共通科目		22単位以上	
学科専門科目	必修	84単位	90単位以上
	選択	6単位以上	
自由選択科目		12単位以上	
計		124単位以上	

- 共通科目から、必修科目９単位、選択必修科目６単位を含めた22単位以上を履修
- 専門科目から、必修科目84単位（卒業研究を含む）を含めた90単位以上を履修
- 自由選択科目は、12単位以上を履修
- 合計124単位以上を履修

What's "自由選択科目"!?

a．共通科目22単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
例）共通科目28単位取得した場合は、６単位分が自由選択科目の単位となる。

b．自学科の専門選択科目６単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
例）自学科の専門選択科目10単位取得した場合は、４単位分が自由選択科目の単位となる

c．他学科の他学科開放科目を修得すると自由選択科目の単位となる。

a～cを組み合わせて（又は単独で）12単位以上を履修

備考欄に※のある科目は開講する時期に変更が生じる可能性があるため、学科教員の指示に従って履修すること

科目区分	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	授業形態	履修期	配当年次	他学科開放	備考	身につく力（◎…重要な目的としている　○…主な目的としている）食に関する基礎知識、ビジネスに関する専門的知識	論理的思考、判断力	食の専門家としての倫理観、責任感	食品開発のための情報収集力、言語能力	文章作成能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力	食の専門家としての社会に貢献する意欲	食品分析技術、加工技術、食製造、販売、情報発信	食に関する問題把握、判断力	食に関わる主体的・継続的学修
食の科学	食品成分の化学	2		講義	前	1	×		◎			◎			◎		
	食品の特性	2		講義	後	1	×		◎			◎			◎		
	食品科学実験Ⅰ	2		実験	前	1	×		◎		◎		◎				
	食品科学実験Ⅱ	2		実験	後	1	×		◎		◎		◎				
	統計学演習Ⅰ	2		演習	後	1	×		◎			◎			◎		
	統計学演習Ⅱ		2	演習	前	2	×		○			○			○		
	基礎化学	2		講義	前	1	×		◎			◎			◎		
	有機化学	2		講義	前	1	×		◎			◎			◎		
	基礎微生物学	2		講義	前	1	×		◎			◎			◎		
	食品微生物学	2		講義	前	2	×		◎			◎			◎		
	食品微生物学実験	2		実験	後	2	×			◎		◎			◎		
	動物・植物生理学	2		講義	前	1	×			◎		◎			◎		
食の開発	食品開発学概論	2		講義	後	1	×		◎					◎		◎	
	食品開発実習	2		実習	前	3	×		◎				◎			◎	
	食品加工学	2		講義	前	2	×		◎					◎	◎		
	食品の加工学実習Ⅰ	2		実習	前	2	×		◎					◎	◎		
	食品の加工学実習Ⅱ	2		実習	後	2	×		◎					◎	◎		
	食パッケージデザイン演習		2	演習	前	1	×			○			○		○		
	発酵食品開発学		2	演習	後	3	×		○			○			○		
	発酵食品開発学実験		2	実験	前	4	×		○			○			○		
	食医学		2	講義	後	3	○				○			○			○
	食農体験Ⅰ	1		実験	前	2	×				◎			◎		◎	
	食農体験Ⅱ	1		実験	後	2	×				◎			◎		◎	
	地域食品企画演習		2	演習	前	4	×				○			○		○	
食のおいしさ	食品物性論	2		講義	後	2	×		◎			◎			◎		
	食品物性論演習Ⅰ	2		演習	後	3	×		◎			◎			◎		
	食品物性論演習Ⅱ		2	演習	後	4	×		○			○			○		
	おいしさの生理学	2		講義	後	2	×		◎			◎			◎		
	食品フレーバーの化学		2	講義	前	4	×		○			○			○		
	食品の官能評価学	2		講義	前	3	×		◎			◎			◎		
	食品の官能評価学演習	2		演習	前	3	×		◎			◎			◎		
	おいしさの調理学	2		講義	前	1	×		◎			◎			◎		
	食品開発基礎実習Ⅰ	2		実習	前	1	×		◎			◎			◎		
	食品開発基礎実習Ⅱ		2	実習	後	1	×		○			○			○		
	製菓実習		2	実習	前	2	×		○			○			○		
	製パン実習		2	実習	後	2	×	※	○			○			○		

科目区分	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	授業形態	履修期	配当年次	他学科開放	備考	身につく力（◎…重要な目的としている　○…主な目的としている）食に関する基礎知識、ビジネスに関する専門的知識	論理的思考、判断力	食の専門家としての倫理観、責任感	食品開発のための情報収集力、言語能力	文章作成力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力	食の専門家としての社会に貢献する意欲	食品分析技術、加工技術、食品製造・販売、情報発信	食に関する問題把握、判断力	食に関わる主体的・継続的学修
食の安全・安心	食品衛生学	2		講義	後	1	×		◎			◎			◎		
	食品衛生学実験	2		実験	前	2	×			◎	◎					◎	
	公衆衛生学	2		講義	後	2	×			◎	◎					◎	
	食品安全学	2		講義	後	2	×				◎			◎		◎	
	食品の安全性評価論	2		講義	前	2	×				◎			◎		◎	
	食品の安全性評価演習Ⅰ		2	演習	前	3	×				○			○		○	
	食品の安全性評価演習Ⅱ		2	演習	前	4	×				○			○		○	
	食品分析学	2		講義	前	2	×		◎			◎					
	食品分析学実験	2		実験	後	2	×		◎	◎	◎						
食の機能性	栄養生理学	2		講義	前	1	×		◎			◎			◎		
	ライフステージの栄養学		2	講義	後	1	×		○			○			○		
	生化学	2		講義	後	1	×		◎			◎			◎		
	生化学実験		2	実験	後	3	×		○			○			○		
	食品免疫学	2		講義	前	2	×		◎			◎			◎		
	食品免疫学実験Ⅰ		2	実験	後	3	×		○			○					○
	食品免疫学実験Ⅱ		2	実験	後	4	×		○			○					○
	食品機能学	2		講義	後	2	×		◎			◎			◎		
	生理機能評価論	2		講義	前	2	×		◎			◎			◎		
食のビジネス	食料経済		2	講義	前	3	×		○	○						◎	
	食空間デザイン論		2	講義	前	3	×		○				◎				◎
	フードマネジメント論		2	講義	前	2	×		○			◎			◎		
	フードマーケティング論		2	講義	後	1	×		○			◎			◎		
	フードコーディネート論(演習含む)		2	講義	前	3	×	※	○			◎			◎		
	フードコーディネート実習		2	実習	後	3	×	※	○			◎			◎		
	フードスペシャリスト論		2	講義	前	3	×	※	○			◎			◎		
	食文化概論		2	講義	前	3	×		○					◎			◎
	商品開発企業実習		2	実習	通	3	×			○			○			○	
	食品開発関連法規	2		講義	前	3	×				◎			◎		◎	
	食品開発外国語演習	2		演習	後	3	×		◎			◎	◎				
	カフェ実習Ⅰ	1		実習	前	3	×				◎			◎			◎
	カフェ実習Ⅱ	1		実習	後	3	×				◎			◎			◎
演習	食品開発学演習	2		演習	通	3	×		◎			◎			◎		
卒業研究	卒業研究	4		演習	通	4	×			◎			◎				◎

［「卒業研究」の履修について］
註１：「卒業研究」履修のためには、「食品開発学演習」を修得していること。
註２：原則として、「食品開発学演習」は以下の２つの条件を満たしている場合に履修可能である。
①２年次終了時までに「食品開発学概論」の単位を修得していること。
②２年次終了時の修得単位数が卒業要件科目のうち62単位以上であること。

1 食品衛生管理者・食品衛生監視員の任用資格 教育課程（食品開発学科）

［食品開発学科2024年度生］

食品衛生管理者・食品衛生監視員の任用資格を取得する者は、下表の24科目48単位をすべて修得してください。

		規則で定められた学科・科目		本学開設科目	授業形態	単位数		分類	履修期	配当学年	備　考
		（A）学科	（B）科目			必修	選択				
1	右枠のA欄の学科ごとにB欄に掲げる科目を1科目以上履修させ、その単位数の合計が、22単位以上であること。	化　学	分析化学								
			有機化学	有機化学	講義	2		学科専門	前期	1	
			無機化学	基礎化学	講義	2		学科専門	前期	1	
		生物化学	生物化学	生化学	講義	2		学科専門	後期	1	
			食品科学	食品機能学	講義	2		学科専門	後期	2	
				食品物性論	演習	2		学科専門	後期	2	
			生理学	動物・植物生理学	講義	2		学科専門	前期	1	
				おいしさの生理学	講義	2		学科専門	後期	2	
				食品免疫学	講義	2		学科専門	前期	3	
			食品分析学	食品分析学	講義	2		学科専門	前期	2	
			毒性学	食品の安全性評価論	講義	2		学科専門	後期	2	
		微生物学	微生物学	基礎微生物学	講義	2		学科専門	前期	1	
			食品微生物学	食品微生物学	講義	2		学科専門	前期	2	
			食品保存学	食品加工学	講義	2		学科専門	前期	2	
			食品製造学	食品開発学概論	講義	2		学科専門	後期	1	
				おいしさの調理学	講義	2		学科専門	前期	1	
		公衆衛生学	公衆衛生学	公衆衛生学	講義	2		学科専門	後期	2	
			食品衛生学	食品衛生学	講義	2		学科専門	後期	1	
			環境衛生学								
			衛生行政学	食品開発関連法規	講義	2		学科専門	前期	3	
			疫　学	生理機能評価論	講義	2		学科専門	後期	3	
小　計			22	小　計		38	0				
2	上記1に掲げる科目及びその他履修すべき科目を履修させ、その単位の合計が40単位であること。	その他、履修すべき科目		食品の官能評価学	講義	2		学科専門	前期	3	
				栄養生理学	講義	2		学科専門	前期	1	
				食品安全学	講義	2		学科専門	後期	2	
				食品の特性	講義	2		学科専門	後期	1	
				食品成分の化学	講義	2		学科専門	前期	1	
				小　計		10	0				
	合　計		40	合　計		48					

註1：履修に関しては学科の指示に従ってください。
註2：食品開発学科を卒業した者は、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格を取得することができます。
註3：2の取得条件は、卒業判定時に、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格を取得するために必要な食品開発学科の所定の学科目の単位がすべて履修されていることが必要です。
註4：中途退学者が、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格の取得を希望する場合は、食品開発学科の所定の学科目の単位がすべて履修されている場合に限り、資格を認定し、修了証明書を交付します。
註5：編入学により入学したものが、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格の取得を希望する場合は、食品開発学科の所定の学科目をすべて履修しなければなりません。所定の学科目については、編入前の登録施設で履修した単位の読み替えは行いません。

2　専門フードスペシャリスト・フードスペシャリスト養成 教育課程（食品開発学科）

［食品開発学科　2024年度生］

専門フードスペシャリスト・フードスペシャリストの資格を取得する者は、下表の必修科目はすべて修得してください。

規定科目	単位数	本学開設科目	授業形態	単位数		分類	履修期	配当学年	備　考
				必修	選択				
フードスペシャリスト論	講義２	フードスペシャリスト論	講義	2		学科専門	前期	3	
食品の官能評価・鑑別論	講義２	食品の官能評価学	講義	2		学科専門	前期	3	
	演習２	食品の官能評価学演習	演習	2		学科専門	前期	3	
食物学に関する科目	講義６ 実験８	食品成分の化学	講義	2		学科専門	前期	1	
		食品の特性	講義	2		学科専門	後期	1	
		食品科学実験Ⅰ	実験	2		学科専門	前期	1	
		食品科学実験Ⅱ	実験	2		学科専門	後期	1	
		食品加工学	講義	2		学科専門	前期	2	
		食品加工学実習Ⅰ	実習	2		学科専門	前期	2	
		食品加工学実習Ⅱ	実習	2		学科専門	後期	2	
食の安全性に関する科目	講義４	食品衛生学	講義	2		学科専門	後期	1	
		食品安全学	講義	2		学科専門	後期	2	
調理学に関する科目	講義２ 実習４	おいしさの調理学	講義	2		学科専門	前期	1	
		食品開発基礎実習Ⅰ	実習	2		学科専門	前期	1	
		食品開発基礎実習Ⅱ	実習	2		学科専門	後期	1	
栄養と健康に関する科目	講義４	栄養生理学	講義	2		学科専門	前期	1	
		ライフステージの栄養学	講義	2		学科専門	前期	1	
食品流通・消費に関する科目	講義２	食料経済	講義	2		学科専門	前期	3	
フードコーディネート論	講義２	フードコーディネート論（演習を含む）	講義	2		学科専門	前期	3	
フードスペシャリスト資格に適当とされる科目	講義２ 演習２	フードマーケティング論	講義		2	学科専門	後期	1	
		地域食品企画演習	演習		2	学科専門	前期	4	
		小　　計		38	4				

註：履修に関しては学科の指示に従ってください。

3　フードコーディネーター３級 教育課程（食品開発学科）

［食品開発学科2024年度生］

フードコーディネーター３級を取得する者は、下表の11科目22単位をすべて修得してください。

本学開設科目	授業形態	単位数		分類	履修期	配当学年	備　考
		必修	選択				
食品成分の化学	講義	2		学科専門	前期	1	
食品の特性	講義	2		学科専門	後期	1	
食品開発基礎実習Ⅰ	実習	2		学科専門	前期	1	
食品開発基礎実習Ⅱ	実習	2		学科専門	後期	1	
おいしさの調理学	講義	2		学科専門	前期	1	
栄養生理学	講義	2		学科専門	前期	1	
食品安全学	講義	2		学科専門	後期	2	
食文化概論	講義	2		学科専門	前期	3	
食空間デザイン論	講義	2		学科専門	前期	3	
フードコーディネート実習	実習	2		学科専門	後期	3	
フードマネジメント論	講義	2		学科専門	前期	2	
小　　計		22					

註：履修に関しては学科の指示に従ってください。

4 フードサイエンティスト 教育課程（食品開発学科）

［食品開発学科2024年度生］

フードサイエンティストを取得する者は、下表の13科目26単位をすべて修得してください。

食品科学技術認定条件 必要科目・単位数		本学開設科目	授業形態	単位数 必修	単位数 選択	分類	履修期	配当学年	備　考
（1）基礎必修科目11単位	①食品科学分野 6単位	食品成分の化学	講義	2		学科専門	前期	1	
		食品の特性	講義	2		学科専門	後期	1	
		食品の加工学実習Ⅰ	実習	2		学科専門	前期	2	
		食品の加工学実習Ⅱ	実習	2		学科専門	後期	2	
	②食品微生物学分野 5単位	食品衛生学	講義	2		学科専門	後期	1	
		食品微生物学	講義	2		学科専門	前期	2	
		食品微生物学実験	実験	2		学科専門	後期	2	
（2）特別研修科目9単位		食品の官能評価学	講義	2		学科専門	前期	3	
		食品物性論	講義	2		学科専門	後期	2	
		食品の官能評価学演習	演習	2		学科専門	前期	3	
		食品開発基礎実習Ⅰ	実習	2		学科専門	前期	1	
		食品開発基礎実習Ⅱ	実習	2		学科専門	後期	1	
		食品衛生学実験	実験	2		学科専門	前期	2	
小計	20	小　計		26					

註：履修に関しては学科の指示に従ってください。

5 食の６次産業化プロデューサー 教育課程（食品開発学科）

［食品開発学科2024年度生］

食の６次産業化プロデューサーを取得する者は、下表の13科目24単位をすべて修得してください。

本学開設科目	授業形態	単位数 必修	単位数 選択	分類	履修期	配当学年	備　考
地域で学ぶ	講義	2		共通科目	前・後	1～4	
食品衛生学	講義	2		学科専門	後期	1	
食農体験Ⅰ	実習	1		学科専門	前期	2	
食農体験Ⅱ	実習	1		学科専門	後期	2	
食品加工学	講義	2		学科専門	前期	2	
フードマーケティング論	講義	2		学科専門	後期	2	
フードマネジメント論	講義	2		学科専門	前期	2	
地域食品企画演習	演習	2		学科専門	前期	4	
地域と人間生活	講義	2		共通科目	前・後	2～4	
食品開発関連法規	講義	2		学科専門	前期	3	
食料経済	講義	2		学科専門	前期	3	
フードコーディネート論（演習を含む）	講義	2		学科専門	前期	3	
フードコーディネート実習	実習	2		学科専門	後期	3	
小　計		24					

註：履修に関しては学科の指示に従ってください。

4 人間生活学部　人間福祉学科

教育研究上の目的

人間福祉学科では、人間の幸福な生活を支える社会福祉学を基礎とし、「健康」・「食」・「栄養」という複数の分野と連携しながら、ポジティブでリスク予防的な観点をもって、人間一人一人にとってのＱＯＬ（生活の質）向上の追求（追究）を目指して、相談援助・保育・介護に関する知識や技術を実践する能力を備えた人材の養成を、教育研究上の目的とする。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

人間福祉学科では、教育研究上の目的を達成するために、次の学生像を人材育成の方針とする。

1．福祉や健康に関しての知識を広く持ち、「健康で幸福な生活【健幸】」の実現の意味を全人的・社会総合的に探究しつづける能力を有している。
2．人間の尊厳と基本的人権を尊重し、地域共生社会の実現の重要性を理解し、連携・協働する力を有している。
3．現代社会や福祉に広く関心を持ち、個人の生活課題や地域社会の課題を的確に捉え、自身の考えを持ち、解決に向けて取り組む力を有している。

そのうえで、次の資質及び能力を有している者に「学士（社会福祉学）」の学位を授与する。

①知識・技能

1．人間の尊厳と基本的人権の尊重を踏まえ、社会福祉の法や制度面についての基本及び支援を必要とする人々への支援に関して、基本的な捉え方を理解し説明することができる。
2．支援を必要とする人々に対するコミュニケーションの重要性を理解し、基本的な専門的援助関係をつくり進めていくことができる。
3．現代社会や福祉の問題やその背景を構造的に捉え、乳幼児から高齢者までの生涯にわたる生活課題や地域課題を見出し、人権尊重の意味を理解したうえで、問題の解決の方向性を科学的根拠をもって説明することができる。

②思考力・判断力・表現力

1．統計や実証研究等の結果について理解し、科学的根拠をもって、援助・支援にあたる論理的思考力を身につけている。
2．実習・演習教育を含めた他者との関わりから意識的に、また自ら内省する姿勢を持ち、自己覚知を深めることができる。
3．自分が体験したことや得られた知識を分かりやすく他者に表現し、社会に発信することができる。

③主体性・多様性・協働性

1．主体的に広く社会福祉の課題に関心を持ち、解決へ向けた方法の提案や行動につなぐことのできる専門性と倫理を身につけている。
2．お互いに自身の考えを伝えあい、多様な価値観や立場を認めながら、協働に向けて、自らの考えや集団の考えを高め発展させることができる。
3．人間の尊厳と基本的人権の尊重という社会福祉学の基本的理念を踏まえて、地域社会・福祉社会形成へむけて自ら参画していくことができる。

教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

人間福祉学科では、社会福祉の学びを基礎とし、学科全員が共通に学ぶ「社会福祉基礎科目」、目指す専門性に応じて選択する「ソーシャルワーク専門科目」「介護福祉専門科目」「保育専門科目」、知識・技術の統合を図る「社会福祉実践科目」、福祉専門職としての資質向上や学部共通理念である【健幸】への学びを深める「社会福祉展開科目」「演習・卒業研究」を設ける。

そのための教育課程の編成方針は以下のとおりである。

社会福祉基礎科目

1．社会福祉に関連する主要な法・制度及び、人と社会に関する基礎的知識を修得させる。
2．社会福祉に関する現状とその課題を構造的に捉え、自分の見解を形成し、客観的かつ論理的に表現できる力を育成する。
3．人間の尊厳と基本的人権の尊重について理解を深め、諸問題に対して批判的見解を持つことができる力を育成する。

ソーシャルワーク専門科目

1．社会福祉や隣接分野に関連する法・制度を体系的に理解させ、相談援助の展開過程に必要な理論や技術を習得させる。
2．専門的援助関係を形成していくうえで必要な自己覚知を深め､相談援助における基礎的なコミュニケーション技術や面接技術を実践的に習得させる。
3．生活課題や地域課題に対する相談援助の展開過程及び包括的支援について実践的に理解させ、それらを遂行する能力及び協働する力を育成する。
4．事例分析や先駆的実践を通して、ソーシャルワークのあり方や専門職倫理を理解させ、人々の生活課題や困難性の背景にある現代社会の諸問題に対し常に目を向け､問題意識を自ら持てる姿勢を身につけさせる。

介護福祉専門科目

1．介護福祉における生活支援を必要とする人に関する理論を理解させ、実践の基本的枠組みを習得させる。
2．生活支援を必要とする人との信頼関係を構築していくための自己覚知を深め、個別ケアに向けた介護実践への理解を深め実践に汎用できる能力を習得させる。
3．介護福祉に関する専門的な理論や知識を統合し、他職種と協働のもと多様性を尊重した介護を実践し、地域づくりに寄与できる能力を育成する。

保育専門科目

1．講義やグループワーク等を通して、保育に関する法・制度の概要を理解させ、子どもの最善の利益及び児童の発達に即した保育を展開することができる基本的態度を育成する。
2．事例検討・グループワーク、実習経験等を通して、他者との関わりから自ら内省する姿勢を持つとともに自己覚知を深め、専門的な理論と実践を統合し、保育を構想する力を育成する。
3．事例研究、グループワーク、調査研究等を活用して、子どもや子育てを取り巻く現状・課題についてその背景を構造的に捉え、子どもの最善の利益という価値に基づき、解決へ向けた方法の提案や行動につなぐことのできる専門性と技術を身につけさせる。

社会福祉実践科目

1．学生自身が学習到達目標を設定し、それを達成できるように、主体的に取り組むことができ、また、実習経験や実習後の学習成果を言語化し、一般化・理論化できるまでに理解を深め、他者にプレゼンテーションすることができる能力を習得させる。
2．「社会福祉基礎科目」及び「ソーシャルワーク・ケアワーク・保育専門科目」によって習得した知識や技術を統合し、実習で関わる対象者の理解を深め、専門職の役割について理解したうえで、信頼関係の構築や指導・支援計画の立案や実施、多職種協働、評価方法について、スーパービジョンを行いながら実践的に習得させる。
3．人々との関わりを通して、専門職としての自己覚知を深め、個々への尊厳のもと多様な価値観や立場を認めながら、各専門職として求められる資質、価値、倫理等、総合的に習得させる。

社会福祉展開科目

1．福祉分野横断的な理解と、ソーシャルワークの専門的展開に関する理解を促進させる。
2．多様な価値観を認め合いながら福祉分野横断的な理解と、ソーシャルワークの専門的展開に関する理解を促進させる。
3．時代や社会の変化に伴う福祉課題の変化を踏まえて、常に新しい課題に関心と意欲をもって、専門職として学び続ける態度を涵養させる。

演習・卒業研究

1．主体的に広く社会福祉の課題に関心を持ち、お互いに自身の考えを伝えあい、自らの考えや集団の考えを高めたり、協働に向けた取組みや地域活動に参画することができる力を涵養させる。

2．人間の尊厳と基本的人権の尊重という価値の中にある、自己の社会福祉への課題について、適切な研究方法を考え論述することができる力を育成する。
3．人間の尊厳と基本的人権の尊重という価値の中にある、自己の社会福祉への課題について論述したものや制作したもの、体験したことを他者や社会に発信・プレゼンテーションする能力を習得させる。

カリキュラムマップでは、各学科の学生が、卒業までに身につけるべき知識・能力を得るための授業科目が、どのように配置されているか、各授業科目の関連性などがわかるようになっています。

カリキュラムの授業科目間のつながりや年次進行などがわかりますので、履修上の参考にしてください。

人間福祉学科　カリキュラムマップ

（凡例）→ 必修科目　→ 介護のみ　→ 保育のみ

領域	学生が身につけるべき資質・能力	1年次	2年次	3年次	4年次
社会福祉基礎科目	・社会福祉に関連する主要な法・制度及び、人と社会に関する基礎的知識を修得させる。 ・社会福祉に関する現状とその課題を構造的に捉え、自分の見解を形成し、客観的かつ論理的に表現できる力を育成する。 ・人間の尊厳と基本的人権の尊重について理解を深め、諸問題に対して批判的見解を持つことができる力を育成する。	社会福祉概論Ⅰ 社会福祉概論Ⅱ 高齢者に対する支援と介護保険制度 子ども家庭福祉論 障害者福祉論 医学一般 ソーシャルワーク論Ⅰ	権利擁護と成年後見制度 社会的養護Ⅰ 地域福祉論Ⅰ	権利擁護と成年後見制度 心理学理論と心理的支援 社会保障論Ⅰ	
ソーシャルワーク専門科目	・社会福祉や隣接分野に関連する法・制度を体系的に理解させ、相談援助の展開過程に必要な理論や技術を習得させる。 ・専門的援助関係を形成していくうえで必要な自己覚知を深め、相談援助における基礎的なコミュニケーション技術や面接技術を実践的に習得させる。 ・生活課題や地域課題に対する相談援助の展開過程及び包括的支援について実践的に理解させ、それらを遂行する能力及び協働する力を育成する。 ・事例分析や先駆的実践を通して、ソーシャルワークのあり方や専門職倫理を理解させ、人々の生活課題や困難性の背景にある現代社会の諸問題に対し常に目を向け、問題意識を自ら持てる姿勢を身につけさせる。	相談援助演習Ⅰ	ソーシャルワーク論Ⅱ 公的扶助論 ソーシャルワーク論Ⅲ 地域福祉論Ⅱ 社会調査の基礎 社会理論と社会システム 相談援助演習Ⅱ	ソーシャルワーク論Ⅳ ソーシャルワーク論Ⅴ 保健医療サービス論 社会保障論Ⅱ 更生保護制度 社会福祉施設経営論	ソーシャルワーク論Ⅵ
介護福祉専門科目	・介護福祉における生活支援を必要とする人に関する理論を理解させ、実践の基本的枠組みを習得させる。 ・生活支援を必要とする人との信頼関係を構築していくための自己覚知を深め、個別ケアに向けた介護実践への理解を深め実践に汎用できる能力を習得させる。 ・介護福祉に関する専門的な理論や知識を統合し、他職種と協働のもと多様性を尊重した介護を実践し、地域づくりに寄与できる能力を育成する。	介護福祉論Ⅰ 介護福祉論Ⅱ 介護コミュニケーション技術Ⅰ 生活支援技術概論 日常生活支援技術Ⅰ 日常生活支援技術Ⅱ 日常生活支援技術Ⅲ 介護過程基礎 発達と老化Ⅰ 発達と老化Ⅱ 介護総合演習Ⅰ 介護実習Ⅰ	介護と倫理 介護コミュニケーション技術Ⅱ 生活環境支援技術 家事生活支援技術 生活支援技術応用Ⅰ（障がいⅠ） 生活支援技術応用Ⅱ（障がいⅡ） 生活支援技術展開Ⅰ（余暇支援） 介護過程展開 介護過程実践Ⅰ（高齢者領域） 認知症の理解Ⅰ 認知症の理解Ⅱ 障がいの理解Ⅰ 障がいの理解Ⅱ こころとからだのしくみⅠ こころとからだのしくみⅡ 介護総合演習Ⅱ 介護実習Ⅱ	介護と環境 生活支援技術展開Ⅱ（内部障害） 介護過程実践Ⅱ（障がい者領域） 介護過程実践Ⅲ（ケアマネジメント） 医療を必要とする人への介護Ⅰ 医療を必要とする人への介護Ⅱ 医療を必要とする人への介護Ⅲ 医療を必要とする人への介護Ⅳ 介護総合演習Ⅲ 介護総合演習Ⅳ 介護実習Ⅲ	
保育専門科目	・講義やグループワーク等を通して、保育に関する法・制度の概要を理解させ、子どもの最善の利益及び児童の発達に即した保育を展開することができる基本的態度を育成する。 ・事例検討・グループワーク、実習経験等を通して、他者との関わりから自ら内省する姿勢を持つとともに自己覚知を深め、専門的な理論と実践を統合し、保育を構想する力を育成する。 ・事例研究、グループワーク、調査研究等を活用して、子どもや子育てを取り巻く現状・課題についてその背景を構造的に捉え、子どもの最善の利益という価値に基づき、解決へ向けた方法の提案や行動につなぐことのできる専門性と技術を身につけさせる。	保育原理 保育の心理学 子ども家庭支援の心理学 子どもの理解と援助 保育内容総論 保育内容演習Ⅰ（健康） 保育内容の理解と方法Ⅰ（健康） 保育内容の理解と方法Ⅱ（人間関係） 保育内容の理解と方法Ⅳ（言葉） ピアノ	教育原理 子どもの保健 子どもの健康と安全 子どもの食と栄養 保育内容演習Ⅱ（人間関係） 保育内容演習Ⅲ（環境） 保育内容演習Ⅳ（言葉） 保育内容の理解と方法Ⅲ（環境） 保育内容の理解と方法Ⅴ（表現） 乳児保育Ⅰ 乳児保育Ⅱ 障害児保育 社会的養護Ⅱ 子ども家庭支援論 発達障害の理解 保育実習指導Ⅰ ピアノ	保育者論 保育の計画と評価 保育内容演習Ⅴ（表現） 社会的養護Ⅲ 子育て支援Ⅰ 子育て支援Ⅱ 保育と行政 保育実践演習 保育実習ⅠA 保育実習ⅠB 保育実習Ⅱ 保育実習指導Ⅱ 保育実習Ⅲ 保育実習指導Ⅲ ピアノ	保育実習Ⅱ 保育実習指導Ⅱ 保育実習Ⅲ ピアノ
社会福祉実践科目	・学生自身が学習到達目標を設定し、それを達成できるように、主体的に取り組むことができ、また、実習経験や実習後の学習成果を言語化し、一般化・理論化できるまでに理解を深め、他者にプレゼンテーションすることができる能力を習得させる。 ・「社会福祉基礎科目」及び「ソーシャルワーク・ケアワーク・保育専門科目」によって習得した知識や技術を統合し、実習で関わる対象者の理解を深め、専門職の役割について理解したうえで、信頼関係の構築や指導・支援計画の立案や実施、多職種協働、評価方法について、スーパービジョンを行いながら実践的に習得させる。 ・人々との関わりを通して、専門職としての自己覚知を深め、個々への尊厳のもと多様な価値観や立場を認めながら、各専門職として求められる資質、価値、倫理等、総合的に習得させる。		相談援助実習指導Ⅰ 相談援助実習指導Ⅱ 相談援助演習Ⅲ	相談援助実習指導Ⅱ 相談援助実習指導Ⅲ 社会福祉実習 相談援助演習Ⅲ 相談援助演習Ⅳ 相談援助演習Ⅴ	相談援助実習指導Ⅲ 社会福祉実習 相談援助演習Ⅳ 相談援助演習Ⅴ
社会福祉展開科目	・福祉分野横断的な理解と、ソーシャルワークの専門的展開に関する理解を促進させる。 ・多様な価値観を認め合いながら福祉分野横断的な理解と、ソーシャルワークの専門的展開に関する理解を促進させる。 ・時代や社会の変化に伴う福祉課題の変化を踏まえて、常に新しい課題に関心と意欲をもって、専門職として学び続ける態度を涵養させる。	福祉と食 介護基礎 手話 多職種連携入門	行政福祉総論 行政福祉演習Ⅰ 手話 多職種連携入門	行政福祉演習Ⅱ 行政福祉演習Ⅲ 医療ソーシャルワーク論 ケア論 福祉行財政と福祉計画 手話 多職種連携入門	行政福祉演習Ⅳ ソーシャルワーク特論 医療ソーシャルワーク論 手話 多職種連携入門
演習・卒業研究	・主体的に広く社会福祉の課題に関心を持ち、お互いに自身の考えを伝えあい、自らの考えや集団の考えを高めたり、協働に向けた取組みや地域活動に参画することができる力を涵養させる。 ・人間の尊厳と基本的人権の尊重という価値の中にある、自己の社会福祉への課題について、適切な研究方法を考え論述することができる力を育成する。 ・人間の尊厳と基本的人権の尊重という価値の中にある、自己の社会福祉への課題について論述したものや制作したもの、体験したことを他者や社会に発信・プレゼンテーションする能力を習得させる。		人間福祉基礎演習	人間福祉演習	卒業研究

DP
人間福祉学科では、教育研究上の目的を達成するために、次の学生像を人材育成の方針とする。
1．福祉や健康に関しての知識を広く持ち、「健康で幸福な生活【健幸】」の実現の意味を全人的・社会総合的に探究しつづける能力を有している。
2．人間の尊厳と基本的人権を尊重し、地域共生社会の実現の重要性を理解し、連携・協働する力を有している。
3．現代社会や福祉に広く関心を持ち、個人の生活課題や地域社会の課題を的確に捉え、自身の考えを持ち、解決に向けて取り組む力を有している。

CP
人間福祉学科では、社会福祉の学びを基礎とし、学科全員が共通に学ぶ「社会福祉基礎科目」、目指す専門性に応じて選択する「ソーシャルワーク専門科目」「介護福祉専門科目」「保育専門科目」、知識・技術の統合を図る「社会福祉実践科目」、福祉専門職としての資質向上や学部共通理念である【健幸】への学びを深める「社会福祉展開科目」「演習・卒業研究」を設ける。

4 人間生活学部 人間福祉学科（ND）
専門科目教育課程 2024年度生

科目群		卒業に必要な単位数	
共通科目		22単位以上	
学科専門科目	必修	27単位	90単位以上
	選択	63単位以上	
自由選択科目		12単位以上	
計		124単位以上	

- 共通科目から、必修科目９単位、選択必修科目６単位を含めた22単位以上を履修
- 専門科目から、必修科目27単位（卒業研究を含む）を含めた90単位以上を履修すること
- 選択科目は、12単位以上を履修
- 合計124単位以上を履修

What's “自由選択科目”!?

a．共通科目22単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
例）共通科目28単位取得した場合は、６単位分が自由選択科目の単位となる。

b．自学科の専門選択科目63単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
例）自学科の専門選択科目70単位取得した場合は、７単位分が自由選択科目の単位となる

c．他学科の他学科開放科目を修得すると自由選択科目の単位となる。

a～cを組み合わせて（又は単独で）12単位以上を履修

科目区分	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	授業形態	履修期	配当年次	他学科開放	備考	身につく力（◎…重要な目的としている ○…主な目的としている）社会福祉に関する制度及び援助関係との基本的理解	科学的根拠をもって援助・支援にあたる論理的思考力	問題解決のための専門性と倫理の理解	専門的援助関係の基本的理解と形成	体験的理解と自己覚知	多様な価値観や立場を踏まえた自己表現及び専門的関係の形成	諸課題の構造的把握と理解、課題解決に向けた方法の提示	体験の意味づけと表現・発信	地域社会・福祉社会形成へ参画する意欲
社会福祉基礎科目	社会福祉概論Ⅰ	2		講義	前	1年	×	*	◎	○	○				◎	○	○
	社会福祉概論Ⅱ	2		講義	後	1年	×	*	◎	○	○				◎	○	○
	高齢者に対する支援と介護保険制度	2		講義	前	2年	×	*	◎	○	○				◎		
	子ども家庭福祉論	2		講義	前	1年	×	*			○				◎	○	○
	障害者福祉論	2		講義	後	1年	×		◎	○	○	○	○	○	◎	○	○
	医学一般		○●2	講義	前	1年	×	*	◎	○	○	○	○	○	◎	○	○
	権利擁護と成年後見制度		○●△2	講義	後	2・3年	×		◎	○	○				◎		◎
	心理学理論と心理的支援		○●2	講義	前	3年	×	*	◎	○	○				◎		○
	社会保障論Ⅰ	2		講義	前	3年	○		◎	○	○				◎	○	○
	ソーシャルワーク論Ⅰ	2		講義	後	1年	×	*	◎	○	◎	○		○			
	社会的養護Ⅰ		▲2	講義	前	2年	×				◎	○		○	◎		
	地域福祉論Ⅰ	2		講義	前	2年	×	*	◎	○	○				◎		○
ソーシャルワーク専門科目	ソーシャルワーク論Ⅱ	2		講義	前	2年	×	*	◎	○	◎	○		○			
	ソーシャルワーク論Ⅲ		○△2	講義	後	2年	×	*			○	◎	○	○	◎		
	ソーシャルワーク論Ⅳ		○△2	講義	前	3年	×	*			○	◎	○	○	◎		
	ソーシャルワーク論Ⅴ		○△2	講義	後	3年	×	*	○	○	◎	◎				○	○
	ソーシャルワーク論Ⅵ		○△2	講義	前	4年	×	*									
	地域福祉論Ⅱ		○△2	講義	後	2年	×	*	◎	○	○				◎		○
	社会調査の基礎		○2	講義	前	2年	×	*		◎					◎		
	社会理論と社会システム		○2	講義	後	2年	×	*	○		◎				◎		
	公的扶助論	2		講義	前	2年	×	*	◎	○	○				◎	○	○
	保健医療サービス論		○2	講義	前	3年	×		◎	○	○	○			◎	○	○
	社会保障論Ⅱ		○●△2	講義	後	3年	×	*	◎	○	○				◎	○	○
	更生保護制度		○2	講義	後	3年	×		◎	○	○				◎	○	○
	社会福祉施設経営論		○2	講義	後	3年	×	*	◎	○	○	◎	○	○	◎	○	○
	相談援助演習Ⅰ		○1	演習	後	1年	×		◎		○	◎	◎	○		○	
	相談援助演習Ⅱ		○1	演習	前	2年	×				◎	○	◎	○			
介護福祉専門科目	介護福祉論Ⅰ		●2	講義	前	1年	×	介護のみ	◎	○		◎		○			○
	介護福祉論Ⅱ		●2	講義	後	1年	×	介護のみ	◎		○	◎	○	○	◎		○
	介護と倫理		●2	講義	前	2年	×	介護のみ		◎	◎		○	○	◎	○	○
	介護と環境		●2	講義	前	3年	×	介護のみ	◎	◎	○	○			◎		○
	介護コミュニケーション技術Ⅰ		●1	演習	後	1年	×	介護のみ	◎		○		◎		○	◎	
	介護コミュニケーション技術Ⅱ		●1	演習	前	2年	×	介護のみ		◎	○	○	◎	○		◎	○
	生活支援技術概論		●1	演習	前	1年	×	介護のみ	○	◎	◎	◎		○		○	
	日常生活支援技術Ⅰ		●1	演習	前	1年	×	介護のみ		◎	◎	◎	○	○		○	
	日常生活支援技術Ⅱ		●1	演習	後	1年	×	介護のみ	○	◎	◎	◎		○		○	
	日常生活支援技術Ⅲ		●1	演習	後	1年	×	介護のみ		◎	◎	◎	○	○		○	
	生活環境支援技術		●1	演習	後	2年	×	介護のみ			◎	◎			◎		○
	家事生活支援技術		●1	演習	前	2年	×	介護のみ		◎	◎	◎	○			○	
	生活支援技術応用Ⅰ（障がいⅠ）		●1	演習	前	2年	×	介護のみ	○	◎	◎	◎			○		○
	生活支援技術応用Ⅱ（障がいⅡ）		●1	演習	後	2年	×	介護のみ	○	◎	◎	◎		○	○		○
	生活支援技術展開Ⅰ（余暇支援）		●1	演習	前	2年	×	介護のみ		◎		◎	◎	○	○	○	
	生活支援技術展開Ⅱ（内部障害）		●1	演習	後	3年	×	介護のみ	○	◎		◎	○		◎	○	
	介護過程基礎		●2	講義	後	1年	×	介護のみ		◎	○	◎	◎	○	○		
	介護過程展開		●2	講義	前	2年	×	介護のみ		◎	○	○	◎		◎		○
	介護過程実践Ⅰ（高齢者領域）		●1	演習	後	2年	×	介護のみ	○	◎	◎	○	○	○	◎	○	○
	介護過程実践Ⅱ（障がい者領域）		●1	演習	前	3年	×	介護のみ		◎	◎	○		○	◎		○
	介護過程実践Ⅲ（ケアマネジメント）		●2	講義	後	3年	×	介護のみ		○	◎	○		○	◎		◎
	発達と老化Ⅰ		●2	講義	前	1年	×		◎	◎		○		○	◎		○
	発達と老化Ⅱ		●2	講義	後	1年	×		◎	○		◎		○	◎		○
	認知症の理解Ⅰ		●2	講義	前	2年	×		◎	◎		○		○	◎		
	認知症の理解Ⅱ		●1	演習	後	2年	×		◎		○	◎		○	◎		

科目区分	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	授業形態	履修期	配当年次	他学科開放	備考	身につく力（◎…重要な目的としている　○…主な目的としている）社会福祉に関する法令・制度及び支援に関しての基本的理解	科学的根拠をもって援助・支援にあたる論理的思考力	問題解決のための専門性と倫理の理解	専門的援助関係の基本的理解と形成	体験的理解と自己覚知	多様な価値観や立場を踏まえた自己表現及び集団関係の形成	諸問題の構造的把握と理解 問題解決に向けた方法の提示	体験の意味づけと表現・発信	地域社会・福祉社会形成へ参画する意欲
介護福祉専門科目	障がいの理解Ⅰ		●△2	講義	前	2年	×		◎		○	○		◎	◎		○
	障がいの理解Ⅱ		●△2	講義	後	2年	×		◎		○	○		◎	◎		○
	こころとからだのしくみⅠ		●2	講義	前	2年	×		◎	◎	○	○		◎	○		
	こころとからだのしくみⅡ		●2	講義	後	2年	×		○	◎		○	◎	◎	○		
	医療を必要とする人への介護Ⅰ		●2	講義	前	3年	×	介護のみ	◎	◎	◎	○	○				○
	医療を必要とする人への介護Ⅱ		●2	講義	前	3年	×	介護のみ	○	◎		◎	◎				○
	医療を必要とする人への介護Ⅲ		●2	講義	後	3年	×	介護のみ		◎		◎	◎			○	○
	医療を必要とする人への介護Ⅳ		●1	演習	後	3年	×	介護のみ		◎		◎	○	◎		○	○
	介護総合演習Ⅰ		●1	演習	後	1年	×	介護のみ		◎		◎	○	○		◎	
	介護総合演習Ⅱ		●1	演習	後	2年	×	介護のみ		◎	◎	○	◎	○		○	
	介護総合演習Ⅲ		●1	演習	前	3年	×	介護のみ		◎	◎	○	○	◎		○	
	介護総合演習Ⅳ		●1	演習	後	3年	×	介護のみ		◎	○	○	○	○		◎	◎
	介護実習Ⅰ		●2	実習	後	1年	×	介護のみ	◎	◎	○	◎	○		○	○	
	介護実習Ⅱ		●4	実習	後	2年	×	介護のみ		○	◎	○	◎		◎	○	
	介護実習Ⅲ		●4	実習	前	3年	×	介護のみ		○	◎	○	◎		○	○	◎
保育専門科目	保育原理		▲2	講義	前	1年	×		◎	◎	○				◎	○	
	教育原理		▲2	講義	後	2年	×		◎	◎	○				◎	○	
	保育者論		▲2	講義	前	3年	×	保育のみ	◎	○	◎	○		○	◎		
	保育の心理学		▲2	講義	前	1年	×		◎	○	◎	○		○	○		
	子ども家庭支援の心理学		▲2	講義	後	1年	×	保育のみ	◎		○	◎			◎		
	子どもの保健		▲2	講義	前	2年	×		◎	◎	○	○	○	○	○	○	○
	子どもの健康と安全		▲2	演習	後	2年	×	保育のみ	○	○	○	○	◎	◎	◎	○	○
	子どもの理解と援助		▲2	演習	後	1年	×	保育のみ	◎	◎	○			○	◎	○	
	子どもの食と栄養		▲2	演習	前	2年	×	保育のみ	◎	◎			○		◎	○	
	子ども家庭支援論		▲2	講義	後	2年	×	保育のみ	◎	◎	◎			○	○		
	保育の計画と評価		▲2	講義	前	3年	×	保育のみ	◎			◎	○		◎		
	保育内容総論		▲1	演習	後	1年	×	保育のみ	◎		◎		○	○	○		
	保育内容演習Ⅰ（健康）		▲2	演習	後	1年	×	保育のみ	◎		○	◎			◎	○	
	保育内容演習Ⅱ（人間関係）		▲2	演習	前	2年	×	保育のみ	◎		◎	○		◎	○		
	保育内容演習Ⅲ（環境）		▲2	演習	後	2年	×	保育のみ	◎		◎			○	○	◎	
	保育内容演習Ⅳ（言葉）		▲2	演習	前	2年	×	保育のみ			◎	○		◎	○	◎	
	保育内容演習Ⅴ（表現）		▲2	演習	前	3年	×	保育のみ				◎	○	◎		◎	
	保育内容の理解と方法Ⅰ(健康)		▲2	演習	前	1年	×	保育のみ	◎		○	◎			◎	○	
	保育内容の理解と方法Ⅱ(人間関係)		▲2	演習	後	1年	×	保育のみ	◎		◎	◎	○	○	◎	○	
	保育内容の理解と方法Ⅲ(環境)		▲2	演習	前	2年	×	保育のみ	◎		◎			○	○	◎	
	保育内容の理解と方法Ⅳ(言葉)		▲2	演習	後	1年	×	保育のみ	◎		◎	◎		○			
	保育内容の理解と方法Ⅴ(表現)		▲2	演習	後	2年	×	保育のみ				◎	○	◎		◎	
	乳児保育Ⅰ		▲2	講義	前	2年	×	保育のみ			◎	○		◎	○		
	乳児保育Ⅱ		▲1	演習	後	2年	×	保育のみ			◎		○	◎	◎		
	障害児保育		▲2	演習	前	2年	×	保育のみ			○	◎	○	○	◎		○
	社会的養護Ⅱ		▲1	演習	後	2年	×	保育のみ			○	◎	○	○	◎		○
	社会的養護Ⅲ		▲1	演習	前	3年	×	保育のみ			○	◎	○	○	◎		○
	子育て支援Ⅰ		▲2	演習	前	3年	×	保育のみ	○	○	○	◎		◎	◎	○	
	子育て支援Ⅱ		▲2	演習	後	3年	×	保育のみ	○	○	○	◎		◎	◎	○	
	ピアノ		△1	演習	前·後	1·2·3·4年	×	保育のみ				◎	◎	○		◎	
	発達障害の理解		△2	講義	後	2年	×		◎		◎			○	◎		○
	保育と行政		2	講義	前	3・4年	×				◎				○		○
	保育実践演習		▲2	演習	後	3年	×	保育のみ		○	○	○	○	○	◎	◎	◎
	保育実習ⅠA		▲2	実習	前·後	3年	×	保育のみ			◎	◎	◎	○	○		○
	保育実習ⅠB		▲2	実習	前·後	3年	×	保育のみ			◎	◎		○	○		○
	保育実習指導Ⅰ		▲2	演習	通	2年	×	保育のみ	○	○	◎	◎		○	◎	○	
	保育実習Ⅱ		★△2	実習	後·前	3・4年	×	保育のみ 3年は後期 4年は前期		○	○	◎	◎		○		◎
	保育実習指導Ⅱ		★△1	演習	前	3年	×	保育のみ	◎	○	◎	◎		○		○	
	保育実習Ⅲ		☆△2	実習	後·前	3・4年	×	保育のみ 3年は後期 4年は前期		○	○	◎	◎	○	○		◎
	保育実習指導Ⅲ		☆△1	演習	前	3年	×	保育のみ	◎	○	◎	◎		○	○	○	○

保育士資格取得希望者は、★印の2科目3単位又は☆印の2科目3単位以上を履修すること

科目区分	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	授業形態	履修期	配当年次	他学科開放	備考	身につく力（◎…重要な目的としている ○…主な目的としている）社会福祉に関する法や制度及び援助に関しての基本的理解	科学的根拠をもって援助・支援にあたる態度	問題解決のための専門性と倫理の理解	専門的援助関係の基本的理解と形成	体験的理解と自己覚知	多様な価値や立場を踏まえた自己表現及び表現の形成	諸問題の構造的把握と理解、問題解決に向けた方策の提示	体験の意味づけと表現・発信	地域社会・福祉社会形成へ参画する意欲
社会福祉実践科目	相談援助実習指導Ⅰ		○1	演習	前	2年	×		○		○	◎	○	◎		◎	
	相談援助実習指導Ⅱ		○1	演習	後	2・3年	×		○	○	○	◎	○	◎	○	◎	○
	相談援助実習指導Ⅲ		○2	演習	通	3・4年	×		○	○	○	◎	○	◎	○	◎	○
	社会福祉実習		○4	実習	通	3・4年	×		○	○	○	◎	◎	◎	○	○	○
	相談援助演習Ⅲ		1	演習	後	2・3年	×		○		○	◎	◎	○		○	
	相談援助演習Ⅳ		1	演習	前	3・4年	×				○	○	◎	◎	○	○	○
	相談援助演習Ⅴ		1	演習	後	3・4年	×				○	○	◎	◎	○	○	○
社会福祉展開科目	福祉と食		2	講義	後	1年	○		◎		◎	○			◎		
	行政福祉総論		2	講義	前	2年	×		◎	○	○				◎	○	○
	行政福祉演習Ⅰ		1	演習	後	2年	×		◎	○	◎	○	○	○	◎	○	◎
	行政福祉演習Ⅱ		1	演習	前	3年	×		◎	○	◎	○	○	○	◎	○	◎
	行政福祉演習Ⅲ		1	演習	後	3年	×		◎	○	◎	○	○	○	◎	○	◎
	行政福祉演習Ⅳ		1	演習	前	4年	×		◎	○	◎	○	○	○	◎	○	◎
	ソーシャルワーク特論		2	講義	後	4年	×		◎	○	◎	○	○	○	◎	○	○
	介護基礎		2	講義	前	1年	×			◎	◎	◎		○	○		
	手話		2	講義	後	1·2·3·4年	×		◎		○	◎				○	◎
	多職種連携入門		2	講義	前	1·2·3·4年	○							◎			◎
	医療ソーシャルワーク論		2	講義	後	3・4年	○		◎		◎	○				◎	○
	ケア論		2	講義	前	3年	×				○	○	○	◎	○	○	
	福祉行財政と福祉計画		2	講義	前	3年	×		◎	○	○				◎	○	○
演習	人間福祉基礎演習	1		演習	前	2年	×		◎					◎		◎	
	人間福祉演習	2		演習	通	3年	×			◎		◎			◎		
卒業研究	卒業研究	4		演習	通	4年	×								◎	◎	◎

［単位数欄の記号について］
註：○印の科目は、社会福祉士の必修科目。　註：●印の科目は、介護福祉士の必修科目。
註：▲印の科目は、保育士資格の必修科目。　註：△印の科目は、保育士資格の選択必修科目。

［「卒業研究」の履修について］
註１：「卒業研究」を履修するには、「入門ゼミナール」、「人間福祉基礎演習」、「人間福祉演習」をすべて修得していること。
註２：「人間福祉演習」を履修するためには、60単位以上修得していること。

［資格の履修について］
註１：社会福祉士国家試験の受験資格取得希望者は必修科目に加えて単位数欄にある○印の科目を全て履修しなければならない。
註２：介護福祉士国家試験の受験資格取得希望者は必修科目に加えて単位数欄にある●印の科目を全て履修しなければならない。
註３：保育士資格取得希望者は必修科目に加えて単位数欄にある▲印の科目を全て履修しなければならない。さらに単位数欄にある△印から４単位以上履修すること。そのうち「保育実習Ⅱ」と「保育実習指導Ⅱ」、又は「保育実習Ⅲ」と「保育実習指導Ⅲ」のどちらか３単位以上を履修しなければならない。
註４：社会福祉主事任用資格の取得のためには、備考欄に＊印がついている科目のうち、３科目以上を履修しなければならない。
ただし、「社会福祉概論」「社会保障論」「地域福祉論」は「ＩとⅡ」の両方を、「ソーシャルワーク論」は「Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ」を合わせて取得して１科目の履修とする。

［「保育のみ」の演習科目の履修について］
註：備考に「保育のみ」と記載のある科目のうち、「演習科目」については、１クラスあたりの履修者数に法令上の上限があるため、原則として保育士資格取得希望者のみ履修可能とする。ただし、定員に空きがある場合に限って、他の学生の受講を認める。保育士資格を取得しない学生が履修を希望する場合には、事前に科目担当者に相談すること。

［「介護のみ」の履修について］
註：備考に介護のみと記載のある科目は、原則介護福祉士養成課程の学生のみ受講可。
介護福祉士養成課程以外の学生の受講に関しては、当該年度の養成課程の所属人数によって、１年次科目の受講は可とし、２年次以降の科目は科目担当者が判断する。（履修に関しては学生より直接担当教員へ相談すること）

1　社会福祉士国家試験受験資格 取得課程（人間福祉学科）

1　社会福祉士受験資格取得課程について

人間生活学部人間福祉学科の学生は、卒業に必要な単位を修めた他に指定科目を履修することで厚生労働省が認可している国家試験の受験資格が取得できます。社会福祉士は「社会福祉士及び介護福祉士法」に基づく資格です。本学において、指定科目を修めて卒業すると国家試験受験資格が得られます。

なお、国家試験受験資格は、社会福祉の施設や機関において相談援助業務などの専門職につく際に有利な条件となります。就職に有利となる職種は、以下のとおりです。

①老人福祉施設・児童福祉施設・障害者施設の生活相談員、生活指導員、児童指導員等
②在宅介護支援センターのソーシャルワーカー
③福祉事務所や更生相談所のケースワーカー
④児童相談所の児童福祉司・相談員
⑤社会福祉協議会や民間の福祉団体、福祉系NPOの職員
⑥民間の福祉関係事業所、福祉関連企業の社員

2 履修する上での注意事項

学科の履修相談において、事前の指導を受けてください。

［人間福祉学科　2024年度生（こども家庭福祉・行政コース／総合福祉・介護福祉コース）］

人間福祉学科の学生は、卒業に必要な単位を修めた他に指定科目を履修することで社会福祉士国家試験の受験資格が取得できます。

社会福祉士国家試験受験資格を取得する場合は、下表の必修科目をすべて修得してください。

（この表における必修、選択などの区分は学科の卒業要件とは異なります。）

社会福祉士指定科目	本学開設科目	単位数		授業形態	履修期	配当学年	備　考
		必修	選択				
社会福祉の原理と政策（60h）	社会福祉概論Ⅰ	2		講義	前期	1	
	社会福祉概論Ⅱ	2		講義	後期	1	
ソーシャルワークの基盤と専門職（30h）	ソーシャルワーク論Ⅰ	2		講義	後期	1	
ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）（30h）	ソーシャルワーク論Ⅱ	2		講義	前期	2	
ソーシャルワークの理論と方法（60h）	ソーシャルワーク論Ⅲ	2		講義	後期	2	
	ソーシャルワーク論Ⅳ	2		講義	前期	3	
ソーシャルワークの理論と方法（専門）（60h）	ソーシャルワーク論Ⅴ	2		講義	後期	3	
	ソーシャルワーク論Ⅵ	2		講義	前期	4	
高齢者福祉（30h）	高齢者に対する支援と介護保険制度	2		講義	前期	2	
障害者福祉（30h）	障害者福祉論	2		講義	後期	1	
児童・家庭福祉（30h）	子ども家庭福祉論	2		講義	前期	1	
地域福祉と包括的支援体制（60h）	地域福祉論Ⅰ	2		講義	前期	2	
	地域福祉論Ⅱ	2		講義	後期	2	
医学概論（30h）	医学一般	2		講義	前期	1	
社会福祉調査の基礎（30h）	社会調査の基礎	2		講義	前期	2	
社会学と社会システム（30h）	社会理論と社会システム	2		講義	後期	2	
貧困に対する支援（30h）	公的扶助論	2		講義	前期	3	
保健医療と福祉（30h）	保健医療サービス論	2		講義	前期	3	
社会保障（60h）	社会保障論Ⅰ	2		講義	前期	3	
	社会保障論Ⅱ	2		講義	後期	3	
権利擁護を支える法制度(30h)	権利擁護と成年後見制度	2		講義	前期	3	
刑事司法と福祉（30h）	更生保護制度	2		講義	後期	3	
心理学と心理的支援（30h）	心理学理論と心理的支援	2		講義	前期	3	
福祉サービスの組織と経営（30h）	社会福祉施設経営論	2		講義	後期	3	
ソーシャルワーク演習（30h）	相談援助演習Ⅰ	1		演習	後期	1	
ソーシャルワーク演習(専門)（120h）	相談援助演習Ⅱ	1		演習	前期	2	
	相談援助演習Ⅲ	1		演習	後期	2・3	
	相談援助演習Ⅳ	1		演習	前期	3・4	
	相談援助演習Ⅴ	1		演習	後期	3・4	
ソーシャルワーク実習指導（90h）	相談援助実習指導Ⅰ	1		演習	前期	2	
	相談援助実習指導Ⅱ	1		演習	後期	2・3	
	相談援助実習指導Ⅲ	2		演習	通年	3・4	
ソーシャルワーク実習(240h)	社会福祉実習	4		実習	通年	3・4	

2 介護福祉士国家試験受験資格 取得課程（人間福祉学科）

1 介護福祉士受験資格取得課程について

人間生活学部人間福祉学科の学生は、卒業に必要な単位を修めた他に指定科目を履修することで厚生労働省が認可している国家試験の受験資格が取得できます。

介護福祉士は「社会福祉士及び介護福祉士法」に基づく資格です。本学において、指定科目を修めて卒業すると国家試験受験資格が得られます。

なお、介護福祉士資格、介護福祉士国家試験受験資格は、介護保険施設など各種社会福祉施設や機関において介護業務などの専門職につく際に必要な条件となります。

就職に有利となる職種は、以下のとおりです。

①高齢者施設、障がい・児童施設等の介護専門職・生活支援員
②在宅介護事業所の訪問介護専門職
③福祉機器関連企業等民間企業の介護専門職
④社会福祉協議会、事業団・NPO等の介護専門職
⑤高齢者、障がい者等にかかわる医療機関の介護専門職
⑥経験年数を活かし、ケアマネージャーや相談援助職

2 履修する上での注意事項

学科の履修相談において、事前の指導を受けてください。

［人間福祉学科　2024年度生（総合福祉・介護福祉コース）］

本学の人間福祉学科総合福祉・介護福祉コースは、介護福祉士養成施設です。

本学において、卒業に必要な単位を修め、他に指定科目を修めて卒業すると国家試験受験資格が得られます。

介護福祉士国家試験受験資格を取得する者は、次表の必修科目をすべて修得してください。

介護福祉士指定科目	本学開設科目	単位数		履修期	配当学年	備　考
		必修	選択			
「人間と社会」(240h)	社会福祉概論Ⅰ	2		前期	1	
	社会福祉概論Ⅱ	2		後期	1	
	ソーシャルワーク論Ⅰ	2		後期	1	
	高齢者に対する支援と介護保険制度	2		前期	2	
	ソーシャルワーク論Ⅱ	2		前期	2	
	社会保障論Ⅰ	2		前期	3	
	社会保障論Ⅱ	2		後期	3	
	権利擁護と成年後見制度	2		前期	3	
介護の基本（180h）	介護福祉論Ⅰ	2		前期	1	
	介護福祉論Ⅱ	2		後期	1	
	介護と倫理	2		前期	2	
	障害者福祉論	2		後期	1	
	介護と環境	2		前期	3	
	地域福祉論Ⅰ	2		前期	2	
コミュニケーション技術（60h）	介護コミュニケーション技術Ⅰ	1		後期	1	
	介護コミュニケーション技術Ⅱ	1		前期	2	
生活支援技術（300h）	生活支援技術概論	1		前期	1	
	日常生活支援技術Ⅰ	1		前期	1	
	日常生活支援技術Ⅱ	1		後期	1	
	日常生活支援技術Ⅲ	1		後期	1	
	生活環境支援技術	1		後期	2	
	家事生活支援技術	1		前期	2	
	生活支援技術応用Ⅰ（障がいⅠ）	1		前期	2	
	生活支援技術応用Ⅱ（障がいⅡ）	1		後期	2	
	生活支援技術展開Ⅰ（余暇支援）	1		前期	2	
	生活支援技術展開Ⅱ（内部障害）	1		後期	3	
介護過程（150h）	介護過程基礎	2		後期	1	
	介護過程展開	2		前期	2	
	介護過程実践Ⅰ（高齢者領域）	1		後期	2	
	介護過程実践Ⅱ（障がい者領域）	1		前期	3	
	介護過程実践Ⅲ（ケアマネジメント）	2		後期	3	
介護実習（450h）	介護実習Ⅰ	2		後期	1	
	介護実習Ⅱ	4		後期	2	
	介護実習Ⅲ	4		前期	3	
介護総合演習（120h）	介護総合演習Ⅰ	1		後期	1	
	介護総合演習Ⅱ	1		後期	2	
	介護総合演習Ⅲ	1		前期	3	
	介護総合演習Ⅳ	1		後期	3	
発達と老化の理解（60h）	発達と老化Ⅰ	2		前期	1	
	発達と老化Ⅱ	2		後期	1	
認知症の理解（60h）	認知症の理解Ⅰ	2		前期	2	
	認知症の理解Ⅱ	1		後期	2	
障害の理解（60h）	障がいの理解Ⅰ	2		前期	2	
	障がいの理解Ⅱ	2		後期	2	
こころとからだのしくみ（120h）	医学一般	2		前期	1	
	心理学理論と心理的支援	2		前期	3	
	こころとからだのしくみⅠ	2		前期	2	
	こころとからだのしくみⅡ	2		後期	2	
医療的ケア（120h）	医療を必要とする人への介護Ⅰ	2		前期	3	
	医療を必要とする人への介護Ⅱ	2		前期	3	
	医療を必要とする人への介護Ⅲ	2		後期	3	
	医療を必要とする人への介護Ⅳ	1		後期	3	
	小　　計	88				

3 保育士資格 取得課程（人間福祉学科〈こども家庭福祉・行政コース〉）

保育士資格は児童福祉法第18条の４に則るところの法定資格です。

保育士業務を行うには、都道府県知事に対して登録申請を行い、保育士登録簿への登載、保育士証の交付を受ける必要があることを承知しておいてください。（児童福祉法第18条の18）

なお、現在は、卒業年度に申請手続きを希望する学生に限り、大学が一括して「都道府県知事委託　保育士登録機関　登録事務処理センター」に申請を行います。

申請手続きの方法、時期、登録手数料等については別に連絡をしますので、各自の責任において申請手続きを行ってください。

必要な資格及び修得単位数

◎最低修得単位数は、下表のとおりです。

学　　科	基礎資格	児童福祉法における最低修得単位数			
		教養科目	必修科目	選択必修科目	合　計
人間福祉学科 こども家庭福祉・行政コース	学士の学位を有すること	10以上	51以上	18以上	79以上

※実習科目の履修にあたっては、別冊「実習の手引き」に記載されている実習の要件を全て満たすことが必要です。

3 -1　保育士（人間福祉学科〈こども家庭福祉・行政コース〉）

1　教養科目

告示による教科目			指定保育士養成施設における教科目の開設状況（新）				履修期	配当学年	備　考
教科目	授業形態	単位数	本学開設科目	授業形態	単位数 必修	単位数 選択			
外国語、体育以外の科目	不問	6以上	入門ゼミナール	講義	2		前期	1	
			地域と人間生活	講義	2		前・後	2・3・4	人間生活学部必修
			人間理解ワークショップ	講義		2	前・後	2・3・4	
			キャリアデザインとライフプラン	講義		2	前・後	1	
			リーガルリテラシー	講義		2	前・後	1	
			ジェンダーリテラシー	講義		2	前・後	1	
			子育てと環境	講義		2	前・後	1	
			女性と健康	講義		2	前・後	1	
			グローバル社会	講義		2	前・後	1	
			ネットワーク社会	講義		2	前・後	1	
			共生社会入門	講義		2	前・後	1	
			多様性と倫理	講義		2	前・後	1	
			持続可能な社会	講義		2	前・後	1	
			くらしのなかの日本国憲法	講義		2	前・後	1・2・3	
			はじめてのデータサイエンス	講義	2		後期	1	
外国語	演習	2以上	英語コミュニケーション演習	演習	1		前・後	1	
			英語Ⅰa	演習		＊1	前期	1	＊の科目から1科目1単位必修
			英語Ⅰb	演習		＊1	後期	1	
			英語Ⅱa	演習		＊1	前期	2・3・4	
			英語Ⅱb	演習		＊1	後期	2・3・4	
			中国語Ⅰa	演習		＊1	前期	1	
			中国語Ⅰb	演習		＊1	後期	1	
			中国語Ⅱa	演習		＊1	前期	2・3・4	
			中国語Ⅱb	演習		＊1	後期	2・3・4	
			朝鮮語Ⅰa	演習		＊1	前期	1	
			朝鮮語Ⅰb	演習		＊1	後期	1	
			フランス語Ⅰa	演習		＊1	前期	1	
			フランス語Ⅰb	演習		＊1	後期	1	
体育	講義	1	女性の心と身体	講義	2		前期	1・2・3	
	実技	1	身体運動Ⅰ	実技	1		前期	1・2・3・4	
			身体運動Ⅱ	実技	1		後期	1・2・3・4	
小　計		10以上	小　計		11				

2 必修科目

告示別表第１による教科目				指定保育士養成施設における教科目の開設状況（新）				履修期	配当学年	備考
系列	教科目	授業形態	単位数	本学開設科目	授業形態	単位数 必修	単位数 選択			
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	講義	2	保育原理	講義	2		前期	1	
	教育原理	講義	2	教育原理	講義	2		後期	2	
	子ども家庭福祉	講義	2	子ども家庭福祉論	講義	2		前期	1	
	社会福祉	講義	2	社会福祉概論Ⅰ	講義	2		前期	1	
	子ども家庭支援論	講義	2	子ども家庭支援論	講義	2		後期	2	
	社会的養護Ⅰ	講義	2	社会的養護Ⅰ	講義	2		前期	2	
	保育者論	講義	2	保育者論	講義	2		前期	3	
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学	講義	2	保育の心理学	講義	2		前期	1	
	子ども家庭支援の心理学	講義	2	子ども家庭支援の心理学	講義	2		後期	1	
	子どもの理解と援助	演習	1	子どもの理解と援助	演習	2		後期	1	
	子どもの保健	講義	2	子どもの保健	講義	2		前期	2	
	子どもの食と栄養	演習	2	子どもの食と栄養	演習	2		前期	2	
保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価	講義	2	保育の計画と評価	講義	2		前期	3	
	保育内容総論	演習	1	保育内容総論	演習	1		後期	1	
	保育内容演習	演習	5	保育内容演習Ⅰ（健康）	演習	2		後期	1	
				保育内容演習Ⅱ（人間関係）	演習	2		前期	2	
				保育内容演習Ⅲ（環境）	演習	2		後期	2	
				保育内容演習Ⅳ（言葉）	演習	2		前期	2	
				保育内容演習Ⅴ（表現）	演習	2		前期	3	
	保育内容の理解と方法	演習	4	保育内容の理解と方法Ⅰ（健康）	演習	2		前期	1	
				保育内容の理解と方法Ⅱ（人間関係）	演習	2		後期	1	
				保育内容の理解と方法Ⅲ（環境）	演習	2		前期	2	
				保育内容の理解と方法Ⅳ（言葉）	演習	2		後期	1	
				保育内容の理解と方法Ⅴ（表現）	演習	2		後期	2	
	乳児保育Ⅰ	講義	2	乳児保育Ⅰ	講義	2		前期	2	
	乳児保育Ⅱ	演習	1	乳児保育Ⅱ	演習	1		後期	2	
	子どもの健康と安全	演習	1	子どもの健康と安全	演習	2		後期	2	
	障害児保育	演習	2	障害児保育	演習	2		前期	2	
	社会的養護Ⅱ	演習	1	社会的養護Ⅱ	演習	1		後期	2	
				社会的養護Ⅲ	演習	1		前期	3	
	子育て支援	演習	1	子育て支援Ⅰ	演習	2		前期	3	
				子育て支援Ⅱ	演習	2		後期	3	
保育実習	保育実習Ⅰ	実習	4	保育実習ⅠA	実習	2		前・後	3	
				保育実習ⅠB	実習	2		前・後	3	
	保育実習指導Ⅰ	演習	2	保育実習指導Ⅰ	演習	2		通年	2	
総合演習	保育実践演習	演習	2	保育実践演習	演習	2		後期	3	
小計			51	小計		68				

3 選択必修科目

告示別表第２による教科目				指定保育士養成施設における教科目の開設状況（新）						
系　列	教科目	授業形態	単位数	本学開設科目	授業形態	単位数 必修	単位数 選択	履修期	配当学年	備　考
保育の本質・目的に関する科目	各指定保育士養成施設において設定		15単位以上	社会福祉概論Ⅱ	講義	2		後期	1	
				障害者福祉論	講義	2		後期	1	
				社会保障論Ⅰ	講義	2		前期	3	
				権利擁護と成年後見制度	講義		2	前期	3	
				地域福祉論Ⅰ	講義	2		前期	2	
				ソーシャルワーク論Ⅰ	講義	2		後期	1	
				公的扶助論	講義	2		前期	3	
保育の対象の理解に関する科目				社会保障論Ⅱ	講義		2	後期	3	
				地域福祉論Ⅱ	講義		2	後期	2	
				障がいの理解Ⅰ	講義		2	前期	2	
				障がいの理解Ⅱ	講義		2	後期	2	
				発達障害の理解	講義		2	後期	2	
保育の内容・方法に関する科目				ソーシャルワーク論Ⅱ	講義	2		前期	2	
				ソーシャルワーク論Ⅲ	講義		2	後期	2	
				ソーシャルワーク論Ⅳ	講義		2	前期	3	
				ソーシャルワーク論Ⅴ	講義		2	後期	3	
				ソーシャルワーク論Ⅵ	講義		2	前期	4	
				ピアノ	演習		1	前・後	1・2・3・4	
保育実習	保育実習Ⅱ又は保育実習Ⅲ	実習	2	★保育実習Ⅱ	実習		2	後・前	3・4	★印の２科目３単位、又は☆印の２科目３単位を履修すること
				☆保育実習Ⅲ	実習		2	後・前	3・4	
	保育実習指導Ⅱ又は保育実習指導Ⅲ	演習	1	★保育実習指導Ⅱ	演習		1	前期	3	
				☆保育実習指導Ⅲ	演習		1	前期	3	
小　計			18以上	小　計		14	27			

教育人文学部

教育研究上の目的

教育人文学部は、建学の精神に基づき、教育学、心理学、文学を教育研究の中核として、価値や文化が多様化・多元化する中で、年齢や立場、文化的背景の異なりを超え、他者を受容し理解する姿勢を育み、創造と思考を重ねて生涯にわたって成長・発達を続ける人材を育成することを教育研究上の目的とする。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

教育人文学部は、次の学生像を人材育成の方針とする。

1．「こころ」と「ことば」を根幹として、それらが織りなす人間の創造性を読み解き、自他ともに学び続けることにより、生涯にわたって自己を確立しようとする態度を身につけている。

2．自他との深い対話を通して、共感的理解力を備えた人間性を育み、多様性の理解に基づいた他者と協働する力を身につけている。

3．社会における諸課題を捉え、多様な文化を認め合いながら、持続可能で豊かな社会の構築に寄与する力を身につけている。

カリキュラムマップでは、各学科の学生が、卒業までに身につけるべき知識・能力を得るための授業科目が、どのように配置されているか、各授業科目の関連性などがわかるようになっています。

カリキュラムの授業科目間のつながりや年次進行などがわかりますので、履修上の参考にしてください。

共通科目　カリキュラムマップ

→ 必修科目

領域	学生が身につけるべき資質・能力	1年次	2年次	3年次	4年次
ゼミナール	・文章や資料の意味や意図を理解するとともに、自分の考えを文章や図表などを活用してわかりやすく他者に伝えることができる。 ・他者の意見に耳を傾けてその考え方を理解したり、話し合いを通して共感したりするとともに、自分の意見をまわりの人にわかりやすく伝えることができる。 ・実社会や実生活を分析的に捉え、身の回りにある課題に気付くとともに、その解決に向けて必要となる情報や資料を収集し解決に向けた糸口を見つけることができる。 ・実社会や実生活の中から課題を見出し、問いを立てて情報を収集し、整理・分析してまとめ・表現することができる。 ・身のまわりの課題解決に向けて、グループやチームで協働的に取り組み、話し合いを通して考えをまとめ、表現することができる。 ・実社会や実生活にある問題の背景を探り、手順を踏んで検討を重ね、解決に向けたアイディアを分かりやすく表現することができる。 ・他者との関わり中で、主体的・協働的に取り組むとともに、自分の目標を明確にしながら積極的に問題解決に取り組むことができる。 ・他者との関わり合いの中で、互いのよさや役割を意識しながら新たな価値の創造を目指して協働的に課題解決に取り組むことができる。 ・他者と協働しながら解決策を検討するとともに、関係者の意見を取り入れながら更なる課題を見出し、その解決策を継続して探究していくことができる。	入門ゼミナール	課題解決ゼミナール	総合ゼミナール	課題発見・探求ゼミナール
総合	・講義や講話を聞いて、自己の既有知識及び他者の既有知識、概念と照合する中で、今までの先入観を壊すような学修をすることができる。 ・講義や講話を聞いて、問題意識をもち、疑問を持って学修する中で、今までの先入観を壊すような学修をすることができる。 ・講義や講話に基づいて関連する情報を集めたり、自己内対話を行う、他者と対話したりなどし、適切なノートテイキングができる。 ・講義や講話に基づいて関連する情報を集めたり、疑問点を整理したりする中で、適切なノートテイキングができる。 ・講義や講話の基づいて自ら選択した科目の重要性に気づいたり、そこでの知見及び他者からの地検を将来に生かそうとしている。 ・講義や講話の基づいて自ら選択した科目の重要性に気づいたり、芽ばえた疑問点を追究する中で得られた知見を将来に生かそうとしている。	地域で学ぶ 人間関係とコミュニケーション 総合科目 自主社会活動	地域と人間生活 人間理解ワークショップ		
人間	・資料を読解し、疑問を持ってその内容を追究し、必要な資料を探索して研究することができる。 ・さまざまな人の考え方を学びながら、自分にできることを見極め、積極的に行動するとともに、グループやチームでの協働的な問題解決に取り組むことができる。 ・社会の実態を捉え、そこから問題を見つけるとともに、解決に向けて、多様な資料を活用しながら解決に向けた糸口を手に入れることができる。 ・自己課題を見つけ、解決に向けて行動するとともに、その過程を省察しつつ論理的に表現することができる。 ・他者との関わりにおいて課題を見つけ、解決に向けて仲間と一緒に行動するとともに、その過程を仲間とともに省察し、チームとしての成果を発表することができる。 ・現実の社会における事実の背景を探り、ものごとのプロセスを踏まえた検討ができ、解明した内容に関するレポートができるようになる。 ・自ら資料を収集し、内容を分析するとともに、複数の意見をもとに考察を深め、他者と力を合わせ、追究することができる。 ・他者との関わりの中で資料を収集し、その内容を仲間とともに分析するとともに、多様な意見を踏まえた考察を深め、新たな追究課題を創造できる。 ・捉えた社会の姿をもとに、そこに至る過程に光をあてて、将来に向けての解決のためのビジョンを構想したり、仲間とともに実践的に解決策を考えることができる。	キャリアデザインとライフプラン リーガルリテラシー ジェンダーリテラシー 子育てと環境 女性と健康	女性の心と身体 食の科学 歴史のなかの女性 芸術を読みとる		
社会		グローバル社会 ネットワーク社会 共生社会入門 多様性と倫理 持続可能な社会	くらしのなかの日本国憲法 ボランティア論 災害と社会 21世紀型の教育		
保健体育		身体運動Ⅰ 身体運動Ⅱ			
ICT・データサイエンス	・ICT機器の操作、ネットワークに関する基礎的な知識を理解している。 ・情報に関する法規や制度、情報セキュリティの重要性を理解し、情報倫理を踏まえたICT活用について理解している。 ・データを収集、整理、分析する方法を身につけ、表現方法について理解し、さまざまな社会課題を解決していく力を備えている。 ・情報技術を適切かつ効果的に活用する力を理解し、実際にICT機器の基本となる操作ができる。 ・情報発信における責任、情報モラルについて理解し、情報発信手段の特性の理解及び、適切な手段の選択ができる。 ・問題・課題の発見と解決に向けて意思決定する力を備えており、社会的な課題を解決することができる。 ・ネットワークサービス、コミュニケーション手段の特徴を理解し、それを生かしたICTを活用した情報発信や情報収集をすることができる。 ・情報社会へ主体的に参画する態度を身につけ、自ら積極的に情報を収集し、発信することができる。 ・社会における課題をICTを通して解決しようとするとともに、仲間とともに協力して課題の解決に向けた方策を検討したり、その成果を生かして、身近な課題を解決することができる。	はじめてのデータサイエンス 情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ			
外国語（基礎科目）	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解をさらに深めるとともに、文字・音声から得られる情報の内容を的確に把握・情報を整理することができる。 ・コミュニケーションを行う目的や場面・状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、その概要や要点・詳細・話し手や聞き手の意図などを的確に理解し、実際のコミュニケーションにおいて活用できる。 ・言語を通じて得た文化や社会的な課題について、複数の資料を収集・活用して、考察を深めることができる。 ・文字・音声から得られる情報の内容を的確に把握・情報を整理し、その概要を文字・音声を使用し、わかりやすい形で表出できる。 ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報を整理しながら考えなどを形成し、伝え合うことができる。 ・言語を通じて得た文化や社会における課題について、自らの意見をまとめ、表現することができる。 ・日常的な話題や社会的な話題について資料を整理・分析し、その概要や自分の意見を論理的に表出したり、他者の意見との違いについて考察を深めることができる。 ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、他者の考えを聞いたり、読んだりし、多様な意見を踏まえたうえで考察を深めることができる。 ・言語を通じて得た文化や社会的な課題について、複数の資料を収集・活用して、考察を深め、仲間とともに課題を追究することができる。	英語コミュニケーション演習 英語Ⅰa 英語Ⅰb 中国語Ⅰa 中国語Ⅰb 朝鮮語Ⅰa 朝鮮語Ⅰb フランス語Ⅰa フランス語Ⅰb	英語Ⅱa 英語Ⅱb 中国語Ⅱa 中国語Ⅱb		
外国語目的別科目		海外語学研修 アドバンスト・リスニング アドバンスト・リーディング アドバンスト・ライティング TOEIC対策講座 中国語試験対策講座 日本語検定対策講座	実践英語a 実践英語b ビジネス英語 映画・ドラマ英語 メディア英語		
日本語（非母語者向）	・資料を読解し、疑問を持ってその内容を追究し、必要な資料を探索して研究することができる。 ・さまざまな人の考え方を学びながら、自分にできることを見極め、積極的に行動するとともに、グループやチームでの協働的な問題解決に取り組むことができる。 ・社会の実態を捉え、そこから問題を見つけるとともに、解決に向けて、多様な資料を活用しながら解決に向けた糸口を手に入れることができる。 ・自己課題を見つけ、解決に向けて行動するとともに、その過程を省察しつつ論理的に表現することができる。 ・他者との関わりにおいて課題を見つけ、解決に向けて仲間と一緒に行動するとともに、その過程を仲間とともに省察し、チームとしての成果を発表することができる。 ・現実の社会における事実の背景を探り、ものごとのプロセスを踏まえた検討ができ、解明した内容に関するレポートができるようになる。 ・自ら資料を収集し、内容を分析するとともに、複数の意見をもとに考察を深め、他者と力を合わせ、追究することができる。 ・他者との関わりの中で資料を収集し、その内容を仲間とともに分析するとともに、多様な意見を踏まえた考察を深め、新たな追究課題を創造できる。 ・捉えた社会の姿をもとに、そこに至る過程に光をあてて、将来に向けての解決のためのビジョンを構想したり、仲間とともに実践的に解決策を考えることができる。	総合日本語Ⅰa 総合日本語Ⅰb 日本語表現技術Ⅰ 日本語表現技術Ⅱ 日本語表現技術Ⅲ 日本語表現技術Ⅳ 日本語研究A（時事Ⅰ） 日本語研究B（時事Ⅱ） 日本語研究C（ビジネスⅠ） 日本語研究D（ビジネスⅡ） 日本語研究E（医療・福祉専門） 日本語研究F（人文科学） 日本語能力試験対策講座Ⅰ 日本語能力試験対策講座Ⅱ 日本語集中講座（編入） 総合日本語Ⅱa 総合日本語Ⅱb	総合日本語Ⅲa 総合日本語Ⅲb	
キャリア教育	・資料を読解し、疑問を持ってその内容を追究し、必要な資料を探索して研究することができる。 ・さまざまな人の考え方を学びながら、自分にできることを見極め、積極的に行動するとともに、グループやチームでの協働的な問題解決に取り組むことができる。 ・社会の実態を捉え、そこから問題を見つけるとともに、解決に向けて、多様な資料を活用しながら解決に向けた糸口を手に入れることができる。 ・自己課題を見つけ、解決に向けて行動するとともに、その過程を省察しつつ論理的に表現することができる。 ・他者との関わりにおいて課題を見つけ、解決に向けて仲間と一緒に行動するとともに、その過程を仲間とともに省察し、チームとしての成果を発表することができる。 ・現実の社会における事実の背景を探り、ものごとのプロセスを踏まえた検討ができ、解明した内容に関するレポートができるようになる。 ・自ら資料を収集し、内容を分析するとともに、複数の意見をもとに考察を深め、他者と力を合わせ、追究することができる。 ・他者との関わりの中で資料を収集し、その内容を仲間とともに分析するとともに、多様な意見を踏まえた考察を深め、新たな追究課題を創造できる。 ・捉えた社会の姿をもとに、そこに至る過程に光をあてて、将来に向けての解決のためのビジョンを構想したり、仲間とともに実践的に解決策を考えることができる。	インターンシップ短期 インターンシップ長期 キャリアデザイン入門 キャリアロールモデル研究 企業に学ぶキャリアデザイン プロアクティブ人材育成 キャリア基礎力Ⅰ キャリア基礎力Ⅱ	キャリアサポート演習	
DP	教育人文学部は、次の学生像を人材育成の方針とする。 1.「こころ」と「ことば」を根幹として、それらが織りなす人間の創造性を読み解き、自他ともに学び続けることにより、生涯にわたって自己を確立しようとする態度を身につけている。 2. 自他との深い対話を通して、共感的理解力を備えた人間性を育み、多様性の理解に基づいた他者と協働する力を身につけている。 3. 社会における諸課題をとらえ、多様な文化を認め合いながら、持続可能で豊かな社会の構築に寄与する力を身につけている。				

教育人文学部（E）
共通科目教育課程　2024年度生

科目群		必要な単位数
共通	必修	9単位
	選択必修	6単位
	選択	7単位以上
計		22単位以上

- 必修科目９単位履修すること
- 選択必修科目６単位履修すること。６単位を超えた分は選択科目の単位となる。
- 選択科目７単位以上履修すること
- 合計22単位以上履修すること

▶履修期欄に「前・後」と記載がある科目は、配当年次のいずれかを履修すればよい。

科目区分	授業科目	単位数 必修	選択必修	選択	授業形態	履修期	配当年次	備考	身につく力（◎…重要な目的としている　○…主な目的としている）資料読解・問題把握・資料探索	自己課題発見・解決への模索・省察	資料収集・資料分析・協働的課題追究	対話的検討・自力解決・協働的学修	協働的課題発見・協働的解決への試行・チームとしての省察	協働的資料収集・分析・協働的考察	実態把握・資料活用力・課題解決	実態と背景の把握・プレゼンテーション力	社会的課題の析出・解決方策の検討・協働的実践的解決
ゼミナール	入門ゼミナール	2			講義	前	1		◎	◎	○	◎	○	○	○		
	課題発見・探求ゼミナール			1	演習	後	1·2·3·4		○	◎	○	○	◎		◎	○	
	課題解決ゼミナール			2	演習	前·後	2·3				○	○	◎	◎	○	◎	
	総合ゼミナール			2	演習	前·後	3·4				○		○	◎	○	◎	◎
総合	地域で学ぶ			2	講義	前·後	1·2·3·4		○	○	○	○			○		
	地域と人間生活			2	講義	前·後	2·3·4		○	○	○	○	○		○		
	人間関係とコミュニケーション			2	講義	後	1·2·3·4		○	○	○	○	○		○		
	人間理解ワークショップ	2			講義	前·後	2·3·4		○	○	○	○	○		○	○	
	総合科目			2	講義	前·後	1·2·3·4		○	○	○				○		
	自主社会活動			1	演習	前·後	1·2·3·4		○	○	○				○		
人間	キャリアデザインとライフプラン		2		講義	前·後	1	５科目から１科目２単位以上履修			○			○			
	リーガルリテラシー		2		講義	前·後	1			○	○					○	
	ジェンダーリテラシー		2		講義	前·後	1				○						○
	子育てと環境		2		講義	前·後	1		○				○				
	女性と健康		2		講義	前·後	1			○	○				○		
	女性の心と身体			2	講義	前·後	1·2·3	保育士希望者は必修		○		○				○	
	食の科学			2	講義	前·後	2·3		○						○		
	歴史のなかの女性			2	講義	前·後	2·3			○	○	○					
	芸術を読みとる			2	講義	前·後	2·3		○		○						
社会	グローバル社会		2		講義	前·後	1	５科目から１科目２単位以上履修			○	○					
	ネットワーク社会		2		講義	前·後	1			○						○	
	共生社会入門		2		講義	前·後	1			○			○	○			
	多様性と倫理		2		講義	前·後	1		○		○						
	持続可能な社会		2		講義	前·後	1		○							○	○
	くらしのなかの日本国憲法			2	講義	前·後	1·2·3	教員免許取得希望者は必修	○				○				○
	ボランティア論			2	講義	前·後	1·2·3		○		○			○			
	災害と社会			2	講義	前·後	2·3			○					○		
	21世紀型の教育			2	講義	前·後	2·3			○	○		○				
保健体育	身体運動Ⅰ		1		実技	前	1·2·3·4	1科目1単位履修「身体運動Ⅰ」を履修することが望ましい。教免及び保育士希望者は2科目2単位履修すること	○	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	○
	身体運動Ⅱ		1		実技	後	1·2·3·4		○	○	○	○	○	◎	○	○	○
ICT・データサイエンス	はじめてのデータサイエンス	2			講義	後	1										◎
	情報処理演習Ⅰ			1	演習	前	1		◎								
	情報処理演習Ⅱ			1	演習	後	1·2·3·4								◎		
外国語（基礎科目）	英語コミュニケーション演習	1			演習	前·後	1		○	◎		◎	○				
	英語Ⅰa		1		演習	前	1	12科目から1科目を選択必修 ただし、日本語を母国語としない者は、「総合日本語Ⅰa」「総合日本語Ⅰb」を履修すること 教員免許取得希望者は、「英語Ⅰa」「英語Ⅰb」、「中国語Ⅰa」「中国語Ⅰb」、「朝鮮語Ⅰa」「朝鮮語Ⅰb」、「フランス語Ⅰa」「フランス語Ⅰb」のいずれか2科目2単位を履修	◎	○	○						
	英語Ⅰb		1		演習	後	1		◎	○	○						
	英語Ⅱa		1		演習	前	2·3·4		◎	○	○			○	◎	○	
	英語Ⅱb		1		演習	後	2·3·4		◎	○	○			○	◎	○	
	中国語Ⅰa		1		演習	前	1		○	○		○	○	○			
	中国語Ⅰb		1		演習	後	1		○	○		○	○	○			
	中国語Ⅱa		1		演習	前	2·3·4		○	○		○	○	○			
	中国語Ⅱb		1		演習	後	2·3·4		○	○		○	○	○			
	朝鮮語Ⅰa		1		演習	前	1		○	○		○	○	○			
	朝鮮語Ⅰb		1		演習	後	1		○	○		○	○	○			
	フランス語Ⅰa		1		演習	前	1		○	○		○	○	○			
	フランス語Ⅰb		1		演習	後	1		○	○		○	○	○			
	海外語学研修			1	実習	前	1·2·3·4				○			○		○	○

科目区分	授業科目	単位数 必修	単位数 選択必修	単位数 選択	授業形態	履修期	配当年次	備考	身につく力（◎…重要な目的としている　○…主な目的としている） 資料読解・問題把握・資料探索	自己課題発見・解決への模索・省察	資料収集・資料分析・協働的課題追究	対話的検討・自力解決・協働的学修	協働的課題発見・協働的解決への努力・チームとしての省察	協働的資料収集・分析・協働的考察	実態把握・資料活用力・課題解決	実態と背景の把握・プレゼンテーション力	社会的課題の析出・解決方策の検討・協働的・実践的解決
外国語目的別科目	実践英語ａ			1	演習	前	2･3･4		○	◎		◎	○				
	実践英語ｂ			1	演習	後	2･3･4		○	◎		◎	○				
	アドバンスト・リスニング			2	講義	後	1･2･3･4		◎	○		◎	○		◎		
	アドバンスト・リーディング			2	講義	前･後	1･2･3･4		◎	○		◎	○		◎		
	アドバンスト・ライティング			2	講義	前･後	1･2･3･4		○	◎		◎	○			◎	
	ビジネス英語			2	講義	後	2･3･4		○	◎		◎	○			◎	
	映画・ドラマ英語			2	講義	前･後	2･3･4		◎	○		◎					
	メディア英語			2	講義	前	2･3･4		○	◎		◎	○		◎	○	
	ＴＯＥＩＣ対策講座			2	講義	後	1･2･3･4		◎	○							
	中国語試験対策講座			2	講義	前	1･2･3･4								○	○	○
	日本語検定対策講座			2	講義	前･後	1･2･3･4								○	○	○
日本語（非母語者向）	総合日本語Ⅰａ			1	演習	前	1	※日本語を母国語としない者は、「総合日本語Ⅰａ」「総合日本語Ⅰｂ」を履修すること ただし、JLPTN1を取得している（なければ模擬試験）、かつ、教員が実施する課題をもって話す能力と書く能力がCEFRのC2レベルであると判断された者は、他の外国語を選択することができる。	○	○			○			
	総合日本語Ⅰｂ			1	演習	後	1		○	○			○				
	総合日本語Ⅱａ			1	演習	前	2		○	○			○				
	総合日本語Ⅱｂ			1	演習	後	2		○	○			○				
	総合日本語Ⅲａ			1	演習	前	3･4		○	○			○				
	総合日本語Ⅲｂ			1	演習	後	3･4		○	○			○				
	日本語表現技術Ⅰ			1	演習	前	1･2･3･4		○	○			○				
	日本語表現技術Ⅱ			1	演習	後	1･2･3･4		○	○			○				
	日本語表現技術Ⅲ			1	演習	前	1･2･3･4		○	○			○				
	日本語表現技術Ⅳ			1	演習	後	1･2･3･4		○	○			○				
	日本語研究Ａ（時事Ⅰ）			1	演習	前	1･2･3･4		○	○			○				
	日本語研究Ｂ（時事Ⅱ）			1	演習	前	1･2･3･4		○	○			○				
	日本語研究Ｃ（ビジネスⅠ）			1	演習	前	1･2･3･4		○	○			○				
	日本語研究Ｄ（ビジネスⅡ）			1	演習	後	1･2･3･4		○	○			○				
	日本語研究Ｅ（医療・福祉専門）			1	演習	後	1･2･3･4		○	○			○				
	日本語研究Ｆ（人文科学）			1	演習	後	1･2･3･4		○	○			○				
	日本語能力試験対策講座Ⅰ			1	演習	前	1･2･3･4								○	○	○
	日本語能力試験対策講座Ⅱ			1	演習	後	1･2･3･4								○	○	○
	日本語集中講座			1	演習	前	1･2･3･4								○	○	○
キャリア教育	キャリアデザイン入門	2			講義	前･後	2	学科ごとに異なる		○	◎	○	○	○	◎	◎	◎
	キャリアロールモデル研究			2	講義	後	2										○
	企業に学ぶキャリアデザイン			2	講義	前	2										○
	プロアクティブ人材育成			2	講義	後	2										○
	キャリアサポート演習			2	演習	通	3			○	◎	○		◎	◎	◎	◎
	キャリア基礎力Ⅰ			2	講義	前	2･3		◎	○	○						
	キャリア基礎力Ⅱ			2	講義	後	2･3		◎	○	○						
	インターンシップ短期			1	実習	前･後	1･2･3		○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	インターンシップ長期			2	実習	前･後	1･2･3		○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

1 教育人文学部　幼児教育学科

教育研究上の目的

幼児教育学科は、「子どもから学ぶ」という基本姿勢のもと子ども一人一人を尊重し、子どもの豊かな育ちを支える感性と知識を有し、家庭・地域・社会の課題に柔軟に対応できる実践力を身につけ、子どもとともに自らも育ち続けようとする意欲をもった人間性豊かな保育者（人材）を育成することを教育研究上の目的とする。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

幼児教育学科では、教育研究上の目的を達成するために、次の学生像を人材育成の方針とする。

1．保育・教育に関する専門的な知識・技能を身につけ、子どもと響きあえる豊かな感性と表現力をもち、生涯にわたって子どもとともに自己を高めようとする意欲を有している。

2．一人一人の子どもを尊重し、共感的に理解・対話する態度を有し、子どもの育ちを支えるために多様な他者と連携することの重要性を理解し、協働的な保育を実践する力を身につけている。

3．子どもの実態と社会における諸課題を捉えて保育を構想・実践し、適切な判断力と実行力をもって課題解決に取り組み、組織・家庭・地域・社会へ貢献できる力を身につけている。

そのうえで、次の資質及び能力を有している者に「学士（教育学）」の学位を授与する。

①知識・技能

1．保育・教育に関する基本的な理論、子どもの理解に関する知識を身につけ、説明できる。

2．「子どもから学ぶ」という基本姿勢を備え、子どもの人権を尊重し、子どもとの対話を通して子どもの世界を共感的に理解しようとする。

3．保育・教育の制度・政策、子どもの成育環境についての現状を理解し、保育・教育をめぐる諸課題について説明することができる。

②思考力・判断力・表現力

1．子どもと一緒に感じたり考えたりできる豊かな感性を養い、子どものさまざまな表現を見つめ受け止めながら、子どもと響き合う表現を探求できる。

2．子ども一人一人の主体性が十分に発揮されるための適切な援助を即応的に判断し、実践することができる。

3．子どもの姿から、求められる保育を構想・計画し、実践することができる。

③主体性・多様性・協働性

1．自らの学修や保育行動を省察することを積み重ね、自己の成長と課題を見出し、子どもとともに育ち続けようとする自己研鑽の意欲を有している。

2．保護者・地域・他の専門職との連携や役割分担について理解し、多様な他者と協働して課題解決に向かおうとする。

3．保育・教育に関わる社会的課題の解決に向け、子どもの育ちを支える者として自分の役割を考え、広く社会へ貢献することができる。

教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

幼児教育学科では、「子どもから学ぶ」という基本姿勢をもった保育者養成を基盤とし、ディプロマ・ポリシーに挙げた資質・能力を身につけるためのカリキュラムとして６領域を設定し、各領域に学修過程に応じた科目を配置する。

1．「保育・教育の本質」領域では、保育の基本的理念や制度、社会の諸課題に対する知識の修得を目指し、子どもの育ちを支える保育者としての基本姿勢を養う講義科目を設置する。

2．「子ども理解・人間理解」領域では、子どもを共感的に理解し、他者と対話・協働しようとする姿勢を養い、子どもの育ちを理解するための専門的知識や技能を幅広く修得する科目を設置する。

3．「保育・教育の内容と方法」領域では、保育内容の各領域や、乳児保育や障碍児保育等の各分野に特化し

た知識と技能を修得するとともに、保育内容の総合性を理解し、保育を構想する力を養う演習形式の授業を中心とした科目を体系的に設置する。

4．「感性と表現」の領域では、子どもの豊かな表現を見つめ、育むために、子どもと響き合う感性や表現力を涵養する。そのため、演習形式の授業における参画型の学修を中心とした授業を設置する。

5．「フィールドワーク（実習）」領域では、さまざまな保育現場で子どもや保育者等とかかわりながら、状況に応じて判断・行動する力、協働的に保育を構想・実践する力を段階的に身につけ、自らの保育を省察し続ける姿勢を養う科目を１年次より設置する。

6．「発展と総合」領域では、保育・教育の学びを統合する科目、研究方法に関する知識を修得する科目を３年次の必修科目として設置する。また、３・４年次を通して自己課題や子どもをめぐる諸課題を発展的に探求できる選択科目を設置する。

7．３年次後期より卒業研究に向けたゼミナール形式の科目を設置する。４年次には本学科で学修した成果をまとめて社会に還元するための科目として卒業研究を設置する。

各授業の目標に応じて、ディスカッションやグループワークを通して仲間と学び合う機会、リアクションペーパー等を通して教員と双方向的に学び合う機会、主体的に課題を探求し、発表する機会を適切にもつ。

そのための教育課程の編成方針は以下のとおりである。

保育・教育の本質

1．保育・教育に関する基本理念や子どもの人権、子どもをめぐるさまざまな制度・政策についての知識を修得させ、子どもの成育環境についての現状を理解し、社会における諸課題について説明できる能力を育成する。

2．保育・教育に関する基本理念や子どもの人権、子どもをめぐるさまざまな制度・政策についての知識に基づき、子どもの最善の利益を考慮し、子ども一人一人の主体性を尊重する保育者の基本姿勢について考え、説明できる能力を育成する。

3．子どもをめぐる社会の諸課題の解決に向けて、保育者が保護者・地域・他の専門職との連携協働することの重要性が理解できる能力を育成する。

子ども理解・人間関係

1．子どもの発育や発達についての専門的な知識と技能を修得させ、これらの知識に基づきながら子ども一人一人を共感的に理解しようとする保育者の基本姿勢を獲得させる。

2．子どもと対話しながら子どもの生活の実態や発達の理解を深め、子ども一人一人に適切な環境や援助を考える力を身につけさせる。

3．保育者として保護者・地域・他の専門職とも連携しながら子ども理解を深め、他者と協働しながら子ども一人一人にふさわしい生活を実現していこうとする態度を身につけさせる。

保育・教育の方法と内容

1．子どもたちに育みたい資質・能力について理解し、保育内容の各領域、乳児保育や障碍児保育等についての専門的な知識と技能を修得し、子どもの育ちに即した保育を構想する方法を身につけ、指導計画を作成する能力を育成する。

2．保育内容の総合性を理解し、保育事例について仲間と意見交換をしたり、模擬保育等で仲間や教員とさまざまな役割をとったりし、援助の実際を考えることができる力を身につけさせる。

3．子どもの最善の利益のために、保育者として保護者・地域・他の専門職と連携していく手立てを理解し、自らの役割を担おうとする態度を身につけさせる。

感性と表現

1．生活や遊びにおける子どもの表現とは何かを理解し、子どもの気づきや興味・関心からはじまる表現を見つめ、受け止めるまなざしを獲得させる。

2．子どもと一緒に感じたり考えたりできる感性をもち、子どもの感性や表現がより豊かになるための可能性を捉え、自身も表現し、行動する能力を育成する。

3．一人一人の子どものさまざまな表現と豊かに響き合えるように、自身の表現を磨いたり、探究したりしようとする意欲を育成する。

フィールドワーク（実習）

1．保育者に求められる倫理観と社会人として求められる基本的態度を身につけさせるとともに、子どもと共

に生活し遊ぶことを通して「子どもから学ぶ」姿勢と態度を育成する。

2．子ども一人一人に対する共感的理解に基づき適切な援助を即応的に判断する力、子どもの育ちを見通しながら保育内容を構想し展開する力を段階的に育成する。

3．自らの保育行動を省察することを積み重ね、自己の成長と課題を見出し、多様な他者と連携・協働しながら、子どもとともに育ち続けようと自己研鑽する姿勢を身につけさせる。

発展と統合（卒業研究）

1．これまでに学修した知識や技能を有機的に統合させたり、保育・教育に関わる新たな知識や技能を発展的に修得させる。

2．学修の軌跡を捉え、自ら課題を設定して研究しようとする姿勢を育成し、仲間と意見交換をしたり成果を発表したりする能力を育成する。

3．自己課題を自覚し主体的にその解決に取り組もうとする姿勢とともに、子どもをめぐる社会の諸課題を捉え発展的に探求する姿勢を促し、自身の学びの成果を社会へ還元しようとする意欲を育成する。

カリキュラムマップでは、各学科の学生が、卒業までに身につけるべき知識・能力を得るための授業科目が、どのように配置されているか、各授業科目の関連性などがわかるようになっています。

カリキュラムの授業科目間のつながりや年次進行などがわかりますので、履修上の参考にしてください。

幼児教育学科　カリキュラムマップ

→ 必修科目

領域	学生が身につけるべき資質・能力	1年次	2年次	3年次	4年次
保育・教育の本質	1．保育・教育に関する基本理念や子どもの人権、子どもをめぐるさまざまな制度・政策についての知識を修得させ、子どもの成育環境についての現状を理解し、社会における諸課題について説明できる能力を育成する。 2．保育・教育に関する基本理念や子どもの人権、子どもをめぐるさまざまな制度・政策についての知識に基づき、子どもの最善の利益を考慮し、子ども一人一人の主体性を尊重する保育者の基本姿勢について考え、説明できる能力を育成する。 3．子どもをめぐる社会の諸課題の解決に向けて、保育者が保護者・地域・他の専門職との連携協働することの重要性が理解できる能力を育成する。	児童学概論 幼児教育学 教育学 保育者論 子ども家庭福祉Ⅰ 社会福祉	保育制度・保育政策論 子ども家庭支援論 社会的養護Ⅰ		
子ども理解・人間関係	1．子どもの発育や発達についての専門的な知識と技能を修得させ、これらの知識に基づきながら子ども一人一人を共感的に理解しようとする保育者の基本姿勢を獲得させる。 2．子どもと対話しながら子どもの生活の実態や発達の理解を深め、子ども一人一人に適切な環境や援助を考える力を身につけさせる。 3．保育者として保護者・地域・他の専門職とも連携しながら子ども理解を深め、他者と協働しながら子ども一人一人にふさわしい生活を実現していこうとする態度を身につけさせる。	保育・教育心理学	子ども家庭支援の心理学 子どもの理解と援助 特別支援教育概論 青年心理学	保育・教育相談 子どもの保健 子どもの食と栄養 多文化保育論	
保育・教育の方法と内容	・子どもたちに育みたい資質・能力について理解し、保育内容の各領域、乳児保育や障碍児保育等についての専門的な知識と技能を修得し、子どもの育ちに即した保育を構想する方法を身につけ、指導計画を作成するスキルを習得させる。 ・保育内容の総合性を理解し、保育事例について仲間と意見交換をしたり、模擬保育等で仲間や教員とさまざまな役割をとったりし、援助の実際を考えることができる力を身につけさせる。 ・子どもの最善の利益のために、保育者として保護者・地域・他の専門職と連携していく手立てを理解し、自らの役割を担おうとする態度を身につけさせる。	子どもと環境 子どもと言葉	子どもと健康 子どもと人間関係 子どもと表現Ⅰ 子どもと表現Ⅱ 保育内容の指導法（健康） 教育方法 乳児保育Ⅰ 社会的養護Ⅱ 子どもの健康と安全	保育内容総論 保育内容の指導法（環境） 保育内容の指導法（人間関係） 保育内容の指導法（言葉） 保育内容の指導法（表現） 保育・教育課程論 障碍児保育 乳児保育Ⅱ 子ども家庭福祉Ⅱ 子育て支援	
感性と表現	・生活や遊びにおける子どもの表現とは何かを理解し、子どもの気づきや興味・関心からはじまる表現を見つめ、受け止めるまなざしを獲得させる。 ・子どもと一緒に感じたり考えたりできる感性をもち、子どもの感性や表現がより豊かになるための可能性を捉え、自身も表現し、行動する能力を育成する。 ・一人一人の子どものさまざまな表現と豊かに響き合えるように、自身の表現を磨いたり、探究したりしようとする意欲を育成する。	音楽リテラシーⅠ 感じて表現・考えて表現 子どもと運動	ネイチャー・ワーク	音楽リテラシーⅡ 保育表現演習（造形表現） 保育表現演習（音楽表現） 保育表現演習（身体表現）	
フィールドワーク（実習）	・保育者に求められる倫理観と社会人として求められる基本的態度を身につけさせるとともに、子どもと共に生活し遊ぶことを通して「子どもから学ぶ」姿勢と態度を育成する。 ・子ども一人一人に対する共感的理解に基づき適切な援助を即応的に判断する力、子どもの育ちを見通しながら保育内容を構想し展開する力を段階的に育成する。 ・自らの保育行動を省察することを積み重ね、自己の成長と課題を見出し、多様な他者と連携・協働しながら、子どもとともに育ち続けようと自己研鑽する姿勢を身につけさせる。	児童学演習	幼児教育基礎実習 幼児教育基礎演習	幼稚園教育実習総論 幼稚園教育実習 保育実習総論Ⅰ 保育実習Ⅰ（保育所） 保育実習Ⅰ（施設） 保育実習総論Ⅱ 保育実習Ⅱ 保育実習総論Ⅲ 保育実習Ⅲ 保育インターンシップ	
発展と統合（卒業研究）	・これまでに学修した知識や技能を有機的に統合させたり、保育・教育に関わる新たな知識や技能を発展的に修得させする。 ・学修の軌跡を捉え、自ら課題を設定して研究しようとする姿勢を育成し、仲間と意見交換をしたり成果を発表したりする能力を育成する。 ・自己課題を自覚し主体的にその解決に取り組もうとする姿勢とともに、子どもをめぐる社会の諸課題を捉え発展的に探求する姿勢を促し、自身の学びの成果を社会へ還元しようとする意欲を育成する。			児童学研究法 保育学 表現総論 保育実践論 乳幼児発達論 発達臨床特論 こども家庭福祉特論 幼児運動論 表現特講 保育・教職実践演習 卒業研究演習 卒業研究	

DP	幼児教育学科では、教育研究上の目的を達成するために、次の学生像を人材育成の方針とする。 1．保育・教育に関する専門的な知識・技能を身につけ、子どもと響きあえる豊かな感性と表現力をもち、生涯にわたって子どもとともに自己を高めようとする意欲を有している。 2．一人一人の子どもを尊重し、共感的に理解・対話する態度を有し、子どもの育ちを支えるために多様な他者と連携することの重要性を理解し、協働的な保育を実践する力を身につけている。 3．子どもの実態と社会における諸課題を捉えて保育を構想・実践し、適切な判断力と実行力をもって課題解決に取り組み、組織・家庭・地域・社会へ貢献できる力を身につけている。
CP	幼児教育学科では、「子どもから学ぶ」という基本姿勢をもった保育者養成を基盤とし、ディプロマ・ポリシーに挙げた資質・能力を身につけるためのカリキュラムとして6領域を設定し、各領域に学修過程に応じた科目を配置する。

Ⅰ 学修 / Ⅱ 資格取得 / Ⅲ 学部入門生活 / Ⅳ 教育人文学部 / Ⅴ 子ども情報学部 / Ⅵ 教職課程 / Ⅶ 諸課程 / Ⅷ 単位認定 / Ⅸ 他大学との単位換算 / Ⅹ 大学院 / Ⅺ 施設 / Ⅻ Q&A / ⅩⅢ 教務関連規程 / ハンドブックの学び方

1 教育人文学部　幼児教育学科（EA）
専門科目教育課程　2024年度生

科目群		卒業に必要な単位数	
共通科目		22単位以上	
学科専門科目	必修	56単位	90単位以上
	選択	34単位以上	
自由選択科目		12単位以上	
計		124単位以上	

- 共通科目から、必修科目９単位、選択必修科目６単位を含めた22単位以上を履修
- 専門科目から、必修科目56単位（卒業研究を含む）を含めた90単位以上を履修
- 自由選択科目は、12単位以上を履修
- 合計124単位以上を履修

What's “自由選択科目”!?

a．共通科目22単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
例）共通科目28単位取得した場合は、６単位分が自由選択科目の単位となる。

b．自学科の専門選択科目34単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
例）自学科の専門選択科目40単位取得した場合は、６単位分が自由選択科目の単位となる

c．他学科の他学科開放科目を修得すると自由選択科目の単位となる。

a～cを組み合わせて（又は単独で）12単位以上を履修

科目区分		授業科目	単位数 必修	単位数 選択	授業形態	履修期	配当年次	他学科開放	備考	身につく力（◎…重要な目的としている　○…主な目的としている）保育・教育の基礎理論の修得	子どもと響き合える感性と表現力の醸成	自己省察と自己研鑽への意欲	子どもの人権に対する意識と子どもの共感的理解	子ども一人一人の特性が発揮される適切な援助についての判断	多様な他者と連携・協働しようとする態度	保育・教育をめぐる社会的な諸課題への理解	子どもの実態に基づく保育の構想・計画と実践	保育・教育の社会的課題の解決に向けた意欲
専門科目	保育・教育の基礎	児童学概論	2		講義	前	1年	○		◎			◎			◎		
		幼児教育学	2		講義	前	1年	×		◎		○	◎	○		◎		○
		教育学	2		講義	後	1年	×		◎		○	◎	○		◎		○
		保育者論	2		講義	後	1年	×		◎		○	◎	○	◎	○		
		保育制度・保育政策論	2		講義	後	2年	×		◎			○		◎	◎		○
		子ども家庭福祉Ⅰ	2		講義	前	1年	×		◎			◎			◎		
		社会福祉	2		講義	後	1年	×		◎						◎		◎
		子ども家庭支援論		△2	講義	後	2年	×		◎					◎	◎		
		社会的養護Ⅰ		△2	講義	前	2年	×		◎			◎			◎		
	子ども理解・人間理解	保育・教育心理学	2		講義	前	1年	×		◎			◎			◎		
		子ども家庭支援の心理学	2		講義	前	2年	×		◎	○				◎	◎		○
		子どもの理解と援助	2		演習	前	2年	×		◎			◎		◎			
		特別支援教育概論	2		講義	後	2年	×		◎			◎			◎		
		保育・教育相談		※□2	演習	前	3年	×							◎	◎		◎
		子どもの保健		△2	講義	後	3年	×		◎					◎			◎
		子どもの食と栄養		△2	演習	前	3年	×		◎					◎	◎		
		多文化保育論		□2	講義	後	3・4年	×		◎			◎			◎		
		青年心理学		□2	講義	前	2･3･4年	×		◎		◎			○	◎		
	保育・教育の内容と方法	子どもと健康	2		演習	前	2年	×		◎			○	○		◎		
		子どもと人間関係	2		演習	後	2年	×		◎		○		◎	○			◎
		子どもと環境	2		演習	後	1年	×		◎				◎		◎		
		子どもと言葉	2		演習	後	1年	×		◎	◎	○	○	◎				
		子どもと表現Ⅰ	1		演習	前	2年	×		◎	○		○	○			○	
		子どもと表現Ⅱ	1		演習	後	2年	×		◎	○		○	○			○	
		保育内容総論		※△2	演習	後	3年	×				◎				◎		◎
		保育内容の指導法（健康）		※△2	演習	後	2年	×		◎				◎			◎	
		保育内容の指導法（環境）		※△2	演習	前	3年	×		◎				◎			◎	
		保育内容の指導法（人間関係）		※△2	演習	前	3年	×				○		◎	○		◎	○
		保育内容の指導法（言葉）		※△2	演習	前	3年	×			○	○	○	◎			◎	
		保育内容の指導法（表現）		※△2	演習	前	3年	×			○		◎	◎			◎	
		教育方法		※□2	講義	前	2年	×		◎					◎	◎		
		保育・教育課程論		※△2	講義	前	3年	×		◎		◎	○				◎	○
		障碍児保育		△2	演習	前	3年	×				◎		◎		◎		
		乳児保育Ⅰ		△2	講義	後	2年	×		◎			◎		○	◎		○
		乳児保育Ⅱ		△2	演習	前	3年	×			◎			◎	○		◎	
		子ども家庭福祉Ⅱ		□2	演習	後	3・4年	×					◎		◎			◎
		社会的養護Ⅱ		△2	演習	後	2年	×						◎	◎			◎
		子育て支援		△2	演習	後	3年	×							◎			◎
		子どもの健康と安全		△2	演習	前	2年	×						◎	◎	○	◎	
	感性と表現	音楽リテラシーⅠ		※□2	演習	後	1年	×		◎				◎			◎	
		感じて表現・考えて表現	2		演習	後	1年	×			◎		◎					
		ネイチャー・ワーク	2		演習	前	2年	×			◎		◎		◎			○
		子どもと運動	2		演習	前	1年	×		○	◎		◎					◎
		音楽リテラシーⅡ		1	演習	後	3･4年	×		◎				◎			◎	
		保育表現演習（造形表現）		2	演習	後	3･4年	×		○	○	◎	○	◎	○		◎	○

科目区分		授業科目	単位数 必修	単位数 選択	授業形態	履修期	配当年次	他学科開放	備考	身につく力（◎…重要な目的としている　○…主な目的としている） 保育・教育の基礎理論の修得	子どもと響き合える感性と表現力の醸成	自己省察と自己研鑽への意欲	子どもの人権に対する意識と子どもへの共感的理解	子ども一人一人の主体性が発揮される適切な援助についての判断	多様な他者と連携・協働しようとする態度	保育・教育をめぐる社会的な諸課題への理解	子どもの実態に基づく保育の構想・計画と実践	保育・教育の社会的課題の解決に向けた意欲
専門科目	感性と表現	保育表現演習（音楽表現）		2	演習	後	3・4年	×		○	○	◎	○	◎	○		◎	○
専門科目	感性と表現	保育表現演習（身体表現）		2	演習	後	3・4年	×		○	○	◎	○	◎	○		◎	○
専門科目	フィールドワーク（実習）	児童学演習	2		演習	通年	1年	×		◎			◎			◎		
専門科目	フィールドワーク（実習）	幼児教育基礎実習	2		実習	後	2年	×			◎	○	◎	◎	○			
専門科目	フィールドワーク（実習）	幼児教育基礎演習	2		演習	後	2年	×			○	◎	◎	○			○	
専門科目	フィールドワーク（実習）	幼稚園教育実習総論		※2	演習	通年	3・4年	×		○	○	◎	○	○	◎	○	○	◎
専門科目	フィールドワーク（実習）	幼稚園教育実習		※4	実習	通年	4年	×		○	○	○	○	◎	◎	○	◎	○
専門科目	フィールドワーク（実習）	保育実習総論Ⅰ		△2	演習	通年	3・4年	×		○	○	◎	◎	○	○	◎	○	○
専門科目	フィールドワーク（実習）	保育実習Ⅰ（保育所）		△2	実習	通年	3・4年	×		○	○	○	◎	◎	○	◎	○	○
専門科目	フィールドワーク（実習）	保育実習Ⅰ（施設）		△2	実習	通年	3・4年	×		○	○	○	◎	◎	○	◎	○	○
専門科目	フィールドワーク（実習）	保育実習総論Ⅱ		□1	演習	前	4年	×	★ 保育士資格取得希望者は、★印の2科目3単位又は、☆印の2科目3単位以上を履修すること	○	○	◎	◎	○	○	○	○	◎
専門科目	フィールドワーク（実習）	保育実習Ⅱ		□2	実習	通年	4年	×	★	○	○	○	◎	○	◎	○	◎	○
専門科目	フィールドワーク（実習）	保育実習総論Ⅲ		□1	演習	前	4年	×	☆	○	○	◎	◎	○	○	○	○	◎
専門科目	フィールドワーク（実習）	保育実習Ⅲ		□2	実習	通年	4年	×	☆	○	○	○	◎	○	◎	○	◎	○
専門科目	フィールドワーク（実習）	保育インターンシップ		□2	実習	通年	3・4年	×				◎			◎			◎
専門科目	総合・発展	児童学研究法	2		講義	後	3年	×		◎	○		◎			◎		○
専門科目	総合・発展	保育学	2		講義	前	3年	×		○	○	◎	◎	◎	○	○		○
専門科目	総合・発展	表現総論	2		講義	後	3年	×			◎		○		◎			◎
専門科目	総合・発展	保育実践論		2	講義	前・後	3・4年	×							◎	◎		◎
専門科目	総合・発展	乳幼児発達論		2	講義	前・後	3・4年	×		◎					◎			◎
専門科目	総合・発展	発達臨床特論		2	講義	前・後	3・4年	×							◎	◎		◎
専門科目	総合・発展	こども家庭福祉特論		2	講義	前・後	3・4年	×							◎	◎		◎
専門科目	総合・発展	幼児運動論		2	演習	前・後	3・4年	×							◎	◎		◎
専門科目	総合・発展	表現特講		2	講義	前・後	3・4年	×			◎				◎			◎
専門科目	総合・発展	保育・教職実践演習		※△2	演習	後	4年	×				◎			◎			◎
専門科目	総合・発展	卒業研究演習	2		演習	後	3年	×		○		◎			◎			◎
専門科目	総合・発展	卒業研究	4		演習	通年	4年	×		○		◎			◎			◎

［単位数欄の記号について］
註：※印の科目は、幼稚園教諭一種免許状の必修科目
註：△印の科目は、保育士資格の必修科目
註：□印の科目は、保育士資格の選択必修科目

［「卒業研究」の履修について］
註１：「卒業研究」を履修するには、原則として、3年次終了時に修得単位数が80単位以上であること。

［資格の履修について］
註１：幼稚園教諭一種免許状取得希望者は必修科目に加えて単位数欄にある※印の科目を全て履修しなければならない。
註２：保育士資格取得希望者は必修科目に加えて単位数欄にある△印の科目を全て履修しなければならない。さらに単位数欄にある□印から７単位以上を選択して履修すること。そのうち、「保育実習総論Ⅱ」と「保育実習Ⅱ」又は「保育実習総論Ⅲ」と「保育実習Ⅲ」のどちらか３単位以上履修しなければならない。
註３：フィールドワーク（実習）科目については、幼児教育学科が作成した「実習の手引き」記載事項をふまえて履修すること。
註４：社会福祉主事任用資格取得希望者は、次の科目を履修する必要がある。「教育学」「保育学」「社会福祉」

1　保育士資格 取得課程（幼児教育学科）

保育士資格は児童福祉法第18条の４に則るところの法定資格です。

保育士業務を行うには、都道府県知事に対して登録申請を行い、保育士登録簿への登載、保育士証の交付を受ける必要があることを承知しておいてください。（児童福祉法第18条の18）

なお、現在は、卒業年度に申請手続きを希望する学生に限り、大学が一括して「都道府県知事委託　保育士登録機関　登録事務処理センター」に申請を行います。

申請手続きの方法、時期、登録手数料等については別に連絡をしますので、各自の責任において申請手続きを行ってください。

必要な資格及び修得単位数

◎最低修得単位数は、下表のとおりです。

学　　科	基礎資格	児童福祉法における最低修得単位数			
		教養科目	必修科目	選択必修科目	合　計
幼児教育学科	学士の学位を有すること	10以上	51以上	18以上	79以上

※実習科目の履修にあたっては、別冊「実習の手引き」に記載されている実習の要件を全て満たすことが必要です。

2 保育士（幼児教育学科）

1 教養科目

告示による教科目			指定保育士養成施設における教科目の開設状況（新）				履修期	配当学年	備　考
教科目	授業形態	単位数	本学開設科目	授業形態	単位数 必修	単位数 選択			
外国語、体育以外の科目	不問	6以上	入門ゼミナール	講義	2		前期	1	
			地域と人間生活	講義		2	前・後	2・3・4	
			人間理解ワークショップ	講義	2		前・後	2・3・4	教育人文学部必修
			キャリアデザインとライフプラン	講義		2	前・後	1	
			リーガルリテラシー	講義		2	前・後	1	
			ジェンダーリテラシー	講義		2	前・後	1	
			子育てと環境	講義		2	前・後	1	
			女性と健康	講義		2	前・後	1	
			グローバル社会	講義		2	前・後	1	
			ネットワーク社会	講義		2	前・後	1	
			共生社会入門	講義		2	前・後	1	
			多様性と倫理	講義		2	前・後	1	
			持続可能な社会	講義		2	前・後	1	
			くらしのなかの日本国憲法	講義		2	前・後	1・2・3	
			はじめてのデータサイエンス	講義	2		後期	1	
外国語	演習	2以上	英語コミュニケーション演習	演習	1		前・後	1	
			英語Ⅰa	演習		＊1	前期	1	＊の科目から1科目1単位必修
			英語Ⅰb	演習		＊1	後期	1	
			英語Ⅱa	演習		＊1	前期	2・3・4	
			英語Ⅱb	演習		＊1	後期	2・3・4	
			中国語Ⅰa	演習		＊1	前期	1	
			中国語Ⅰb	演習		＊1	後期	1	
			中国語Ⅱa	演習		＊1	前期	2・3・4	
			中国語Ⅱb	演習		＊1	後期	2・3・4	
			朝鮮語Ⅰa	演習		＊1	前期	1	
			朝鮮語Ⅰb	演習		＊1	後期	1	
			フランス語Ⅰa	演習		＊1	前期	1	
			フランス語Ⅰb	演習		＊1	後期	1	
体育	講義	1	女性の心と身体	講義	2		前期	1・2・3	
	実技	1	身体運動Ⅰ	実技	1		前期	1・2・3・4	
			身体運動Ⅱ	実技	1		後期	1・2・3・4	
小　計		10以上	小　計		11				

2 必修科目

告示別表第１による教科目				指定保育士養成施設における教科目の開設状況(新)				履修期	配当学年	備考
系　列	教科目	授業形態	単位数	本学開設科目	授業形態	単位数 必修	単位数 選択			
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	講義	2	幼児教育学	講義	2		前期	1	
	教育原理	講義	2	教育学	講義	2		後期	1	
	子ども家庭福祉	講義	2	子ども家庭福祉Ⅰ	講義	2		前期	1	
	社会福祉	講義	2	社会福祉	講義	2		後期	1	
	子ども家庭支援論	講義	2	子ども家庭支援論	講義	2		前期	2	
	社会的養護Ⅰ	講義	2	社会的養護Ⅰ	講義	2		前期	2	
	保育者論	講義	2	保育者論	講義	2		後期	2	
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学	講義	2	保育・教育心理学	講義	2		前期	1	
	子ども家庭支援の心理学	講義	2	子ども家庭支援の心理学	講義	2		後期	1	
	子どもの理解と援助	演習	1	子どもの理解と援助	演習	2		前期	2	
	子どもの保健	講義	2	子どもの保健	講義	2		後期	1	
	子どもの食と栄養	演習	2	子どもの食と栄養	演習	2		前期	2	
保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価	講義	2	保育・教育課程論	講義	2		前期	3	
	保育内容総論	演習	1	保育内容総論	演習	2		後期	3	
	保育内容演習	演習	5	保育内容の指導法（健康）	演習	2		後期	2	
				保育内容の指導法(人間関係)	演習	2		前期	3	
				保育内容の指導法（環境）	演習	2		後期	2	
				保育内容の指導法（言葉）	演習	2		前期	3	
				保育内容の指導法（表現）	演習	2		前期	3	
	保育内容の理解と方法	演習	4	子どもと健康	演習	2		前期	2	
				子どもと人間関係	演習	2		後期	2	
				子どもと環境	演習	2		後期	2	
				子どもと言葉	演習	2		後期	1	
				子どもと表現Ⅰ	演習	1		前期	2	
				子どもと表現Ⅱ	演習	1		後期	2	
	乳児保育Ⅰ	講義	2	乳児保育Ⅰ	講義	2		後期	2	
	乳児保育Ⅱ	演習	1	乳児保育Ⅱ	演習	2		前期	3	
	子どもの健康と安全	演習	1	子どもの健康と安全	演習	2		前期	2	
	障害児保育	演習	2	障碍児保育	演習	2		前期	3	
	社会的養護Ⅱ	演習	1	社会的養護Ⅱ	演習	2		後期	2	
	子育て支援	演習	1	子育て支援	演習	2		後期	2	
保育実習	保育実習Ⅰ	実習	4	保育実習Ⅰ（保育所）	実習	2		通	3・4	
				保育実習Ⅰ（施設）	実習	2		通	3・4	
	保育実習指導Ⅰ	演習	2	保育実習総論Ⅰ	演習	2		通	3	
総合演習	保育実践演習	演習	2	保育・教職実践演習	演習	2		後期	4	
小　計			51	小　計		68				

3 選択必修科目

告示別表第２による教科目				指定保育士養成施設における教科目の開設状況(新)						
系　列	教科目	授業形態	単位数	本学開設科目	授業形態	単位数 必修	単位数 選択	履修期	配当学年	備考
保育の本質・目的に関する科目	各指定保育士養成施設において設定		15単位以上	保育制度・保育政策論	講義	2		後期	2	
				子ども家庭福祉Ⅱ	演習		2	後期	3	
保育の対象の理解に関する科目				児童学研究法	講義	2		後期	3	
				青年心理学	講義		2	前期	2・3	
				多文化保育論	講義		2	後期	3・4	
保育の内容・方法に関する科目				教育方法	講義		2	前期	2	
				特別支援教育概論	講義	2		後期	2	
				保育・教育相談	演習		2	後期	3	
				音楽リテラシーⅠ	演習		2	後期	1	
				子どもと運動	演習	2		前期	2	
				感じて表現・考えて表現	演習	2		後期	1	
保育実習	保育実習Ⅱ又は保育実習Ⅲ	実習	2	★保育実習Ⅱ	実習		2	通年	3・4	★印の２科目３単位、又は☆印の２科目３単位を履修すること
				☆保育実習Ⅲ	実習		2	通年	3・4	
	保育実習指導Ⅱ又は保育実習指導Ⅲ	演習	1	★保育実習総論Ⅱ	演習		1	前期	4	
				☆保育実習総論Ⅲ	演習		1	前期	4	
				保育インターンシップ	実習		2	通年	3・4	
小　計			18以上	小　計		10	20			

2 教育人文学部　児童教育学科

教育研究上の目的

児童教育学科は、子どもを深く理解し、多様な人と協働するとともに、生涯にわたって学び続ける基本姿勢をもった人材の育成を目指し、大学と地域の学校等での実体験を通した往還的な学びに基づいて、豊かな人間性と教職への強い使命感をもち、学校教育が抱える現代的な諸課題に対応できる実践力を身につけた教員を養成することを教育研究上の目的とする。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

児童教育学科では、教育研究上の目的を達成するために、次の学生像を人材育成の方針とする。

1．自律的に学ぶ姿勢や、時代の変化やキャリアステージに応じて求められる資質能力を生涯にわたって高めていく態度を身につけている。
2．学校教育の今日的な諸課題の解決に向けて、多様な人と効果的に連携・分担し、組織的・協働的に取組む能力を身につけている。
3．小学校教育を基本に特別支援教育・幼児教育・英語教育等への学びを究め、幼小及び小中の円滑な接続等に関する知識と技能を身につけ、これからの時代の教育を創造している。

そのうえで、次の資質及び能力を有している者に「学士（教育学）」の学位を授与する。

①知識・技能

1．自ら主体的に教材研究を行うとともに、学習指導要領の内容を理解し、各教科等の指導の展開に応じた、教材・教具、指導方法を工夫するための基礎的な知識・技能を身につけている。
2．子どもの特性や心身の状況を把握したうえで学級経営案を作成し、具体的な教育活動を組み立てるための基礎的な知識・技能を身につけている。
3．学校教育の今日的な諸課題を解決するために、情報を収集し、課題発見するための基礎的な知識・技能を身につけている。

②思考力・判断力・表現力

1．子どもの声を真摯に受け止めたり、保護者や地域の意見・要望に耳を傾けたりするとともに、学校が組織として連携・協力しながら課題に対応していることについて考え、表現する力を身につけている。
2．他者の意見やアドバイスに耳を傾けるとともに、理解や協力を得ながら、課題に対処するために必要なことを考え、表現する力を身につけている。
3．組織の一員として協調性や柔軟性をもって校務の運営に参加し、自らの役割・職務を遂行するために必要なことを考え、表現する力を身につけている。

③主体性・多様性・協働性

1．自己の課題に気づき、その解決に向けて、自己研鑽に励むなど、常に学び続けようとする姿勢を持っている。
2．気軽に子どもに声をかけたり、顔を合わせたり、相談に乗ったりする中で、子どもから学び、共に成長しようとする姿勢を持っている。
3．教員の使命や職務について理解し、自発的・積極的に自己の責任を果たし、実行しようとする姿勢を持っている。

教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

児童教育学科では、教員として必要な資質や能力を養うために、講義・演習・実技・学校インターンシップ・教育実習等を通して、教育学や教育理論と教育実践との往還的な学習を深めるようカリキュラムを編成することを基本とし、各領域では以下の力を育成することを目指す。

1．「初等教育教員養成分野」領域では、小学校教員の基盤となる各教科等の知識・技能を身につけ、確かな指導方法を理解する力を育成する。
2．「特別支援教育分野」領域では、インクルーシブ教育の実現に向けた確かな知識・技能を身につけ、特別

支援教育についての高い専門性を有する力を育成する。
3．「学校実地研究分野」領域では、理論と実践の往還を重視した実践的指導力を育成する。
4．「学校教員実力養成分野」領域では、多様な表現活動や演習を通して組織の一員としての協調性や柔軟性を身につけ、他者とのコミュニケーションできる力を育成する。
5．「幼稚園教員養成分野」領域では、幼稚園教員として確かな知識・技能を身につけ、幼稚園、小学校との接続・連携を推進できる力を育成する。
6．「中等教育教員養成（外国語）分野」領域では、英語教育を推進できる中学校・高等学校教員として確かな知識・技能を身につけ、小学校との接続・連携を推進できる力を育成する。
7．「演習」領域では、自己の課題に向けて研究を深め、探究心や学び続ける力を育成する。

そのための教育課程の編成方針は以下のとおりである。

初等教育教員養成分野

1．小学校各教科・領域等の学習指導要領の内容を理解し、教材研究を行うとともに、基本的な学習指導案を作成し、教材・教具、指導方法の工夫をすることができる。
2．子どもの状況に応じた基本的な学級経営案を作成し、具体的な教育活動を組み立てることができる。
3．小学校教育の今日的な諸課題を知り、その解決のための基礎的な知識・技能を身につけている。
4．子どもの声を真摯に受け止め、保護者や地域の意見等を尊重し、学校組織の一員としてさまざまな課題にどう対応していくか考え、主体的に提案することができる。
5．他者の意見やアドバイスに耳を傾けるとともに、自身の考えを積極的に発信し、課題解決のためのよりよい方法を創出することができる。
6．学校組織の一員として校務の運営について理解し、自らの役割・職務に即して、協調性・柔軟性をもって取り組むことができる。
7．自己の課題に気づき、その解決に向けて、自己研鑽に励むなど、常に学び続けようとする姿勢を持っている。
8．積極的に子どもに関わり、子どもから学び、共に成長しようとする姿勢を持つことができる。
9．教員の使命や職務について理解し、自発的・積極的に自己の責任を果たそうとする姿勢を持っている。

特別支援教育分野

1．自ら主体的に教材研究を行うとともに、学習指導要領の内容を理解し、各教科等の指導の展開に応じた、教材・教具、指導方法を工夫するための基礎的な知識・技能を習得している。
2．子どもの障害特性や心身の発達段階の状況を把握したうえで学級経営案を作成し、具体的な教育活動を組み立てるための基礎的な知識・技能を習得している。
3．特別支援教育の今日的な諸課題を解決するために、情報を収集し、課題発見するための基礎的な知識・技能を習得している。
4．子どもの行動や声を真摯に受け止めたり、保護者や地域の意見・要望に耳を傾けたりするとともに、学校が組織的に対応し、関係機関と連携・協力しながら課題に対応していることについて考え、表現する力を身につけている。
5．他者の意見やアドバイスに耳を傾けるとともに、理解や協力を得ながら、課題に対処するために必要なことを考え、表現する力を身につけている。
6．組織の一員として協調性や柔軟性をもって校務の運営に参加し、自らの役割・職務を遂行するために必要なことを考え、表現する力を身につけている。
7．自己の課題に気づき、その解決に向けて、自己研鑽に励むなど、常に学び続けようとする姿勢を持っている。
8．子どもの行動を的確に捉え、理解する中で、子どもから学び、共に成長しようとする姿勢を持っている。
9．教員の使命や職務について理解し、自発的・積極的に自己の責任を果たし、実行しようとする姿勢を持っている。

学校実地研究分野

1．児童の実態や各教科等の指導の展開に応じた、教材・教具、指導方法を工夫するための基礎的な知識・技能を身につけている。
2．子どもの特性や心身の状況を把握したうえで学級経営案を作成し、実践することができる。
3．学校教育の今日的な諸課題を知り、その解決のための基礎的な知識・技能を身につけている。
4．子どもの声を真摯に受け止め、学校組織の一員としてさまざまな課題にどう対応していくか考え、主体的

に提案することができる。
5．他者の意見やアドバイスに耳を傾けるとともに、自身の考えを積極的に発信し、課題解決のためのよりよい方法を創出することができる。
6．組織の一員として協調性や柔軟性をもって校務の運営に参加し、自らの役割・職務を遂行するために必要なことを考え、表現する力を身につけている。
7．自己の課題に気づき、その解決に向けて自己研鑽に励み、自らの指導力等を高めようとする姿勢を持っている。
8．子どもに声をかけたり、相談に乗ったりする中で、子どもから学び、共に成長しようとする姿勢を持っている。
9．教員の使命や職務について理解し、自発的・積極的に自己の責任を果たし、実行しようとする姿勢を持っている。

学校教員実力養成分野

1．各教科又は学科横断的な指導の展開に応じた、教材・教具、指導方法を工夫するための基礎的な知識・技能を身につけている。
2．子どもの特性や発達を理解したうえで学級経営案を作成し、一人一人の児童の個性を尊重した教育活動を組み立てるための基礎的な知識・技能を身につけている。
3．科目等の特性に応じた課題を発見し、情報を収集しながら課題を解決するための基礎的な知識・技能を身につけている。
4．多様な表現活動や演習を通して、教員として必要となる表現力や具体的な指導法を身につけている。
5．他者と協力して課題解決の方法を探求する力を身につけている。
6．子どもの学習環境をより良くするための方法や、児童同士の学び合いが活性化するための工夫を考え、実践することができる。
7．自己の課題に気づき、その解決に向けて自己研鑽に励み、常に学び続けようとする姿勢を持っている。
8．他者と協働して一つのものをつくり上げたり、学習を深めたりすることができる。
9．学校教育に関する今日的な課題について学びを深め、地域連携や学校種連携の視点をもって自発的・積極的に自己の責任を果たし、実行しようとする姿勢を持っている。

幼稚園教員養成分野

1．幼稚園教育要領の内容を理解し、幼稚園教育関連の基礎的な知識・技能を身につけている。
2．幼児の特性や心身の状況を把握している。
3．幼稚園教育の今日的な諸課題を解決するための情報を収集することができる。
4．幼稚園が組織として連携・協力しながら課題に対応していることに気づくことができる。
5．他者の意見やアドバイスに積極的に耳を傾けることができる。
6．生徒や保護者、地域の声に耳を傾けつつ、学校が組織として連携･協力しながら外国語教育に関する学習指導･生徒指導を展開するために必要な原理･原則について考え、表現する力を身につけている。
7．自己の課題に気づき、常に学び続けようとしている。
8．進んで幼児に声をかけたり、顔を合わせたり、相談に乗ったりすることができる。
9．幼稚園教員の使命や職務について理解することができる。

中等教育教員養成（外国語）分野

1．自ら主体的に教科専門の理解にもとづき教材研究を行い、学習指導要領を踏まえた外国語教育指導の展開に応じた、教材･教具（ＩＣＴの活用を含む）、指導法を工夫するための基礎的な知識･技能を身につけている。
2．生徒の特性や心身の状況を把握したうえで、外国語教育に関する教科経営案を作成し、具体的な学習指導･生徒指導を組み立てるための基礎的な知識･技能を身につけている。
3．外国語教育に関する今日的な課題を解決するために、情報を収集し、課題発見するための基礎的な知識･技能を身につけている。
4．生徒や保護者、地域の声に耳を傾けつつ、学校が組織として連携･協力しながら外国語教育に関する学習指導･生徒指導を展開するために必要な原理･原則について考え、表現する力を身につけている。
5．他者の意見やアドバイスに耳を傾けるとともに、理解や協力を得ながら、外国語教育に関する学習指導･

生徒指導を展開するために必要な原理や原則について考え、表現する力を身につけている。

6．組織の一員として協調性や柔軟性を持って外国語教育の教科経営に参画し、外国語教育の教員として自らの役割・職務を遂行するために必要な課題を発見し、追究し、表現する力を身につけている。

7．外国語教育に関する自己の課題に気づき、その解決に向けて自己研鑽に励むなど、常に学び続けようとする姿勢を持っている。

8．気軽に生徒に声をかけたり、顔を合わせたり、相談に乗ったりする中で、外国語教育の教員として生徒から学び、ともに成長しようとする姿勢を持っている。

9．外国語教育に関する教員としての使命や職務について理解し、外国語教育に関する課題の解決に向けて自発的・積極的に自己の責任を果たし、実行しようとする姿勢を持っている。

演習

1．自ら選択した教育に関する今日的な課題について知識を深め、研究方法を的確に選択して、自分の考えを記述することができる。

2．先達の研究成果や他者の考えに触れることで、自ら選択した教育に関する今日的な課題を解決するための知識・技能を身につけている。

3．自己の研究課題を設定するための資料を収集して、その中から課題を発見し、教育環境がより良くなるための提案等を記述することができる。

4．自ら選択した教育に関する今日的な課題について事例を研究したり、様々な意見を比較検討したりすることにより、自分の考えを形成し、表現することができる。

5．仲間との協働学修を通して自己の学修課題を省察するだけでなく、他者への建設的な助言ができる。

6．自ら選択した教育に関する今日的な課題について背景を分析し、課題を解決するために必要な手段等を考え、表現する力を身につけている。

7．教育学や教育倫理に関する学修を深め、自己の学習課題に沿って研究を進めることができる。

8．教育に関する今日的な課題を解決するために他者と協働して課題解決に当たろうとする姿勢を持っている。

9．教育に関する今日的な課題を解決するために自発的・積極的に自己の責任を果たし、実行しようとする姿勢を持っている。

カリキュラムマップでは、各学科の学生が、卒業までに身につけるべき知識・能力を得るための授業科目が、どのように配置されているか、各授業科目の関連性などがわかるようになっています。

カリキュラムの授業科目間のつながりや年次進行などがわかりますので、履修上の参考にしてください。

児童教育学科　カリキュラムマップ

→ 必修科目（太字）

領域	学生が身につけるべき資質・能力	1年次	2年次	3年次	4年次
初等教育教員養成分野	小学校教員養成の基盤となる各教科・領域、その指導法について、 ・教科用図書の内容を十分理解し、わかりやすく学習内容や学習活動を組み立てるとともに、子どもの質問に的確にこたえることができる ・板書や発問、的確な話し方など基本的な指導技術を身に着けるとともに、子どもの反応を生かしながら、集中力を保ち、関心・意欲を喚起する授業を行うことができる ・自ら主体的に教材研究を行うとともに、それを生かした学習指導案を作成することができる ・誠実、公平かつ責任感をもって子どもに接し、子どもから学び、共に成長しようとする意識をもって指導にあたることができる ・他者の意見やアドバイスに耳を傾けるとともに、理解や協力を得ながら、自らの役割・職務を遂行することできる ・教員の使命や職務についての基本的な理解に基づき、自発的・積極的に自己の職責を果たそうとする姿勢をもつことができる	**国語** **算数** **社会** 生活 **理科** 図画工作 **教育学概論A** **教職入門A** **学校制度論A** **教育心理学A** **特別な教育的ニーズの理解と支援A** **教育課程論A**	音楽 **体育** 家庭 外国語（英語） **初等国語科教育** **初等算数科教育** **初等理科教育** **初等図画工作科教育** **初等社会科教育** **初等生活科教育** 教材研究A 教材研究B **特別活動A** **教育方法A（ICT活用を含む）** **生徒指導・進路指導A** 幼児理解の理論と方法	**初等体育科教育** **初等音楽科教育** **初等家庭科教育** **初等英語科教育** 授業研究A 授業研究B **道徳教育A** 総合的な学習の時間の授業づくりA **教育相談A**	
特別支援教育分野	・特別支援教育についての高い専門性を有する小学校教員又は特別支援学校教員としての知識、問題解決能力を身に着けることができる ・今日の課題である「インクルージブル教育の実現」に向けた知識・技術、実践的指導力を身につけることができる	特別支援学校教育概論 病弱の心理・生理・病理 知的障害の心理・生理・病理 肢体不自由の心理・生理・病理	知的障害教育概論 肢体不自由教育概論 病弱教育概論 **特別支援教育指導法** 知的障害教育課程論	視覚障害教育概論 聴覚障害教育概論 重複障害教育概論 肢体不自由教育課程論 病弱教育課程論	
学校実地研究分野	・学んだことを実際の教育現場において、実践することで、自らの課題を発見し、解決する能力を身につけることができる			教育実習事前事後指導（介護等体験含む） 幼稚園教育実習（事前事後指導含む） 教育実習	教職実践演習（幼・小・中・高） 特別支援学校教育実習（事前事後指導含む） 教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ 教育実習Ⅲ
学校教員実力養成分野	・多様な表現活動や演習を通じて、学校運営、学級運営、効果的な指導法や学習指導案を作成することができる ・組織の一員として協調性や柔軟性をもって校務にあたることができる	表現活動（基礎） 表現活動（応用） 教職基礎演習 ピアノ奏法演習 書写・文章表現演習（基礎）	教職発展演習 学習指導と学校図書館 書写・文章表現演習（応用）	教育体験活動 理科実験観察 ICTとプログラミング教育 学級経営と道徳教育 外国語活動 教育行政概論	教職応用演習
幼稚園教員養成分野	・幼稚園と小学校の連携・接続を推進できる小学校教員又は幼稚園教員としての知識、問題解決能力を身につけることができる ・今日の課題である「幼児教育と小学校教育との円滑な接続」に向けた知識・技術、実践的指導力を身につけることができる	幼児と健康 幼児と人間関係 幼児と環境 幼児と言葉 幼児と表現 保育内容総論	保育内容の指導法（環境） 保育内容の指導法（人間関係） 保育内容の指導法（言葉） 保育内容の指導法（健康）	保育内容の指導法（表現）	
中等教育教員養成（外国語）分野	・小学校と中学校の連携を図った英語教育を推進できる中学校(高等学校)教員としての知識、問題解決能力を身につけることができる ・今日の課題である「グローバル化に対応した教育環境の整備」に向けた知識・技術、実践的指導力を身につけることができる	アドバンスト・リスニング応用 アドバンスト・リーディング応用 アドバンスト・ライティング応用 ことばのしくみ 英語学 英語音声学Ⅰ（子音と母音） 英語音声学Ⅱ（発話実践） 英米文学の流れ 英米小説と女性 異文化コミュニケーション	英語Ⅲ 英語Ⅳ 中級ビジネス英語 中級映画・ドラマ英語 中級メディア英語 Oral English a Oral English b 英語科教育法Ⅰ 英語科教育法Ⅱ 比較文化論	英語科教育法Ⅲ 英語科教育法Ⅳ	
演習	・教育学や教育理論に関する学修を深め、自己の学修課題に沿って、研究を深めることができる、かつ学び続けることできる ・仲間との共同学修を通して、自己の学修課題を省察したり、他者へ建設的なアドバイスができる ・自己の研究課題を設定するための資料を収集し、自己研究課題が設定できるようになる			**卒業研究ゼミナール**	**卒業研究**
DP	児童教育学科では、教育研究上の目的を達成するために、次の学生像を人材育成の方針とする。 1．自律的に学ぶ姿勢や、時代の変化やキャリアステージに応じて求められる資質能力を生涯にわたって高めていく態度を身につけている。 2．学校教育の今日的な諸課題の解決に向けて、多様な人と効果的に連携・分担し、組織的・協働的に取組む能力を身につけている。 3．小学校教育を基本に特別支援教育・幼児教育・英語教育等への学びを究め、幼小及び小中の円滑な接続等に関する知識と技能を身につけ、これからの時代の教育を創造している。				
CP	児童教育学科では、教員として必要な資質や能力を養うために、講義・演習・実技・学校インターンシップ・教育実習等を通して、教育学や教育理論と教育実践との往還的な学習を深めるようカリキュラムを編成する。				

2 教育人文学部　児童教育学科（EB）
専門科目教育課程　2024年度生

科目群		卒業に必要な単位数	
共通科目		22単位以上	
学科専門科目	必修	59単位	90単位以上
	選択	31単位以上	
自由選択科目		12単位以上	
計		124単位以上	

- 共通科目から、必修科目９単位、選択必修科目６単位を含めた22単位以上を履修
- 専門科目から、必修科目59単位（卒業研究を含む）を含めた90単位以上を履修
- 自由選択科目は、12単位以上を履修
- 合計124単位以上を履修

What's “自由選択科目”!?

a．共通科目22単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
例）共通科目28単位取得した場合は、６単位分が自由選択科目の単位となる。

b．自学科の専門選択科目31単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
例）自学科の専門選択科目40単位取得した場合は、９単位分が自由選択科目の単位となる

c．他学科の他学科開放科目を修得すると自由選択科目の単位となる。

a～cを組み合わせて（又は単独で）12単位以上を履修

科目区分		授業科目	単位数 必修	単位数 選択	授業形態	履修期	配当年次	他学科開放	備考	身につく力（◎…重要な目的としている ○…主な目的としている）基礎学力の定着を図る指導法の工夫	子ども等の反応を受け止めた的確な対応	主体的・継続的に学修する姿勢	子どもの特性を理解した学級経営	保護者や地域との連携・課題解決	子どもから学び共に成長する姿勢	自己の課題解決に向けた的確な情報収集・整理	他者との協働、役割・職務遂行	社会人としての自己の職責を果たそうとする姿勢
初等教育教員養成分野	教科及び教科の指導法に関する科目	国語	2		講義	前	1年	○		◎		○	○			○		
		社会	2		講義	後	1年	○		◎		○	○			○		
		算数	2		講義	後	1年	○		◎		○	○			○		
		理科	2		講義	後	1年	○		◎		○	○			○		
		生活		2	講義	前	1年	○		◎		○	○			○		
		音楽		2	講義	後	2年	×		◎		○	○			○		
		図画工作		2	講義	後	1年	○		◎		○	○			○		
		家庭		2	講義	前	2年	×		◎		○	○			○		
		体育	2		講義	後	2年	×		◎		○		○		○		
		外国語（英語）		2	講義	後	2年	×		◎		○		○	○			○
		初等国語科教育	2		講義	前	2年	×		◎		○		◎	○	◎		○
		初等算数科教育	2		講義	後	2年	×		○	◎	○	◎	○	○	◎	○	○
		初等理科教育	2		講義	後	2年	×		○	◎	○	○	◎	○	○	○	◎
		初等体育科教育	2		講義	前	3年	×		○	◎	○	◎	○	○	◎	○	○
		初等音楽科教育	2		講義	後	3年	×		◎	○	○	◎	○	○	◎		○
		初等図画工作科教育	2		講義	後	2年	×		◎	○	○	◎	○	○	◎		○
		初等社会科教育	2		講義	前	2年	×		◎	○	○	◎	○	○	○	○	◎
		初等生活科教育	2		講義	前	2年	×		○	◎	○	◎	○	○	○		◎
		初等家庭科教育	2		講義	前	3年	×		◎	○	○	◎	○	○	◎		○
		初等英語科教育	2		講義	前	3年	×		◎	○	○	○	◎	○	○	○	◎
		教材研究A		1	演習	前	2年	×		◎	○	○	◎	○	○	◎	○	○
		教材研究B		1	演習	後	2年	×		◎	○	○	◎	○	○	◎	○	○
		授業研究A		1	演習	前	3年	×		○	○	◎	○	○	○	◎	◎	○
		授業研究B		1	演習	後	3年	×		○	○	◎	○	○	◎	○	◎	○
	教育の基礎的理解に関する科目	教育学概論A	2		講義	前	1年	×						○	○	◎	○	○
		教職入門A	2		講義	前	1年	×		○			○			◎	○	○
		学校制度論A	2		講義	前	1年	×			◎			◎		○	○	◎
		教育心理学A	2		講義	後	1年	×					◎				◎	
		特別な教育的ニーズの理解と支援A	2		講義	前	1年	×			◎	○	◎	○		○		
		教育課程論A	2		講義	後	1年	○		◎	○	○			○	○	○	
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳教育A	2		講義	前	3年	×		○		○			◎			
		総合的な学習の時間の授業づくりA		■2	講義	後	3年	×		○	◎		○	○	◎	◎	○	
		特別活動A	2		講義	後	2年	×			○		◎	○	○	○	○	
		教育方法A（ICT活用を含む）	2		講義	前	2年	×		◎	○	○			○	○	○	○
		生徒指導・進路指導A	2		講義	前	2年	×			◎	○	◎	○	○	○	○	◎
		教育相談A	2		講義	後	3年	×		◎	○		◎		○		○	○
		幼児理解の理論と方法		●2	講義	後	2年	×			◎	○	◎	○		○		
特別支援教育分野	特別支援教育に関する科目	特別支援学校教育概論		★2	講義	前	1年	○		◎	○		◎	○		○		
		知的障害教育概論		★2	講義	前	2年	×		○	◎		◎	○		○		
		肢体不自由教育概論		★2	講義	前	2年	×		○	◎		◎	○		○		
		病弱教育概論		★2	講義	後	2年	×		○	◎		◎	○		○		
		視覚障害教育概論		★2	講義	後	3年	×		○	◎		◎	○		○		
		聴覚障害教育概論		★2	講義	後	3年	×		○	◎		◎	○		○		
		重複障害教育概論		★2	講義	後	3年	×		○	◎		◎	○		○		
		特別支援教育指導法	1		演習	前	2年	×		○	◎		◎	○		○		
		知的障害教育課程論		★2	講義	後	2年	×			◎	○	○	◎			◎	○

科目区分		授業科目	単位数 必修	単位数 選択	授業形態	履修期	配当年次	他学科開放	備考	身につく力（◎…重要な目的としている　○…主な目的としている）基礎学力の定着を図る指導法の工夫	子ども等の反応を受け止めた的確な対応	主体的・継続的に学修する姿勢	子どもの特性を理解した学級経営	保護者や地域との連携・課題解決	子どもから学び、共に成長する姿勢	自己の課題解決に向けた的確な情報収集・整理	他者との協働、役割・職務遂行	社会人としての自己の職責を果たそうとする姿勢
特別支援教育分野	特別支援教育に関する科目	肢体不自由教育課程論		★2	講義	前	3年	×			◎	○	○	◎			◎	○
		病弱教育課程論		★2	講義	前	3年	×			◎	○	○	◎			◎	○
		知的障害の心理・生理・病理		★2	講義	後	1年	○		◎	○		◎	○		○		
		肢体不自由の心理・生理・病理		★2	講義	前	1年	○		◎	○		◎	○		○		
		病弱の心理・生理・病理		★2	講義	前	1年	○		◎	○		◎	○		○		
学校実地研究分野	教育実践に関する科目	教育実習事前事後指導		■2	演習	通	3年	×		○	○	◎	○	◎	○	○	○	◎
		教育実習		■4	実習	後	3年	×		◎	◎	○	◎	○	◎	◎	○	◎
		教職実践演習（幼・小・中・高）		■2	演習	後	4年	×		○	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	◎
		幼稚園教育実習(事前事後指導含む)		●2	実習	前・後	3年	×		○	◎	○	○	○	◎	◎	○	○
		特別支援学校教育実習(事前事後指導含む)		★3	実習	通	4年	×		◎	○	○			○	○		
		教育実習Ⅰ		◆1	演習	通	4年	×		○	◎	○			◎	◎		
		教育実習Ⅱ		2	実習	通	4年	×		○	◎	○			◎	○	○	◎
		教育実習Ⅲ		◆2	実習	通	4年	×		○	◎	○			◎	○	○	◎
学校教員実力養成分野	大学が独自に設定する科目	教育体験活動		■1	実習	通	3年	×		○	◎	○	○	○	◎	◎	○	○
		表現活動（基礎）		2	演習	前	1年	○		○	○	◎	◎	○	○			◎
		表現活動（応用）		2	演習	後	1年	○		○	○	◎	◎	○	○			◎
		教職基礎演習		1	演習	後	1年	○			◎	○	◎	○	○	○		
		教職発展演習		2	演習	通	2年	×		○			○	○	◎		◎	
		教職応用演習		1	演習	前	4年	×		○	○		○	○	◎	○	◎	○
		学習指導と学校図書館		2	講義	前	2年	×		○	◎		○		○	○	○	
		学級経営と道徳教育		2	講義	後	3年	×		○	○		◎	○	○			○
		外国語活動		2	講義	後	3年	×		◎		○		○	○			○
		書写・文章表現演習（基礎）		1	演習	後	1年	○		◎		○	○	◎		◎	○	
		書写・文章表現演習（応用）		1	演習	後	2年	×		◎		○	○	◎		◎	○	
		理科実験観察		1	実験・実習	前	3年	×		◎	○		◎	○		◎		
		教育行政概論		2	講義	後	3年	×				◎		◎		○	○	◎
		ICTとプログラミング教育		2	演習	前	3年	×		◎	○		○		○			
		ピアノ奏法演習		1	演習	前・後	1年	×		○	○	◎	○	○		◎		○
幼稚園教員養成分野	領域・保育内容の指導法（情報機器及び機材の活用を含む。）	幼児と健康		●2	講義	前	1・2年	○		◎		○		○	○	○		
		幼児と人間関係		●2	講義	前	1・2年	○		◎		○		○	○	○		
		幼児と環境		●2	講義	前	1・2年	○		◎		○		○	○	○		
		幼児と言葉		●2	講義	後	1・2年	○		◎		○	◎	○	○	○		◎
		幼児と表現		●2	講義	後	1・2年	○		◎		○		○	○	○		
		保育内容総論		●2	演習	後	1年	○		◎			○				○	○
		保育内容の指導法（環境）		●2	演習	前	2・3年	×		◎			○	○	○			○
		保育内容の指導法(人間関係)		●2	演習	前	2・3年	×		◎			○	○	○			○
		保育内容の指導法（言葉）		●2	演習	前	2・3年	×		○	○	◎	○		◎		○	◎
		保育内容の指導法（健康）		●2	演習	後	2・3年	×		○	◎	○	◎	○	○	○	○	○
		保育内容の指導法（表現）		●2	演習	前	3年	×		○	◎	○	◎		○	○		○
中等教育教員養成（外国語）分野	英語コミュニケーションに関する科目	英語Ⅲ		◆2	演習	前	2・3・4年	×		○		◎			◎	◎	○	
		英語Ⅳ		◆2	演習	後	2・3・4年	×		○		◎			◎	◎	○	
		アドバンスト・リスニング応用		◆2	講義	前・後	1・2・3・4年	×		○		◎			◎	◎		
		アドバンスト・リーディング応用		◆2	講義	前・後	1・2・3・4年	×		○		◎			◎	◎		
		アドバンスト・ライティング応用		◆2	講義	前・後	1・2・3・4年	×		○		◎			◎	◎		
		中級ビジネス英語		2	講義	後	2・3・4年	×		○		◎			◎	◎		
		中級映画・ドラマ英語		2	講義	前・後	2・3・4年	×		○		◎			◎	◎		
		中級メディア英語		2	講義	前	2・3・4年	×		○		◎			◎	◎		
		Oral English a		◆1	演習	前	2・3・4年	×		◎	○	○			◎	○	◎	
		Oral English b		◆1	演習	後	2・3・4年	×		◎	○	○			◎	○	◎	
	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）	英語科教育法Ⅰ		◆2	講義	前	2年	×		◎	○	○		○	◎	◎		○
		英語科教育法Ⅱ		◆2	講義	後	2年	×		○	◎	○		○	◎	◎		○
		英語科教育法Ⅲ		2	講義	前	3年	×	中免のみ必修	○	◎	○		○	◎	◎		○
		英語科教育法Ⅳ		2	講義	後	3年	×	中免のみ必修	○	◎	○		○	◎	◎		○
	英語学に関する科目	ことばのしくみ		◆2	講義	前	1・2・3年	○		○		◎			◎	◎		
		英語学		◆2	講義	後	1・2・3年	○		○		◎			◎	◎		
		英語音声学Ⅰ（子音と母音）		◆2	講義	前	1・2・3年	○		○		◎			◎	◎		
		英語音声学Ⅱ（発話実践）		◆2	講義	後	1・2・3年	○		○		◎			◎	◎		
	英語文学に関する科目	英米文学の流れ		◆2	講義	前	1・2・3年	○		○		◎			◎	◎		
		英米小説と女性		◆2	講義	後	1・2・3年	○		○		◎			◎	◎		
	異文化理解に関する科目	異文化コミュニケーション		◆2	講義	後	1・2・3年	×		◎		◎				◎		
		比較文化論		◆2	講義	前	2・3・4年	×		◎		◎				◎		
演習		卒業研究ゼミナール	2		演習	通	3年	×		○	○	◎	○	◎		◎	○	○
		卒業研究	4		演習	通	4年	×		○	○	◎	○	◎		◎	○	○

［「卒業研究」の履修について］
註１：「卒業研究」を履修するには、原則として、３ 年次終了時に修得単位数が84単位以上であること。

［資格の履修について］
註１：小学校教諭一種免許状取得を希望する者は必修に加えて、単位数欄にある■印の科目を全て履修しなければならない。
註２：特別支援学校教諭一種免許状取得を希望する者は必修に加えて、単位数欄にある■印と★印の科目を全て履修しなければならない。
註３：幼稚園教諭一種免許状取得を希望する者は必修に加えて、単位数欄にある■印と●印の科目を全て履修しなければならない。
註４：中学校・高等学校教諭一種免許状（英語）取得を希望する者は必修に加えて、単位数欄にある■印と◆印の科目を全て履修しなければならない

3 教育人文学部　心理学科

教育研究上の目的

心理学科は、幅広い専門的な心理学的知見と態度及び技能を具備し、心理学的支援を要する人々に対し、専門知識をもって発達段階に応じた適切な支援のできる人材を育成することを教育研究上の目的とする。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

心理学科では、教育研究上の目的を達成するために、次の学生像を人材育成の方針とする。

1．心理学的な研究方法から得られた実証的なデータに基づいて、人間の心に対する多面的な見方ができる。
2．心理学における基本的な理論や概念を理解し、共感的理解に基づき、多様な人々とコミュニケーションが取れる。
3．専門教育で習得した理論・概念・知識・技能をもとに、社会における諸課題の解決に寄与できる。

そのうえで、次の資質及び能力を有している者に「学士（心理学）」の学位を授与する。

①知識・技能

1．心理学の主な領域（基礎、発達、教育、臨床、社会、健康）における基本的な理論や概念、データに基づいた実証的な研究方法を理解できる。
2．専門教育で習得した心理学の主な領域（基礎、発達、教育、臨床、社会、健康）に関する理論・概念・技能を人々の生活に応用していく方法を理解できる。
3．データの分析から得られた資料に基づいて、自ら導いた考察や結論を、課題の理解に役立てることができる。

②思考力・判断力・表現力

1．心理学の主な領域（基礎、発達、教育、臨床、社会、健康）における基本的な理論や概念に基づいて、人の心や行動の特徴を分析的に考えることができる。
2．心理学の主な領域（基礎、発達、教育、臨床、社会、健康）における基本的な理論や概念に基づいて、他者の心や行動の特徴を分析的に考えることができる。
3．専門教育で習得した心理学の主な領域（基礎、発達、教育、臨床、社会、健康）に関する理論・概念・技能に基づいて、課題解決の手立てを考え、他者と共有することができる。

③主体性・多様性・協働性

1．自らの心と身体の健康を保持増進するために、専門教育で習得した理論・概念・知識・技能を進んで活用しようとする意欲をもつことができる。
2．人々の心と身体の健康を保持増進するために、専門教育で習得した理論・概念・知識・技能を進んで活用しようとする意欲をもつことができる。
3．社会的な課題を見出し、専門教育で習得した心理学の主な領域（基礎、発達、教育、臨床、社会、健康）に関する理論・概念・技能を活用して、他者と協働しながらその解決に臨むことができる。

教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

心理学科では、ディプロマ・ポリシーに挙げた資質・能力を身につけさせるため、教育課程として７領域を設定し、各領域に学修過程に応じた科目を配置する。

1．心理学の理論や概念、実証的・科学的な考え方を理解するための基盤となる知識を身につけ、心理学的な心の捉え方を理解する力を養うために、「心理学概論」、「知覚・認知心理学」などの科目を含む【心理学基礎（心のしくみ）】領域を配置する。
2．人間の心と行動を実証的・科学的に検証・分析する方法を習得するとともに、実習を通して実践に通じる技能を養うために、「心理学実験」、「心理学的研究法」、「心理学情報処理法」を含む【研究法・データサイエンス（心の探求）】領域を配置する。
3．人間の発達過程に対する多面的かつ複合的な理解を深め、その知識を基盤としながら教育現場に対する理

解と指導について実践的に学び、問題や課題を早期に発見する姿勢及び柔軟に対応できる力を養うために、「発達心理学概論」、「教育心理学」、「養護教諭実践論」を含む【発達・教育（心と育ち）】領域を配置する。

4．心のケア・サポートに関する知識や理論を学び、事例学習や実習を通して心理的な課題への支援・援助に関する専門的知識及び技能を養うために、「臨床心理学概論」、「カウンセリング技法」、「公認心理師の職責」などを含む【臨床（心のケア）】領域を配置する。

5．社会の諸場面（自己、対人関係、集団、組織）における人々の行動特性を学び、日常生活における課題に対して心理学の専門的知識を活かす姿勢を養うために、「社会心理学概論」、「対人関係の心理学」、「産業心理学」などを含む【社会・産業（心とつながり）】領域を配置する。

6．学校における児童・生徒の養護及び保健教育・指導に関わる専門的知識や技能を習得し、かつ事例学習や実習を通して現場において問題や課題を早期に発見する姿勢及び問題に対して柔軟に対応できる力を養うために、「学校保健Ⅰ」、「人体の構造と機能及び疾病」、「小児保健看護学」、「健康・医療心理学」などを含む【健康・保健（心とからだ）】領域を配置する。

7．学びの集大成として、研究論文の作成に取り組み、その過程で課題発見・解決力や論理的思考力を養うために、「卒業研究」を含む【卒業研究】領域を配置する。

そのための教育課程の編成方針は以下のとおりである。

心理学基礎（心のしくみ）領域

1．自身の経験や体験を踏まえて、人間の知覚・認知に関わる心のしくみに関する理論や概念、専門知識を習得させる。

2．自己と他者の共通点や相違点を考察し、人間の知覚・認知に関わる心のしくみを理解させる。

3．人間の知覚・認知に関わる心のしくみを、脳科学や神経生理学など関連諸領域の知見を交えて理解させる。

4．知覚・認知の理論や知識に基づいて、自らの行動を省察し人間の行動を論理的・科学的に考察する力を養う。

5．知覚・認知の理論や知識に基づいて、他者や集団の行動を省察し人間の行動を分析的に考察する力を養う。

6．知覚・認知的事象のしくみを研究するための方法を論理的に組み立てたり説明したりする力を養う。

7．知覚・認知的事象を「自分事」として捉えることで人間の心の多様性を理解する姿勢を育成する。

8．知覚・認知的事象を他者視点で捉え直すことで、多角的に心の多様性を理解する姿勢を育成する。

9．心のしくみに関する課題を自ら発見し、他者と協働して多角的視点をもって課題解決に取り組む力を養う。

研究法・データサイエンス（心の探求）領域

1．自分自身について探求的にかつ実証的・科学的に検討するために必要な知識・技能・研究方法などについて理解を深める。

2．人間の心を実証的・科学的に探求するために必要な知識・技能・研究方法などについて理解を深める。

3．社会的な課題について心理学的な手法を用いて、実証的・科学的に検証するために必要な知識・技能・研究方法などについて理解を深める。

4．人間の心について実証的・科学的に探求するために理論や知識に基づいて、自分自身の心や行動を分析的に考える力を養う。

5．人間の心について実証的・科学的に探求するために理論や知識に基づいて、他者の心や行動を分析的に考える力を養う。

6．社会的な課題について心理学的な手法を用いて、実証的・科学的に検証する力を養う。

7．人間の心について実証的・科学的に探求するために理論や知識に基づいて、意欲的に自分自身を探求しようとする態度を養う。

8．人間の心について実証的・科学的に探求するために理論や知識に基づいて、意欲的に人間理解を進めようとする態度を養う。

9．社会的な課題について心理学的な手法を用いて、実証的・科学的に検証しようとする態度を養う。

発達・教育（心と育ち）領域

1．人の生涯にわたる発達の過程と要因に関する基本的な理論や概念、研究方法などについて理解させる。

2．生涯発達と教育に関する理論・知識・技能を人々の生活に応用していく方法について理解を深める。

3．生涯発達と教育に関する専門的な知識・技能を用いて、人々の生活や学習における課題についての理解を深める。

4．生涯発達に関する基本的な理論や概念に基づいて、自分の心や行動とその変化の特徴を分析的に考える力

を養う。

5．生涯発達と教育に関する理論や概念に基づいて、他者の心や行動の特徴とその変化について分析的に考えさせる。
6．生涯発達と教育に関する専門的な理論・概念に基づいて、実証的な課題解決の手立てを考え、他者と共有する力を養う。
7．生涯発達に関する心理学的な知見に興味をもって調べ、自らの発達について考えようとする態度を養う。
8．生涯発達と教育に関する理論・知識・技能を、人々の心と身体の健康を保持増進するために、進んで活用しようとする意欲を養う。
9．社会生活や教育現場における課題を見出し、生涯発達と教育に関する理論・知識・技能を活用して、他者と協働しながらその解決に臨むことができる。

臨床（心のケア）領域

1．心理臨床に関する基本的な知識や理論を学び、自らの心理的な課題についての理解を深める。
2．心理臨床に関する基本的な知識や技能を応用し、人々の心理的な課題を支援・援助するための方法について理解を深める。
3．心理臨床に関する事例学習や実習を通して得た専門的な知識や技能を用いて、自分自身及び周囲の人々の日常生活における心理的な課題について理解を深める。
4．心理臨床に関する基本的な理論や概念に基づいて、自らの心の状態や行動の特徴について分析的に考える力を養う。
5．心理臨床に関する基本的な知識や技能に基づいて、人々の心の状態や行動の特徴について分析的に考える力を養う。
6．心理臨床に関する事例学習や実習を通して得た専門的な知識や技能を基に、人々の日常生活における心の健康保持増進のための方法を自ら考え、他者と共有する力を育成する。
7．心理臨床に関する基本的な理論や概念を活用し、自らの心の健康を積極的に保持増進しようとする意欲を育む。
8．心理臨床に関する基本的な知識や技能を活用し、人々の心理的な課題への支援・援助に積極的に寄与しようとする意欲を育む。
9．心理臨床に関する事例学習や実習を通して得た専門的な知識や技能を活用し、人々が日常生活の中で心の健康を保持するために他者と協働しながら支援・援助に臨む姿勢を養う。

社会・産業（心とつながり）領域

1．人間の心と社会の諸場面（人間集団、家庭・家族、対人関係、企業活動）に関する基本的な理論や概念、研究方法などについて理解を深める。
2．人間の心と社会の諸場面（人間集団、家庭・家族、対人関係、企業活動）に関する応用的な理論・概念及び心理学的なデータ分析の技法に基づいて、人々の心や行動の特徴に関する理解を深める。
3．社会における経験が心理学的手法を用いてどのように説明されるのかを学び、人間の心と行動に対する経験則的な理解を超えた、実証的・科学的な考え方に基づいた課題の理解を身につけさせる。
4．人間の心と社会の諸場面（人間集団、家庭・家族、対人関係、企業活動）に関する基本的な理論や概念に基づいて、社会における自分自身の心や行動を分析的に考える力を養う。
5．人間の心と社会の諸場面（人間集団、家庭・家族、対人関係、企業活動）に関する理論や概念及び心理学的なデータ分析の技法に基づいて、人々の心や行動の特徴を分析的に考える力を養う。
6．人間の心と社会とのつながりに関する基本的な理論や概念を用いて、日常生活での経験を分析し、実際にそれらを活用する方法を自ら考え、他者と共有する力を育成する。
7．人間の心と社会の諸場面（人間集団、家庭・家族、対人関係、企業活動）に関する基本的な理論や概念を活用し、社会における自分自身の心や行動を理解しようとする意欲を育む。
8．人間の心と社会の諸場面（人間集団、家庭・家族、対人関係、企業活動）に関する理論や概念及び心理学的なデータ分析の技法を活用し、人々の心や行動の特徴を理解しようとする意欲を育む。
9．人間の心と社会とのつながりに関する基本的な理論や概念や日常生活での経験を心理学的に分析する技能を活用して、他者と協働しながらその解決に臨む姿勢を養う。

健康・保健（心とからだ）領域

1．心と身体の健康の保持増進について、保健を中心とした諸領域の専門的知識と基礎的な技能を理解し修得することができる。
2．保健を中心とした諸領域の専門的知識や基本的技能を、自己及び周囲の人々の心と身体の健康を保持増進に応用していく方法を理解できる。
3．学校保健における課題の探求とその解決に資する理論・概念・知識・技能を、専門教育を通して理解し修得できる。
4．心と身体の健康に関する専門的知識に基づいて、健康の保持増進に関して、自ら実践していく態度を備えるとともに、他者に働きかける力を備える。
5．保健を中心とした諸領域の専門的知識や基本的技能に基づいて、自己及び周囲の人々の心と身体の健康の保持増進をはかる方法を考え実践することができる。
6．専門教育で修得した保健領域等の理論・概念・知識・技能を活用して、学校保健における課題解決の方策を主体的に考え、連携・協働すべき人々と共有することができる。
7．心と身体の健康の保持増進に関して、保健を中心とした領域の専門的知識と基本的な技能を自ら進んで学び、他者と協働しながら実践していくことができる。
8．保健を中心とした諸領域の専門的知識や基本的技能を活用して、自己及び周囲の人々の心と身体の健康の保持増進をはかる方法を、自ら考え実践しようとする意欲を備える。
9．専門教育で修得した保健領域等の理論・概念・知識・技能を活用して、学校保健における課題を見出して、他者と連携・協働しながら、その解決に臨むことができる。

卒業研究領域

1．心理学の主な領域（基礎、発達、教育、臨床、社会、健康）に関する理論や概念、技能を基盤に、複眼的な視野から専門知識の理解を深める。
2．自己の関心に基づく研究課題を自ら設定できる能力を育成する。
3．研究課題を解明するための心理学の実践的・応用的な研究方法を習得させる。
4．心理学の主な領域（基礎、発達、教育、臨床、社会、健康）に関する理論や概念、技能を基盤に、客観的に分析するために必要な理論的思考力を育成する。
5．他者に対して論理的・客観的に表現する研究プレゼンテーションの能力を育成する。
6．研究課題に対する論理的・客観的な思考力と表現力を養う。
7．心理学の主な領域（基礎、発達、教育、臨床、社会、健康）に関する理論や概念、技能を基盤に、分析した結果・知見を地域や社会に結びつけ、還元する姿勢を養う。
8．他者とのラポールを形成し、複眼的視点から協働して、研究課題を考察・解決する能力を育成する。
9．研究課題に対して、持続的かつ主体的に取り組む意欲と態度を養う。

カリキュラムマップでは、各学科の学生が、卒業までに身につけるべき知識・能力を得るための授業科目が、どのように配置されているか、各授業科目の関連性などがわかるようになっています。

カリキュラムの授業科目間のつながりや年次進行などがわかりますので、履修上の参考にしてください。

心理学科　カリキュラムマップ

（網掛け）→ 必修科目

領域	学生が身につけるべき資質・能力	授業科目	1年次	2年次	3年次	4年次
基礎心理学領域	心理学の理論や概念、実証的・科学的な考え方を理解するための基盤となる知識を身につけ、心理学的な心の捉え方を理解する力を養う	**心理学概論**	●			
		心理学リテラシー	●	●		
		感情・人格心理学	●	●	●	
		心理学基礎論		●	●	
		学習・言語心理学		●	●	
		知覚・認知心理学		●	●	
		神経・生理心理学			●	●
研究法・データサイエンス領域	人間の心と行動を実証的・科学的に検証・分析する方法を習得するとともに、実習を通して実践に通じる技能を養う	**心理学統計法**	●			
		心理学情報処理法	●			
		心理学実験	●			
		心理アセスメント入門		●		
		心理学入門演習		●		
		実験計画法		●	●	
		調査法		●	●	
		面接法		●	●	
		観察法		●	●	
		事例研究法		●	●	
		心理学研究法			●	
		専門ゼミナール			●	
		データ解析法			●	●
		心理学外書講読			●	●
発達・教育領域	人間の発達過程に対する多面的かつ複合的な理解を深め、その知識を基盤としながら教育現場に対する理解と指導について実践的に学び、問題や課題を早期に発見する姿勢及び柔軟に対応できる力を養う	**発達心理学概論（発達心理学）**	●			
		発達臨床心理学（発達心理学）	●			
		乳幼児期の心理学		●		
		児童期の心理学		●		
		青年期の心理学		●		
		教育心理学	●	●		
		子どもの発達と環境	●	●	●	
		福祉心理学		●	●	
		家族心理学（社会・集団・家族心理学）		●	●	
		養護概説		●	●	
		発達支援活動		●	●	
		中高年期の心理学			●	
		生徒指導			●	●
		教育相談（教育・学校心理学）			●	●
		健康相談活動			●	●
		養護教諭実践論			●	●
臨床領域	心のケア・サポートに関する知識や理論を学び、事例学習や実習を通して心理的な課題への支援・援助に関する専門的知識及び技能を養う	**臨床心理学概論**	●			
		カウンセリング理論	●			
		公認心理師の職責	●			
		カウンセリング技法		●		
		関係行政論		●	●	
		司法・犯罪心理学		●	●	
		精神疾患とその治療		●	●	
		子どもの心理臨床		●	●	
		成人期の危機と心理臨床			●	●
		障害者・障害児心理学			●	●
		心理療法			●	●
		文化と心理学			●	●
		現場の心理臨床			●	●
		心理的アセスメント			●	●
		心理学的支援法			●	●
		心理演習			●	
		心理実習				●
社会領域	社会の諸場面（自己、対人関係、集団、組織）における人々の行動特性を学び、日常生活における課題に対して心理学の専門的知識を活かす姿勢を養う	**社会心理学概論（社会・集団・家族心理学）**	●			
		コミュニケーションの心理学		●	●	
		対人関係の心理学		●	●	
		グループダイナミクス		●	●	
		産業心理学（産業・組織心理学）		●	●	
		恋愛と結婚の科学			●	●
		職場のメンタルヘルス			●	●
		消費者行動の心理学			●	●
		キャリア心理学			●	●
健康・保健領域	学校における児童・生徒の養護及び保健教育・指導に関わる専門的知識や技能を習得し、かつ事例学習や実習を通して現場において問題や課題を早期に発見する姿勢及び問題に対して柔軟に対応できる力を養う	**学校保健Ⅰ**	●	●		
		学校保健Ⅱ	●			
		人体の構造と機能及び疾病	●			
		免疫学	●	●		
		衛生学	●	●	●	
		栄養学		●		
		公衆衛生学		●	●	
		解剖生理学特論		●	●	
		リハビリテーション論		●	●	
		精神保健		●	●	
		身体運動の心理学		●	●	
		看護学概論		●	●	
		看護援助方法		●	●	
		救急処置活動		●	●	
		家庭の応急手当		●	●	
		健康・医療心理学			●	●
		小児保健看護学			●	●
		臨床看護実習			●	●
卒業研究	学びの集大成として、研究論文の作成に取り組み、その過程で課題発見・解決力や論理的思考力を養う	**卒業研究**				●

DP

心理学科では、教育研究上の目的を達成するために、次の学生像を人材育成の方針とする。
1．心理学的な研究方法から得られた実証的なデータに基づいて、人間の心に対する多面的な見方ができる。
2．心理学における基本的な理論や概念を理解し、共感的理解に基づき、多様な人々とコミュニケーションが取れる。
3．専門教育で習得した理論・概念・知識・技能をもとに、社会における諸課題の解決に寄与できる。

CP

心理学科では、ディプロマ・ポリシーに挙げた資質・能力を身につけさせるため、教育課程として７領域を設定し、各領域に学修過程に応じた科目を配置する。
1．心理学の理論や概念、実証的・科学的な考え方を理解するための基盤となる知識を身につけ、心理学的な心の捉え方を理解する力を養うために、「心理学概論」、「知覚・認知心理学」などの科目を含む【心理学基礎（心のしくみ）】領域を配置する。
2．人間の心と行動を実証的・科学的に検証・分析する方法を習得するとともに、実習を通して実践に通じる技能を養うために、「心理学実験」、「心理学的研究法」、「心理学情報処理法」を含む【研究法・データサイエンス（心の探求）】領域を配置する。
3．人間の発達過程に対する多面的かつ複合的な理解を深め、その知識を基盤としながら教育現場に対する理解と指導について実践的に学び、問題や課題を早期に発見する姿勢及び柔軟に対応できる力を養うために、「発達心理学概論」、「教育心理学」、「養護教諭実践論」を含む【発達・教育（心と育ち）】領域を配置する。
4．心のケア・サポートに関する知識や理論を学び、事例学習や実習を通して心理的な課題への支援・援助に関する専門的知識及び技能を養うために、「臨床心理学概論」、「カウンセリング技法」、「公認心理師の職責」などを含む【臨床（心のケア）】領域を配置する。
5．社会の諸場面（自己、対人関係、集団、組織）における人々の行動特性を学び、日常生活における課題に対して心理学の専門的知識を活かす姿勢を養うために、「社会心理学概論」、「対人関係の心理学」、「産業心理学」などを含む【社会・産業（心とつながり）】領域を配置する。
6．学校における児童・生徒の養護及び保健教育・指導に関わる専門的知識や技能を習得し、かつ事例学習や実習を通して現場において問題や課題を早期に発見する姿勢及び問題に対して柔軟に対応できる力を養うために、「学校保健Ⅰ」、「人体の構造と機能及び疾病」、「小児保健看護学」、「健康・医療心理学」などを含む【健康・保健（心とからだ）】領域を配置する。
7．学びの集大成として、研究論文の作成に取り組み、その過程で課題発見・解決力や論理的思考力を養うために、「卒業研究」を含む【卒業研究】領域を配置する。

3 教育人文学部　心理学科（EC）
専門科目教育課程　2024年度生

科目群		卒業に必要な単位数	
共通科目		22単位以上	
学科専門科目	必修	38単位	90単位以上
	選択	52単位以上	
自由選択科目		12単位以上	
計		124単位以上	

- 共通科目から、必修科目９単位、選択必修科目６単位を含めた22単位以上を履修
- 専門科目から、必修科目38単位（卒業研究を含む）を含めた90単位以上を履修
- 自由選択科目は、12単位以上を履修
- 合計124単位以上を履修

What's “自由選択科目”!?

a．共通科目22単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
例）共通科目28単位取得した場合は、６単位分が自由選択科目の単位となる。

b．自学科の専門選択科目52単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
例）自学科の専門選択科目50単位取得した場合は、６単位分が自由選択科目の単位となる

c．他学科の他学科開放科目を修得すると自由選択科目の単位となる。

a～cを組み合わせて（又は単独で）12単位以上を履修

科目区分	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	授業形態	履修期	配当年次	他学科開放	備考	身につく力（◎…重要な目的としている ○…主な目的としている） 基礎理論の理解	自己の分析	自己成長への意欲	実践方法の理解	他者と現象の分析	他者支援への意欲	課題の分析と理解	解決方策の立案	課題解決への意欲
基礎心理学	心理学概論	※2		講義	前	1年	×		◎	○	○	◎	○	○			
	心理学リテラシー		2	講義	前	1・2年	×		◎	○	○						
	心理学基礎論		2	講義	前	2・3年	×		◎	○		◎	○				
	感情・人格心理学		※2	講義	後	1･2･3年	×		○	◎	○	○	◎	○			
	学習・言語心理学		※2	講義	前	2・3年	×			◎	○	○	◎	○	○	○	
	知覚・認知心理学		※2	講義	後	2・3年	×			◎	○	○	◎	○	○	◎	○
	神経・生理心理学		※2	講義	前	3・4年	×					○	○	◎	○	○	◎
研究法・データサイエンス	心理学統計法	※2		講義	前	1年	×		◎	○			○		◎	○	
	心理学情報処理法	2		演習	後	1年	×		◎	○			○		◎	○	
	心理学実験	※2		演習	後	1年	×		◎	○			○		◎	○	○
	心理アセスメント入門	2		演習	前	2年	×		○	○	◎		○	◎		◎	
	心理学入門演習	2		演習	前	2年	×		◎	○		◎	○			○	○
	心理学研究法	※2		講義	前	3年	×		◎	○			○		◎	○	
	実験計画法		2	演習	前・後	2・3年	×	5科目中2科目を履修	◎	○			○		◎	○	○
	調査法		2	演習	前・後	2・3年	×		◎	○			○		◎	○	○
	面接法		2	演習	前・後	2・3年	×		◎	○			○		◎	○	○
	観察法		2	演習	前・後	2・3年	×		◎	○			○		◎	○	○
	事例研究法		2	演習	前・後	2・3年	×		◎	○			○		◎	○	○
	データ解析法		2	演習	前・後	3・4年	×		◎	○			○		◎	○	
	心理学外書講読		2	講義	前	3・4年	○		◎	○		○	◎		○		
	専門ゼミナール	2		演習	後	3年	×		○	○			○	○	◎	◎	◎
発達・教育	発達心理学概論（発達心理学）	※2		講義	前	1年	×		◎	○		◎			◎		
	発達臨床心理学（発達心理学）	※2		講義	後	1年	×		◎			◎	○		◎		
	乳幼児期の心理学		2	講義	後	2年	×	3科目中2科目を履修	○	◎		○	◎			◎	
	児童期の心理学		2	講義	前	2年	×		○	◎		○	◎			◎	
	青年期の心理学		2	講義	前	2年	×		○	◎		○	◎			◎	
	中高年期の心理学	2		講義	前	3年	×		○	◎		○	◎			◎	
	子どもの発達と環境		2	講義	後	1･2･3年	×			○	◎		◎	○		○	◎
	教育心理学		2	講義	後	1・2年	×		◎	○		◎	○		◎		
	福祉心理学		※2	講義	前	2・3年	×			◎			◎	○		◎	○
	家族心理学（社会・集団・家族心理学）		※2	講義	前	2・3年	×			◎	○		◎	○		◎	
	養護概説		2	講義	前	2・3年	×		○	◎		○	◎			◎	
	生徒指導		2	講義	前	3・4年	×			○			◎	◎		◎	○
	教育相談（教育・学校心理学）		※2	講義	前	3・4年	×			○			◎	◎		◎	○
	健康相談活動		2	講義	前	3・4年	×			○			◎	◎		◎	○
	養護教諭実践論		2	講義	後	3・4年	×				◎		○	◎		○	◎
	発達支援活動		2	実習	前・後	2・3年	×				◎		○	◎		○	◎
臨床	臨床心理学概論	※2		講義	前	1年	×		◎	○	◎	◎	○	○			
	カウンセリング理論	2		講義	後	1年	×		◎	○	◎	◎	○	○			
	公認心理師の職責		※2	講義	後	1年	×		◎	○	○						
	関係行政論		※2	講義	前	2・3年	×		◎	○	○						
	司法・犯罪心理学		※2	講義	前	2・3年	×		◎	○	○	○	○		○		
	精神疾患とその治療		※2	講義	後	2・3年	×		◎	○	○	○	○	○			
	カウンセリング技法		2	演習	後	2年	×		○	◎	◎	○	◎	○			
	子どもの心理臨床		2	講義	後	2・3年	○		○	◎	○	○	◎	○			

科目区分	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	授業形態	履修期	配当年次	他学科開放	備考	身につく力（◎…重要な目的としている　○…主な目的としている） 基礎理論の理解	自己の分析	自己成長への意欲	実践方法の理解	他者と現象の分析	他者支援への意欲	課題の分析と理解	解決方策の立案	課題解決への意欲
臨床	成人期の危機と心理臨床		2	講義	後	3・4年	×		○	◎	○	○	◎	○			
	障害者・障害児心理学		※2	講義	前	3・4年	×		○	○	○	◎	○		○		
	心理療法		2	講義	前	3・4年	×					◎	○	○	○	○	
	文化と心理学		2	講義	前	3・4年	○		◎	○		◎	○				
	現場の心理臨床		2	演習	後	3・4年	×					○	◎	◎	○	○	○
	心理的アセスメント		※2	演習	後	3・4年	×					○	○	◎	◎	◎	○
	心理学的支援法		※2	演習	後	3・4年	×					○	○	◎	◎	◎	○
	心理演習		※2	演習	後	3年	×							◎	○	◎	◎
	心理実習		※2	実習	通	4年	×							◎	○	◎	◎
社会	社会心理学概論（社会・集団・家族心理学）	※2		講義	後	1年	×		◎	◎		○	◎		○		
	コミュニケーションの心理学		2	講義	前	2・3年	○		○			○	◎	◎		◎	
	対人関係の心理学		2	講義	前	2・3年	○		○	◎		◎	○	◎		○	
	グループダイナミクス		2	講義	前	2・3年	○		◎	○		◎	○	○	◎	○	
	産業心理学（産業・組織心理学）		※2	講義	後	2・3年	×		○	◎		○	○	◎		○	◎
	恋愛と結婚の科学		2	講義	前	3・4年	×			○	○	◎	◎	◎	○		
	職場のメンタルヘルス		2	講義	前	3・4年	×			○	◎	○		◎		◎	
	消費者行動の心理学		2	講義	後	3・4年	×					◎	◎		○	◎	○
	キャリア心理学		2	講義	後	3・4年	×			◎	◎			○		◎	○
健康・保健	学校保健Ⅰ	2		講義	前	1・2年	×		◎	○	◎	◎				○	
	学校保健Ⅱ		2	講義	後	1年	×		◎		○		○	○		◎	
	栄養学		2	講義	前	2年	×		○		◎	◎			○		
	免疫学		2	講義	前	1・2年	×		○		◎	◎			○		
	人体の構造と機能及び疾病	※2		講義	後	1年	×		○		◎	○					
	衛生学		2	講義	後	1・2・3年	×		◎		○	◎		○			
	公衆衛生学		2	講義	後	2・3年	×				○	○		◎		◎	○
	解剖生理学特論		2	講義	前	2・3年	×		○		◎	◎		○		◎	○
	リハビリテーション論		2	講義	前	2・3年	○		○		○			◎			○
	精神保健	2		講義	後	2・3年	×		◎	○	○	◎	○	○		◎	
	身体運動の心理学		2	講義	後	2・3年	×			◎				◎	◎		
	看護学概論		2	講義	前	2・3年	×			○	◎	○		○		◎	○
	看護援助方法		2	講義	後	2・3年	×				○	○		◎	○	◎	◎
	救急処置活動		2	講義	後	2・3年	×				○	○		○	○	◎	◎
	家庭の応急手当		2	講義	後	2・3年	×				○	◎		○		◎	○
	健康・医療心理学		※2	講義	後	3・4年	×			◎	○	◎	○				
	小児保健看護学		2	講義	前	3・4年	×				○	◎	○	◎		○	○
	臨床看護実習		2	演習	後	3・4年	×				○	◎		○		○	◎
卒業研究	卒業研究	4		演習	通	4年	×		○	○			○	○	◎	◎	◎

［単位数欄の記号について］
註：※印の科目は、公認心理師資格取得の必須科目

［専門科目の履修について］
註１：選択必修科目として指定されている科目について、規定の単位数を超えて履修した単位は、選択科目に含めることができる。

［「卒業研究」の履修について］
註１：原則として、「卒業研究」は以下の条件をすべて満たしている場合に限り履修可能である。
①３年次終了時の修得単位数が卒業要件科目のうち84単位以上であること。
②次の４科目を修得していること。
「心理学概論」「臨床心理学概論」「発達心理学概論（発達心理学）」「専門ゼミナール」
註２：原則として、「専門ゼミナール」は以下の条件をすべて満たしている場合に限り履修可能である。
①３年次前期までの修得単位数が卒業要件科目のうち60単位以上であること。
②「心理学実験」を修得していること。
③３年次前期までに、科目区分「研究法・データサイエンス」である「調査法」「面接法」「観察法」「事例研究法」「実験計画法」のうち、少なくとも １ 科目（２単位）を修得していること。

［資格の履修について］
註１：社会福祉主事任用資格の取得希望者は、以下の科目のうち３科目を履修する必要がある。「心理学概論」「栄養学」「公衆衛生学」「リハビリテーション論」「精神保健」「看護学概論」
註２：「心理的アセスメント」「心理学的支援法」を履修するためには、３年前期までの公認心理師資格取得に必須の科目計22科目のうち、18科目の単位を修得している必要がある。
註３：「心理実習」を履修するためには、「心理的アセスメント」「心理学的支援法」「心理演習」の単位を修得している必要がある。

1 認定心理士資格 取得課程（心理学科）

1 「認定心理士」資格取得のための科目一覧表

［心理学科　2024年度生］　　単位認定第５版

領域		主題	科目	認定単位数	学科必修	認定基準	
a	心理学概論	基本	心理学概論	2	○	４単位以上	基礎科目（ａ～ｃ）が合計12単位以上 選択科目（ｄ～ｈ）が16単位以上 ａ～ｉの総計が36単位以上
		副次	発達心理学概論（発達心理学）	1	○		
			臨床心理学概論	1	○		
b	心理学研究法	基本	心理学研究法	2	○	８単位以上 最低４単位分はｃ：心理学実験実習の単位	
			心理学統計法	2	○		
			心理学情報処理法	2	○		
			実験計画法	2			
		副次	データ解析法	1			
			調査法	1			
c	心理学実験実習	基本	心理学実験	2	○		
			心理アセスメント入門	2	○		
			事例研究法	2			
		副次	観察法	1			
d	知覚心理学・学習心理学	基本	知覚・認知心理学	2		５領域のうち３領域以上で、それぞれが少なくとも４単位以上。 必ず基本主題の科目を含むこと	
			学習・言語心理学	2			
e	生理・比較心理学	基本	神経・生理心理学	2			
		副次	身体運動の心理学	1			
f	教育心理学・発達心理学	基本	乳幼児期の心理学	2			
			児童期の心理学	2			
			青年期の心理学	2			
			中高年期の心理学	2	○		
			教育相談（教育・学校心理学）	2			
			教育心理学	2			
			子どもの発達と環境	2			
g	臨床心理学・人格心理学	基本	発達臨床心理学（発達心理学）	2	○		
			カウンセリング理論	2	○		
			~~乳幼児期の心理臨床~~	~~2~~			
			子どもの心理臨床	2			
			成人期の危機と心理臨床	2			
			障害者・障害児心理学	2			
			心理療法	2			
			家族心理学（社会・集団・家族心理学）	2			
			感情・人格心理学	2			
			健康・医療心理学	2			
			福祉心理学	2			
		副次	精神保健	1	○		
			精神疾患とその治療	1			
h	社会心理学・産業心理学	基本	社会心理学概論（社会・集団・家族心理学）	2	○		
			コミュニケーションの心理学	2			
			対人関係の心理学	2			
			グループダイナミクス	2			
			産業心理学（産業・組織心理学）	2			
			司法・犯罪心理学	2			
			消費者行動の心理学	2			
i	その他	基本	卒業研究	4	○		

註１：副次主題の科目は、本学では２単位だが、認定心理士の資格申請上は１単位として認定される。
註２：資格の取得や申請に関する詳細は、学科オリエンテーション等で説明する。

2　公認心理師資格 取得課程（心理学科）

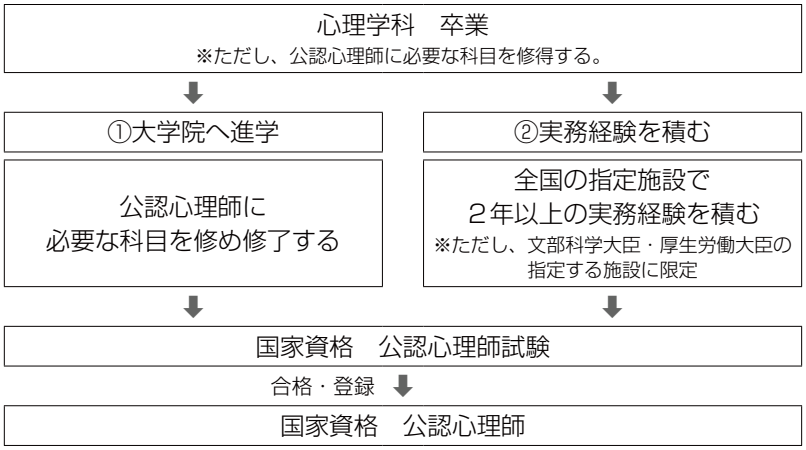
1　公認心理師資格取得について

公認心理師とは、公認心理師として登録し、公認心理師の名称を用いて、保健医療、福祉、教育（司法、産業）などの分野で、心理学に関する専門的知識及び技術をもって、次の行為を行うことを業とするものを指します。

1．心理に関する支援を要する者の心理状態の観察、その分析を行う
2．心理に関する支援を要する者に対し、その心理に関する相談に応じ、助言、指導その他の援助を行う
3．心理に関する支援を要する者の関係者に対し、その相談に応じ、助言、指導その他の援助を行う
4．心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供を行う

公認心理師の受験資格を得るためには、卒業までに「４年制大学において省令で定める科目」の単位を修得しておく必要があります。ただし、単位を修得しただけでは、公認心理師の資格は取得できません。

〈主な公認心理師養成ルート〉



2 履修方法

公認心理師の受験資格を得たい者は、「４年制大学において省令で定める科目（25科目）」に対応する本学の開講科目（27科目）を卒業までに全て修得する必要があります。本学科では、心理実習に参加するために必要な科目などが指定されていますので、計画的に履修をしてください。

法令上の科目名	本学対応科目	単位数		履修期	配当学年	備　考
	科目名	必修	選択			
公認心理師の職責	公認心理師の職責		2●	後期	1	
心理学概論	心理学概論	2●		前期	1	
臨床心理学概論	臨床心理学概論	2●		前期	1	
心理学研究法	心理学研究法	2●		前期	3	
心理学統計法	心理学統計法	2●		前期	1	
心理学実験	心理学実験	2●		後期	1	
知覚・認知心理学	知覚・認知心理学		2●	後期	2・3	
学習・言語心理学	学習・言語心理学		2●	前期	2・3	
感情・人格心理学	感情・人格心理学		2●	後期	1・2・3	
神経・生理心理学	神経・生理心理学		2●	前期	3・4	
社会・集団・家族心理学	社会心理学概論（社会・集団・家族心理学）	2●		後期	1	＊２科目取得する必要あり
	家族心理学（社会・集団・家族心理学）		2●	前期	2・3	
発達心理学	発達心理学概論（発達心理学）	2●		前期	1	＊２科目取得する必要あり
	発達臨床心理学（発達心理学）	2●		後期	1	
障害者・障害児心理学	障害者・障害児心理学		2●	前期	3・4	
心理的アセスメント	心理的アセスメント		2■	後期	3・4	＊実習不可欠科目
心理学的支援法	心理学的支援法		2■	後期	3・4	＊実習不可欠科目
健康・医療心理学	健康・医療心理学		2	後期	3・4	
福祉心理学	福祉心理学		2●	前期	2・3	
教育・学校心理学	教育相談（教育・学校心理学）		2●	前期	3・4	
司法・犯罪心理学	司法・犯罪心理学		2●	前期	2・3	
産業・組織心理学	産業心理学（産業・組織心理学）		2●	後期	2・3	
人体の構造と機能及び疾病	人体の構造と機能及び疾病	2●		後期	1	
精神疾患とその治療	精神疾患とその治療		2●	後期	2・3	
関係行政論	関係行政論		2●	前期	2・3	
心理演習	心理演習		2■	後期	3	＊実習不可欠科目
心理実習	心理実習		2	通年	4	＊心理的アセスメント、心理学的支援法、心理演習の単位が修得できていなければ、受講不可

註１：●印の科目の単位の中から、３年前期までに18科目以上修得していなければ、「心理的アセスメント」、「心理学的支援法」、「心理演習」を受講することはできません。
註２：■印の科目の単位を３年後期までに修得していなければ、「心理実習」を受講することはできません。
註３：公認心理師の受験資格を得たい者は学科の指示に従ってください。

3　ピアヘルパー資格 取得課程（心理学科）

1　ピアヘルパー資格取得要件

下表の５科目のうち２科目４単位を修得することが、認定試験の受験資格となります。認定試験は毎年２月上旬（予定）に本学で行います。

［心理学科　2024年度生］

本学開設科目	授業形態	単位数		履修期	配当学年
		必修	選択		
臨床心理学概論	講義	2		前期	1
カウンセリング理論	講義	2		後期	1
カウンセリング技法	演習		2	前・後	2
子どもの心理臨床	講義		2	後期	2・3
精神保健	講義	2		後期	2・3
小　　計		6	4		

4　准学校心理士資格　取得課程（心理学科）

1　「准学校心理士」資格取得要件

「准学校心理士」は「学校心理士」に準ずる資格です。Ａタイプ、Ｂタイプのいずれかの資格を取得できます。

・Ａタイプ（学校教員型）：教員免許を有する者（取得見込みを含む）を対象に准学校心理士の資格が認定されます。

・Ｂタイプ（相談支援機関専門職類型）：公認心理師カリキュラム対応学部を卒業する者（見込みを含む）を対象に准学校心理士の資格が認定されます。

資格を得たい者は取得要件となる科目を修得し、書類審査に合格する必要があります。

〔心理学科　2024年度生〕

Ａタイプ

規定科目	本学開設科目	授業形態	単位数		履修期	配当学年	備考
			必修	選択			
教育心理学	教育心理学*	講義		2	後期	1	
発達心理学	発達心理学概論（発達心理学）	講義	2		前期	1	＊２科目取得する必要あり
	発達臨床心理学（発達心理学）	講義	2		後期	1	
教育相談	教育相談（教育・学校心理学）*	講義		2	前期	3	
特別支援教育	特別な教育的ニーズの理解と支援Ｂ	講義		2	前期	1	

＊「教育心理学」「教育相談（教育・学校心理学）」「特別な教育的ニーズの理解と支援Ｂ」は教職課程の必修科目です。

Ｂタイプ

規定科目	本学開設科目	授業形態	単位数		履修期	配当学年	備考
			必修	選択			
教育・学校心理学	教育相談（教育・学校心理学）	講義		2	前期	3	
発達心理学	発達心理学概論（発達心理学）	講義	2	2	後期	1	＊２科目取得する必要あり
	発達臨床心理学（発達心理学）	講義	2		前期	1	
障害者・障害児心理学	障害者・障害児心理学	講義		2	前期	3	
福祉心理学	福祉心理学	講義		2	前期	2	
心理的アセスメント	心理的アセスメント*	演習		2	後期	3	
心理学的支援法	心理学的支援法*	演習		2	後期	3	

＊「心理的アセスメント」「心理学的支援法」は履修要件があります。

註１：申請時に在学しており、申請年度に卒業を予定している必要があります。卒業後の申請は認められません。
註２：Ａタイプは３科目６単位以上、Ｂタイプは在学時に６科目12単位を修得する必要があります。

4 教育人文学部　文芸文化学科

教育研究上の目的

文芸文化学科は、人間教育の基盤となることばの力を磨き、文化・芸術を深く洞察して、人として知的に成熟することを目指す人材を育成するとともに、急激に変動する未来社会において、ゆるぎない自己を確立し、相手を慮る力を発揮して、グローバル社会の中で、多様な文化背景を持つ人々と共に生き抜くことのできる心豊かな人材を育成することを教育研究上の目的とする。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

文芸文化学科では、教育研究上の目的を達成するために、次の学生像を人材育成の方針とする。

1．ことばを中核とした多様な芸術・文化・社会への深い理解と洞察力をもっている。
2．身近な芸術・文化・社会の営みを体験しながら他者とともに学びあい、確かなことばで表現し発信することができる。
3．多様な文化環境を有する社会において、人間理解に基づく幅広い知識とその知見を生かし、新たな文化・芸術を創造・発信することができる。

そのうえで、次の資質及び能力を有している者に「学士（文学）」の学位を授与する。

①知識・技能

1．社会人として求められる日本語運用能力、語彙力、文字知識を身につけている。
2．日本と世界の文学・芸術・文化に関する幅広い知識を身につけている。
3．現代社会の多様性を理解し他者と協働するための技法を身につけている。

②思考力・判断力・表現力

1．自己と自文化について考え、客観的に分析することができる。
2．他者と他文化を受け入れ、共感的に分析することができる。
3．多様な文化・芸術を読み解き、基礎的な技法を用いて表現することができる。

③主体性・多様性・協働性

1．研究課題に関する効率的な情報の収集を行い、的確に分析することができる。
2．自らの研究課題を発見し、それを幅広い視野から深く考察することができる。
3．文化や社会に対する新たな価値観や視点を創造し発信することができる。

教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

文芸文化学科では、人間と言葉への理解を深めるとともに、多彩な表現活動の意味を認識し、文化・芸術の創造的な働きや豊かな広がり、及びその価値を感得し、多様な文化環境を有する社会へ新たな文化・芸術の創造・発信に結びつく段階的なカリキュラムを設定している。

・１年次では、アカデミック・リテラシーと言語運用能力を涵養し、進級後の専門学習に必要となる基礎的な知識・技能を身につける。
・２年次では、思考力、判断力、表現力、分析力、情報処理能力、コミュニケーション能力を養うＰＢＬ型演習科目「文芸文化ゼミ」を軸に、１年次で修得した知識・技能をさらに発展、拡充させ、さまざまな文化や芸術を対象とする研究に応用することを通して、主体性・多様性・協働性を身につける。また、３年次のコース選択に備えるため、幅広い領域にわたる学科専門科目や「ワークショップ科目」の履修により、１・２年次に多様な文化・芸術に触れることで自己の興味・関心のあり方を見定める。
・３年次では、「日本語・日本文学コース」「多文化理解・共生コース」「芸術・文化コース」のいずれかを選択し、少人数制の演習科目「文芸文化テーマ研究ゼミ」の履修により専門分野へのさらなる考究を深め、４年次の「卒業研究」への取り組みに結びつける。
・４年次では、学びの集大成として「卒業研究」において卒業論文、卒業制作に取り組み、その過程で課題発見・解決力や論理的思考力を身につける。

そのための教育課程の編成方針は以下のとおりである。

日本語科目

1．文化・芸術を深く洞察するため、日本語に関する基礎知識を修得させる。
2．多様な文化・芸術を踏まえながら、日本語に関する基礎知識を論理的に他者に説明できる技能を育む。
3．地域・社会に関する諸課題に結びつけながら、日本語に関する知識を相互に関連づけて理解させる。
4．日本語に対して、自らが客観的に考察できる能力を育成する。
5．日本語に対する興味・関心を発見し、他者とともに論理的に思考・表現できる技法を習得させる。
6．日本語に関する基礎知識を基盤に、論理的に思考・表現できる能力を育成する。
7．日本語に対して持続的に探究する態度を養う。
8．日本語に対して他者とともに探究する意欲を養う。
9．日本語に関する課題を主体的に設定する姿勢を養う。

ことばの科目・ワークショップ科目

1．ことばを中核とした多様な芸術・文化・社会の基礎知識を修得させる。
2．ことばを中核とした多様な芸術・文化・社会の基礎知識を論理的に他者に説明できる技能を育む。
3．ことばを中核とした多様な芸術・文化・社会の知識を相互に関連づけて理解させる。
4．確かなことばで主体的に表現し、客観的に考察できる能力を育成する。
5．ことばに対する興味・関心を他者とともに発見し、論理的に思考・表現できる技法を習得させる。
6．地域・社会に関する諸課題に結びつけながら、他者とともに思考・表現できる能力を育成する。
7．自己の興味・関心を基盤に、持続的に探究する態度を養う。
8．他者とともに探究しあい、成果を表現し、発信する意欲を養う。
9．ことばを中核とした多様な芸術・文化・社会に対する課題を他者と協働しながら設定する能力を育成する。

日本語・日本文学科目

1．日本語・日本文学に関する基礎知識を主体的に修得させる。
2．日本語・日本文学に関する基礎知識を論理的に他者に説明できる技能を育む。
3．多様な側面から日本語・日本文学に関する知識を相互に関連づけて、地域・社会に関する諸課題への理解を養う。
4．日本語・日本文学に対して、客観的に分析できる能力を育成する。
5．日本語・日本文学に対する興味・関心を発見し、論理的に思考・表現できる技法を習得させる。
6．日本語・日本文学に関する基礎知識を基盤に社会の諸課題に関心を持ち続け、論理的に思考・表現できる能力を育成する。
7．自己の興味・関心を踏まえ、持続的に日本語・日本文学に対して探究する態度を養う。
8．自己の興味・関心を踏まえ、他者とともに日本語・日本文学に対して探究する意欲を養う。
9．日本語・日本文学に関する課題を主体的に設定することができ、他者と協働して複眼的に諸課題に対して取り組む能力を育成する。

多文化理解・共生科目

1．多文化理解・共生に関する基礎知識を主体的に修得させる。
2．多文化理解・共生に関する基礎知識を論理的に他者に説明できる技能を育む。
3．多様な側面から多文化理解・共生に関する知識を相互に関連づけて、地域・社会に関する諸課題への理解を養う。
4．多文化理解・共生に対して、客観的に分析できる能力を育成する。
5．多文化理解・共生に対する興味・関心を発見し、論理的に思考・表現できる技法を習得させる。
6．多文化理解・共生に関する基礎知識を基盤に社会の諸課題に関心を持ち続け、論理的に思考・表現できる能力を育成する。
7．自己の興味・関心を踏まえ、持続的に多文化理解・共生に対して探究する態度を養う。
8．自己の興味・関心を踏まえ、他者とともに多文化理解・共生に対して探究する意欲を養う。
9．多文化理解・共生に関する課題を主体的に設定することができ、他者と協働して複眼的に諸課題に対して取り組む能力を育成する。

芸術・文化科目

1．芸術・文化に関する基礎知識を主体的に修得させる。
2．芸術・文化に関する基礎知識を論理的に他者に説明できる技能を育む。
3．多様な側面から芸術・文化に関する知識を相互に関連づけて、地域・社会に関する諸課題への理解を養う。
4．芸術・文化に対して、客観的に分析できる能力を育成する。
5．芸術・文化に対する興味・関心を発見し、論理的に思考・表現できる技法を習得させる。
6．芸術・文化に関する基礎知識を基盤に社会の諸課題に関心を持ち続け、論理的に思考・表現できる能力を育成する。
7．自己の興味・関心を踏まえ、持続的に芸術・文化に対して探究する態度を養う。
8．自己の興味・関心を踏まえ、他者とともに芸術・文化に対して探究する意欲を養う。
9．芸術・文化に関する課題を主体的に設定することができ、他者と協働して複眼的に諸課題に対して取り組む能力を育成する。

ゼミナール・卒業研究

1．人文科学の知識と技能を基盤に、複眼的な視野から新たな専門知識を修得させる。
2．自己の関心に基づく研究課題を自ら設定できる能力を育成する。
3．研究課題を解明するための人文科学の基本的な研究方法を習得させる。
4．人文科学の知識と技能を基盤に、客観的に分析するために必要な論理的思考力を育成する。
5．人文科学の実践的研究を通して、他者に対して論理的・客観的に表現するプレゼンテーション能力を育成する。
6．研究課題に対する論理的・客観的な思考力と表現力を養う。
7．人文科学の知識と技能を基盤に分析した結果・知見を地域や社会に結びつけ、還元する姿勢を養う。
8．自己の関心に基づく研究課題を解明するために、他者とのラポールを形成し、複眼的視点から考察する能力を育成する。
9．研究課題に対して、持続的かつ主体的に取り組む意欲と態度を養う。

カリキュラムマップでは、各学科の学生が、卒業までに身につけるべき知識・能力を得るための授業科目が、どのように配置されているか、各授業科目の関連性などがわかるようになっています。

カリキュラムの授業科目間のつながりや年次進行などがわかりますので、履修上の参考にしてください。

文芸文化学科　カリキュラムマップ

→ 必修科目　→ 日本語・日本文学コース必修科目　→ 多文化理解・共生コース必修科目　→ 芸術・文化コース必修科目

□→日本語・日本文学コース選択必修科目　△→多文化理解・共生コース選択必修科目　○→芸術・文化コース選択必修科目

領域	学生が身につけるべき資質・能力	1年次	2年次	3年次	4年次
日本語科目	・社会人として求められる日本語運用能力、語彙力、文字知識を身につけている。	日本語基礎 日本語表現Ⅰ	日本語表現Ⅱ	日本語表現Ⅲ	
ことばの科目	・日本と世界の文学・芸術・文化に関する幅広い知識を身につけている。 ・芸術・文化に関して基礎的な技法を用いて表現することができる。 ・社会人として求められる日本語運用能力、語彙力、文字知識を身につけている。 ・現代社会の多様性を理解し他者と協働するための技法を身につけている。 ・文化や社会に対する新たな価値観や視点を創造し発信することができる。 ・自己と自文化について考え、客観的に分析することができる。 ・他者と他文化を受け入れ、共感的に分析することができる。 ・研究課題に関する効率的な情報の収集を行い、的確に分析することができる。 ・自らの研究課題を発見し、それを幅広い視野から深く考察することができる。 ・多種多様な文化を読み解き、比較文化的に考察することができる。	朗読 精読 演劇表現 読み聞かせ 文章創作 アナウンス入門 くらしの中のことば 手話表現 表現技法 ことばあそび			
ワークショップ科目	・芸術・文化に関して基礎的な技法を用いて表現することができる。 ・文化や社会に対する新たな価値観や視点を創造し発信することができる。 ・自己と自文化について考え、客観的に分析することができる。 ・他者と他文化を受け入れ、共感的に分析することができる。 ・研究課題に関する効率的な情報の収集を行い、的確に分析することができる。 ・社会人として求められる日本語運用能力、語彙力、文字知識を身につけている。 ・日本と世界の文学・芸術・文化に関する幅広い知識を身につけている。 ・自らの研究課題を発見し、それを幅広い視野から深く考察することができる。 ・現代社会の多様性を理解し他者と協働するための技法を身につけている。 ・多種多様な文化を読み解き、比較文化的に考察することができる。	多文化スタディーズ 実用書道（硬筆） 実用書道（毛筆）	文化発信プロジェクト 着物の文化 書籍空間論 和本の文化 小説研究 デジタルアート入門 デザイン書道（硬筆） デザイン書道（毛筆）		
日本語・日本文学科目	（学科必修科目） ・文化関連の基礎知識を身につけることができる。 ・文化関連の基礎知識を自ら収集する力を身につけることができる。 ・文化関連の基礎知識を活用して考察を深める力を身につけることができる。 （コース必修・選択科目） ・日本語・日本文学関連の基礎知識を身につけることができる。 ・日本語・日本文学関連の専門知識を身につけることができる。 ・多様な知識を関連づけて理解することができる。	日本語学入門 日本文学史A 日本文学史B 日本文学史C 言語学入門 日本文学の名作	日本文学概論 音声表現 漢詩・漢文に親しむ □　日本語学A □　日本語学B □　日本語学研究A □　日本語学研究B □　日本文学論A □　日本文学論B □　日本文学論C □　日本文学研究A □　日本文学研究B		
			□　日本文学研究C 武将文学論 放送文化と日本語 日本語音声学 児童文学 物語分析		
多文化理解・共生科目	（学科必修科目） ・文化関連の基礎知識を身につけることができる。 ・文化関連の基礎知識を自ら収集する力を身につけることができる。 ・文化関連の基礎知識を活用して考察を深める力を身につけることができる。 （コース必修・選択科目） ・多様な文化に関する専門知識を身につけることができる。 ・多様な文化に関する専門知識を自ら収集する力を身につけることができる。 ・多様な文化に関する専門知識を活用して考察を深める力を身につけることができる。	多文化理解入門 多文化理解概論 日本と異文化 多文化社会とコミュニケーション △　海外文学の名作 多文化共生ワークショップ	英語で学ぶ日本文化 英語で伝える日本文化 △　国際文化論 △　比較文化論 △　比較文化研究 △　世界のファンタジー △　多文化社会とユーモア △　アニメ文化論 △　ディズニー研究		
芸術・文化科目	（学科必修科目） ・文化関連の基礎知識を身につけることができる。 ・文化関連の基礎知識を自ら収集する力を身につけることができる。 ・文化関連の基礎知識を活用して考察を深める力を身につけることができる。 （コース必修・選択科目） ・芸術・文化関連の基礎知識を身につけることができる。 ・芸術・文化関連の専門知識を身につけることができる。 ・多様な知識を関連づけて理解することができる。	生涯学習概論 日本美術史 西洋美術史 ○　文化を考える	芸術文化概論 文化財研究 日本の民俗文化 ○　図書の文化 ○　衣食住の文化 ○　映像文化論 ○　演劇の世界 ○　芸術と歴史 ○　テーマで触れる芸術 ○　生活とデザイン 考える日本史 神話・伝承学 芸能の世界 舞台芸術 ミュージカル研究 身体と表現	日本文化特講	
ゼミナール	・人文科学の実践的研究を体験し、学びに関心を持つことができる。 ・人文科学の基本的な研究方法を身につけることができる。 ・自らの課題を設定し探究する力を身につけることができる。	基礎演習	文芸文化ゼミⅠ 文芸文化ゼミⅡ	文芸文化テーマ研究ゼミ	
卒業研究					卒業研究
DP	文芸文化学科では、教育研究上の目的を達成するために、次の学生像を人材育成の方針とする。 1．ことばを中核とした多様な芸術・文化・社会への深い理解と洞察力をもっている。 2．身近な芸術・文化・社会の営みを体験しながら他者とともに学びあい、確かなことばで表現し発信することができる。 3．多様な文化環境を有する社会において、人間理解に基づく幅広い知識とその知見を生かし、新たな文化・芸術を創造・発信することができる。				
CP	文芸文化学科では、人間と言葉への理解を深めるとともに、多彩な表現活動の意味を認識し、文化・芸術の創造的な働きや豊かな広がり、及びその価値を感得し、多様な文化環境を有する社会へ新たな文化・芸術の創造・発信に結びつく段階的なカリキュラムを設定している。 ・1年次では、アカデミック・リテラシーと言語運用能力を涵養し、進級後の専門学習に必要となる基礎的な知識・技能を身につける。 ・2年次では、思考力、判断力、表現力、分析力、情報処理能力、コミュニケーション能力を養うＰＢＬ型演習科目「文芸文化ゼミ」を軸に、1年次で修得した知識・技能をさらに発展、拡充させ、さまざまな文化や芸術を対象とする研究に応用することを通して、主体性・多様性・協働性を身につける。また、3年次のコース選択に備えるため、幅広い領域にわたる学科専門科目や「ワークショップ科目」の履修により、1・2年次に多様な文化・芸術に触れることで自己の興味・関心のあり方を見定める。 ・3年次では、「日本語・日本文学コース」「多文化理解・共生コース」「芸術・文化コース」のいずれかを選択し、少人数制の演習科目「文芸文化テーマ研究ゼミ」の履修により専門分野へのさらなる考究を深め、4年次の「卒業研究」への取り組みに結びつける。 ・4年次では、学びの集大成として「卒業研究」において卒業論文、卒業制作に取り組み、その過程で課題発見・解決力や論理的思考力を身につける。				

4 教育人文学部　文芸文化学科（ED）
専門科目教育課程　2024年度生

科目群		卒業に必要な単位数	
共通科目		22単位以上	
学科専門科目	必修	29単位	90単位以上
	コース必修	10単位	
	コース選択必修	8単位以上	
	選択	43単位以上	
自由選択科目		12単位以上	
計		124単位以上	

- 共通科目から、必修科目９単位、選択必修科目６単位を含めた22単位以上を履修
- 専門科目から「卒業研究」を含めた必修科目29単位、各自所属するコースの領域からコース必修５科目10単位、コース選択必修４科目８単位以上を含めた90単位以上を履修すること。
- 自由選択科目は、12単位以上を履修
- 合計124単位以上を履修

What's "自由選択科目"!?

a．共通科目22単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
例）共通科目28単位取得した場合は、６単位分が自由選択科目の単位となる。
b．自学科の学科専門選択科目90単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
例）自学科の学科専門選択科目を96単位取得した場合は、６単位分が自由選択科目の単位となる
c．他学科の他学科開放科目を修得すると自由選択科目の単位となる。

a～cを組み合わせて（又は単独で）12単位以上を履修

科目区分		授業科目	単位数 必修	単位数 選択	授業形態	履修期	配当年次	他学科開放	備考	身につく力（◎…重要な目的としている ○…主な目的としている）日本語運用能力・語彙力・文字知識	自文化と多文化の理解と分析	情報収集と分析	文学・芸術・文化に関する知識	他者・多文化の共感と分析	課題発見と考察	多様性の理解、協働の技法	芸術・文化に関する表現技法	価値観の創造、発信
日本語科目		日本語基礎	2		講義	前	1年	×		◎	○	○					◎	
		日本語表現Ⅰ	2		講義	後	1年	×		◎	○	○					◎	
		日本語表現Ⅱ	2		講義	後	2年	×		◎	○	○		○	○		◎	
		日本語表現Ⅲ	2		講義	後	3年	×		◎	○	○		○	○		◎	○
ことばの科目	読む・書く	朗読		1	演習	前	1･2･3年	×		○	○		◎	○			◎	○
		精読		1	演習	前	1･2･3年	×		○	○	○	◎	○	○			○
		演劇表現		1	演習	後	1･2･3年	×		○	○		◎	○		○	◎	○
		読み聞かせ		1	演習	後	1･2･3年	×		○	○		◎	○		○	◎	○
		文章創作		1	演習	前	1･2･3年	×		◎			○					
	話す・聞く	くらしの中のことば		1	演習	前	1･2･3年	×		○	○	○	◎	○		○	○	○
		手話表現		1	演習	後	1･2･3年	×		○			◎	○		◎	○	○
		表現技法		1	演習	前	1･2･3年	×		◎	○	○	○		○	○	○	○
		アナウンス入門		1	演習	後	1･2･3年	×		◎	○						○	◎
		ことばあそび		1	演習	後	1･2･3年	×		◎	○	○	○	○	○	○	○	○
ワークショップ科目		多文化スタディーズ		2	演習	後	1･2･3年	×		○	◎	○	○	◎	◎	○		○
		文化発信プロジェクト		2	演習	前	2･3･4年	×		◎		○	○		○		◎	○
		着物の文化		2	演習	前	2･3･4年	×			◎		○	◎		○	○	◎
		書籍空間論		2	演習	前	2･3･4年	○		○	○	◎	○	○	◎	○		◎
		和本の文化		2	演習	後	2･3･4年	×			◎		○	◎				○
		小説研究		2	演習	後	2･3･4年	×		○	○	○	○	○	○	○	◎	◎
		デジタルアート入門		2	演習	後	2･3･4年	×		○		○		○	○		◎	◎
		実用書道（硬筆）		1	演習	前	1･2･3年	×		○	○		◎	○			◎	○
		実用書道（毛筆）		1	演習	前	1･2･3年	×		○	○		◎	○			◎	○
		デザイン書道（硬筆）		1	演習	後	2･3･4年	×		○	○		◎	○			◎	○
		デザイン書道（毛筆）		1	演習	後	2･3･4年	×		○	○		◎	○			◎	○
日本語・日本文学科目		日本語学入門	2		講義	前	1年	×		◎	◎	◎	○	○	○		○	
		日本文学概論	2		講義	前	2年	×		○	◎	◎	◎	○	○			
		日本文学史A		■2	講義	後	1･2年	○	日本語・日本文学コース必修科目	○	◎	◎	◎	○	○			
		日本文学史B		■2	講義	前	1･2年	○		○	◎	◎	◎	○	○			
		日本文学史C		■2	講義	後	1･2年	○		○	◎	◎	◎	○	○			
		音声表現		■2	講義	後	2･3･4年	○		○		◎	◎	◎	○	○	○	
		漢詩・漢文に親しむ		■2	講義	前	2･3･4年	○		○	○	◎	◎	◎	○			
		日本語学A		□2	講義	前	2･3･4年	○	日本語・日本文学コース選択必修科目4科目8単位以上を履修	○	◎	◎	◎	○	○		○	
		日本語学B		□2	講義	前	2･3･4年	○		○	◎	◎	◎	○	○		○	
		日本語学研究A		□2	講義	後	2･3･4年	○		○	◎	○	◎	○	◎	○		
		日本語学研究B		□2	講義	後	2･3･4年	○		○	◎	○	◎	○	◎	○		
		日本文学論A		□2	講義	前	2･3･4年	○		○	◎	○	◎	○	◎			
		日本文学論B		□2	講義	前	2･3･4年	○		○	◎	○	◎	○	◎			
		日本文学論C		□2	講義	前	2･3･4年	○		○	◎	○	◎	○	◎			
		日本文学研究A		□2	講義	後	2･3･4年	○		○	◎	○	◎	○	◎			
		日本文学研究B		□2	講義	後	2･3･4年	○		○	◎	○	◎	○	◎			
		日本文学研究C		□2	講義	後	2･3･4年	○		○	◎	○	◎	○	◎			

科目区分	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	授業形態	履修期	配当年次	他学科開放	備考	身につく力（◎…重要な目的としている ○…主な目的としている） 日本語運用能力・語彙力・文字知識	自文化と多文化の理解と分析	情報収集と分析	文学・芸術・文化に関する知識	他者・多文化の共感と分析	課題発見と考察	多様性の理解、協働の技法	芸術・文化に関する表現技法	価値観の創造、発信
日本語・日本文学科目	言語学入門		2	講義	後	1・2年	○		○	◎	○	○	○	◎	○		
	日本文学の名作		2	講義	前	1・2年	○		○	◎	○	◎	○	◎			
	武将文学論		2	講義	前	2·3·4年	○			◎	○	◎	○	○		◎	
	放送文化と日本語		2	講義	後	2·3·4年	×		◎		○	◎	○	○		○	◎
	日本語音声学		2	講義	前	2·3·4年	○		○	○	○	○	○	◎	◎		○
	児童文学		2	講義	前	2·3·4年	×		○	○	○	◎	◎	◎			○
	物語分析		2	講義	前	2·3·4年	○		○	○	○	◎	○	◎			
多文化理解・共生科目	多文化理解入門	2		講義	前	1年	×		○	○		◎	○	○	○		○
	多文化理解概論	2		講義	後	1年	×		○	○		◎	○	○	○		○
	日本と異文化		▲2	講義	前	1・2年	○	多文化理解・共生コース必修科目		◎		○	◎	○		○	○
	多文化社会とコミュニケーション		▲2	講義	後	1・2年	○		◎	○	○	○	○	○	○		
	多文化共生ワークショップ		▲2	講義	前	1·2·3年	○			○	○	○	○	○	◎	◎	○
	英語で学ぶ日本文化		▲2	講義	前	2·3·4年	○			◎	◎	○	○	◎	○		○
	英語で伝える日本文化		▲2	講義	後	2·3·4年	○			◎	◎	○	○	◎	○	○	○
	海外文学の名作		△2	講義	後	1・2年	○	多文化理解・共生コース選択必修科目4科目8単位以上を履修		○	◎	◎	○	○	○	○	
	国際文化論		△2	講義	前	2·3·4年	○			◎	○	○	◎	○			○
	比較文化論		△2	講義	前	2·3·4年	○			○	○	○	○	○	○		○
	比較文化研究		△2	講義	後	2·3·4年	○			◎		○	◎	○	○	○	○
	世界のファンタジー		△2	講義	前	2·3·4年	○			○		◎	○	○		◎	○
	多文化社会とユーモア		△2	講義	後	2·3·4年	○		○	◎		○	◎	○	○	○	○
	アニメ文化論		△2	講義	前	2·3·4年	○			○		◎	○			◎	◎
	ディズニー研究		△2	講義	後	2·3·4年	○					◎	○			○	○
芸術・文化科目	芸術文化概論	2		講義	後	2年	×		○	○	○	◎	○	○	◎		
	日本文化特講	2		講義	前	3年	×		○	○		◎	○	○	◎		○
	生涯学習概論		●2	講義	前	1・2年	○	芸術・文化コース必修科目	○	○	○	○	◎	◎	○	○	○
	日本美術史		●2	講義	後	1・2年	○			○	○	◎	○	◎	○	○	○
	西洋美術史		●2	講義	前	1・2年	○			○	○	◎	○	◎	○	○	○
	文化財研究		●2	講義	後	2·3·4年	○			○	○	◎	◎	○	○	○	◎
	日本の民俗文化		●2	講義	前	2·3·4年	○			◎	○	◎	○	○	◎		
	文化を考える		○2	講義	前	1・2年	○	芸術・文化コース選択必修科目4科目8単位以上を履修	○	◎		○	◎	○	○		○
	図書の文化		○2	講義	前	2·3·4年	○			○		○	○	○	○	◎	◎
	衣食住の文化		○2	講義	後	2·3·4年	○			○	○	○	○	○	◎	○	
	映像文化論		○2	講義	後	2·3·4年	○			○	○	○	○	○	◎		
	演劇の世界		○2	講義	前	2·3·4年	○			○	○	◎	○	○	○	○	
	芸術と歴史		○2	講義	前	2·3·4年	○		○	○	○	◎	○	○	◎	○	
	テーマで触れる芸術		○2	講義	前	2·3·4年	○			○	○	◎	○	○	◎		
	生活とデザイン		○2	講義	後	2·3·4年	×			○	○	◎	○	○	○	◎	◎
	考える日本史		2	講義	後	2·3·4年	○			◎		○	○	◎	◎		○
	神話・伝承学		2	講義	前	2·3·4年	○			○	○	○	◎		◎		○
	芸能の世界		2	講義	後	2·3·4年	○			○	○	○	○	○	◎		
	舞台芸術		2	講義	後	2·3·4年	○			○	○	◎	◎	○	○	○	
	ミュージカル研究		2	講義	前	2·3·4年	○			○	○	◎	◎	○	○	○	
	身体と表現		2	講義	前	2·3·4年	○			○	○	◎	○	○	○	○	◎
ゼミナール・卒業研究	基礎演習	1		演習	後	1年	×		○	○	○	○	○	○	○	○	○
	文芸文化ゼミⅠ	1		演習	前	2年	×		○	○	○	○	○	◎	○	○	○
	文芸文化ゼミⅡ	1		演習	後	2年	×		○	○	○	○	○	◎	○	○	○
	文芸文化テーマ研究ゼミ	2		演習	通	3年	×		○	○	○	○	○	◎	○	○	◎
	卒業研究	4		演習	通	4年	×		○	○	○	○	○	◎	○	○	◎

「卒業研究」の履修について
註：原則として、「卒業研究」を履修するには、３年次終了時に、以下の２つの条件を満たしていること。
①２年次までの必修科目をすべて修得していること。
②修得単位数が76 単位以上であること。

［コースの履修について］
註１：日本語・日本文学コースは単位数欄にある■印科目が必修科目。他に単位数欄にある□印科目より４ 科目８ 単位以上を履修すること
註２：多文化理解・共生コースは単位数欄にある▲印科目が必修科目。他に単位数欄にある△印科目より４ 科目８ 単位以上を履修すること
註３：芸術・文化コースは単位数欄にある●印科目が必修科目。他に単位数欄にある○印科目より４ 科目８ 単位以上を履修すること

1 学芸員資格 取得課程（文芸文化学科）

1 学芸員資格取得課程履修の手引き〔2024年度生〕

教育人文学部文芸文化学科には、学芸員資格取得のための課程が開講されています。

学芸員とは博物館法に定められた博物館・美術館等に置かれる専門的事項をつかさどる職員として認められている資格であり、博物館資料の収集や保存、展示、調査研究などを担います。学芸員の資格を取得するためには、文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位が規定されています。大学を卒業した者で、本学開講の学芸員科目のうち、23単位以上を修得した者に卒業と同時に学芸員となる資格が与えられます。

受講希望者は、４月に行われるガイダンスを受け、以下の事項に留意の上、履修してください。

【履修方法】

履修者は、博物館法施行規則の規程に基づいて、本学が開講する科目の中から、必修科目を19単位、選択科目は法令上の科目（美術史、文化史、民俗学）の２領域以上から２科目４単位以上を修得してください。

法令上の科目				本学開講科目				
科目名		単位数		科目名	単位数		履修期	配当学年
		必修	選択		必修	選択		
必修科目	生涯学習概論	2		生涯学習概論▲	2		前期	１・２
	博物館概論	2		博物館概論	2		前期	１・２・３
	博物館経営論	2		博物館経営論	2		後期	２・３・４
	博物館資料論	2		博物館資料論	2		後期	１・２・３
	博物館資料保存論	2		博物館資料保存論	2		後期	３・４
	博物館展示論	2		博物館展示論	2		前期	３・４
	博物館教育論	2		博物館教育論	2		前期	２・３・４
	博物館情報・メディア論	2		博物館情報・メディア論	2		後期	２・３・４
	博物館実習	3		博物館実習Ⅰ	2		後期	３
				博物館実習Ⅱ	1		後期	４
選択科目	美術史		2	日本美術史▲		＊２	後期	１・２
				西洋美術史▲		＊２	前期	１・２
				生活とデザイン▲		＊２	後期	２・３・４
	文化史		2	芸術文化概論▲		＊２	後期	２
				日本と異文化▲		＊２	前期	１・２
				文化財研究▲		＊２	後期	２・３・４
	民俗学		2	日本の民俗文化▲		＊２	前期	２・３・４

註１：＊印の選択科目は法令上の科目（美術史、文化史、民俗学）の２領域以上から２科目４単位以上を履修すること。
註２：受講希望者は学科の指示に従ってください。

【履修における留意事項】

①▲印の科目は、文芸文化学科の専門科目として開講しています。
②「博物館概論」は、できるだけ１年次に履修してください。
③「博物館実習Ⅰ」の履修には、履修条件があります。詳細は４月に開催されるガイダンスや担当教員の説明を必ず聞いてください。
④「博物館実習Ⅱ」の履修は、「博物館実習Ⅰ」を事前に履修してください。
⑤「博物館実習Ⅱ」では、博物館等の現場で学芸員の仕事を実習します。

社会情報デザイン学部

教育研究上の目的

社会情報デザイン学部は、建学の精神に基づき、多様化・複雑化する社会に対する理解や知識を修得するとともに、生涯にわたって自己研鑽していく態度を修得し、社会に対する自発的な関心のもとに課題を発見し、他者を尊重し互いを認め合いながら協働し、情報を活用しながらよりよい社会を目指した創造、提案ができる人材を育成することを教育研究上の目的とする。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

社会情報デザイン学部は、次の学生像を人材育成の方針とする。

1．多様化・複雑化する社会に対する知識を有し、よりよい社会を実現していくうえで必要となる思考力と自己研鑽していく態度を持っている。
2．多様な他者の価値観を理解、尊重しながら、対話を通じて他者に働きかけ、協働することができる。
3．自発的な関心に基づき課題を発見し、情報を活用しながら、他者と協働してよりよい社会を目指した創造、提案をすることができる

カリキュラムマップでは、各学科の学生が、卒業までに身につけるべき知識・能力を得るための授業科目が、どのように配置されているか、各授業科目の関連性などがわかるようになっています。

カリキュラムの授業科目間のつながりや年次進行などがわかりますので、履修上の参考にしてください。

共通科目　カリキュラムマップ

→ 必修科目

領域	学生が身につけるべき資質・能力	1年次	2年次	3年次	4年次
ゼミナール	・文章や資料の意味や意図を理解するとともに、自分の考えを文章や図表などを活用してわかりやすく他者に伝えることができる。 ・他者の意見に耳を傾けてその考え方を理解したり、話し合いを通して共感したりするとともに、自分の意見をまわりの人にわかりやすく伝えることができる。 ・実社会や実生活を分析的に捉え、身の回りにある課題に気付くとともに、その解決に向けて必要となる情報や資料を収集し解決に向けた糸口を見つけることができる。 ・実社会や実生活の中から課題を見出し、問いを立てて情報を収集し、整理・分析してまとめ・表現することができる。 ・身のまわりの課題解決に向けて、グループやチームで協働的に取り組み、話し合いを通して考えをまとめ、表現することができる。 ・実社会や実生活にある問題の背景を探り、手順を踏んで検討を重ね、解決に向けたアイディアを分かりやすく表現することができる。 ・他者との関わり中で、主体的・協働的に取り組むとともに、自分の目標を明確にしながら積極的に問題解決に取り組むことができる。 ・他者との関わり合いの中で、互いのよさや役割を意識しながら新たな価値の創造を目指して協働的に課題解決に取り組むことができる。 ・他者と協働しながら解決策を検討するとともに、関係者の意見を取り入れながら更なる課題を見出し、その解決策を継続して探究していくことができる。	入門ゼミナール 課題発見・探求ゼミナール	課題解決ゼミナール	総合ゼミナール	
総合	・講義や講話を聞いて、自己の既有知識及び他者の既有知識、概念と照合する中で、今までの先入観を壊すような学修をすることができる。 ・講義や講話を聞いて、問題意識をもち、疑問を持って学修する中で、今までの先入観を壊すような学修をすることができる。 ・講義や講話に基づいて関連する情報を集めたり、自己内対話を行う、他者と対話したりなどし、適切なノートテイキングができる。 ・講義や講話に基づいて関連する情報を集めたり、疑問点を整理したりする中で、適切なノートテイキングができる。 ・講義や講話の基づいて自ら選択した科目の重要性に気づいたり、そこでの知見及び他者からの地検を将来に生かそうとしている。 ・講義や講話の基づいて自ら選択した科目の重要性に気づいたり、芽ばえた疑問点を追究する中で得られた知見を将来に生かそうとしている。	地域で学ぶ 人間関係とコミュニケーション 総合科目 自主社会活動	地域と人間生活 人間理解ワークショップ		
人間	・資料を読解し、疑問を持ってその内容を追究し、必要な資料を探索して研究することができる。 ・さまざまな人の考え方を学びながら、自分にできることを見極め、積極的に行動するとともに、グループやチームでの協働的な問題解決に取り組むことができる。 ・社会の実態を捉え、そこから問題を見つけるとともに、解決に向けて、多様な資料を活用しながら解決に向けた糸口を手に入れることができる。 ・自己課題を見つけ、解決に向けて行動するとともに、その過程を省察しつつ論理的に表現することができる。 ・他者との関わりにおいて課題を見つけ、解決に向けて仲間と一緒に行動するとともに、その過程を仲間とともに省察し、チームとしての成果を発表することができる。 ・現実の社会における事実の背景を探り、ものごとのプロセスを踏まえた検討ができ、解明した内容に関するレポートができるようになる。 ・自ら資料を収集し、内容を分析するとともに、複数の意見をもとに考察を深め、他者と力を合わせ、追究することができる。 ・他者との関わりの中で資料を収集し、その内容を仲間とともに分析するとともに、多様な意見を踏まえた考察を深め、新たな追究課題を創造できる。 ・捉えた社会の姿をもとに、そこに至る過程に光をあてて、将来に向けての解決のためのビジョンを構想したり、仲間とともに実践的に解決策を考えることができる。	キャリアデザインとライフプラン リーガルリテラシー ジェンダーリテラシー 子育てと環境 女性と健康	女性の心と身体 食の科学 歴史のなかの女性 芸術を読みとる		
社会		グローバル社会 ネットワーク社会 共生社会入門 多様性と倫理 持続可能な社会	くらしのなかの日本国憲法 ボランティア論 災害と社会 21世紀型の教育		
保健体育		身体運動Ⅰ 身体運動Ⅱ			
ICT・データサイエンス	・ICT機器の操作、ネットワークに関する基礎的な知識を理解している。 ・情報に関する法規や制度、情報セキュリティの重要性を理解し、情報倫理を踏まえたICT活用について理解している。 ・データを収集、整理、分析する方法を身につけ、表現方法について理解し、さまざまな社会課題を解決していく力を備えている。 ・情報技術を適切かつ効果的に活用する力を理解し、実際にICT機器の基本となる操作ができる。 ・情報発信における責任、情報モラルについて理解し、情報発信手段の特性の理解及び、適切な手段の選択ができる。 ・問題・課題の発見と解決に向けて意思決定する力を備えており、社会的な課題を解決することができる。 ・ネットワークサービス、コミュニケーション手段の特徴を理解し、それを生かしたICTを活用した情報発信や情報収集をすることができる。 ・情報社会へ主体的に参画する態度を身につけ、自ら積極的に情報を収集し、発信することができる。 ・社会における課題をICTを通して解決しようとするとともに、仲間とともに協力して課題の解決に向けた方策を検討したり、その成果を生かして、身近な課題を解決することができる。	はじめてのデータサイエンス 情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ			
外国語（基礎科目）	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解をさらに深めるとともに、文字・音声から得られる情報の内容を的確に把握・情報を整理することができる。 ・コミュニケーションを行う目的や場面・状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、その概要や要点・詳細・話し手や聞き手の意図などを的確に理解し、実際のコミュニケーションにおいて活用できる。 ・言語を通じて得た文化や社会的な課題について、複数の資料を収集・活用して、考察を深めることができる。 ・文字・音声から得られる情報の内容を的確に把握・情報を整理し、その概要を文字・音声を使用し、わかりやすい形で表出できる。 ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報を整理しながら考えなどを形成し、伝え合うことができる。 ・言語を通じて得た文化や社会における課題について、自らの意見をまとめ、表現することができる。 ・日常的な話題や社会的な話題について資料を整理・分析し、その概要や自分の意見を論理的に表出したり、他者の意見との違いについて考察を深めることができる。 ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、他者の考えを聞いたり、読んだりし、多様な意見を踏まえたうえで考察を深めることができる。 ・言語を通じて得た文化や社会的な課題について、複数の資料を収集・活用して、考察を深め、仲間とともに課題を追究することができる。	英語コミュニケーション演習 英語Ⅰa 英語Ⅰb 中国語Ⅰa 中国語Ⅰb 朝鮮語Ⅰa 朝鮮語Ⅰb フランス語Ⅰa フランス語Ⅰb	英語Ⅱa 英語Ⅱb 中国語Ⅱa 中国語Ⅱb		
		海外語学研修			
		アドバンスト・リスニング アドバンスト・リーディング アドバンスト・ライティング TOEIC対策講座 中国語試験対策講座 日本語検定対策講座	実践英語a 実践英語b ビジネス英語 映画・ドラマ英語 メディア英語		
日本語（非母語者向）	・資料を読解し、疑問を持ってその内容を追究し、必要な資料を探索して研究することができる。 ・さまざまな人の考え方を学びながら、自分にできることを見極め、積極的に行動するとともに、グループやチームでの協働的な問題解決に取り組むことができる。 ・社会の実態を捉え、そこから問題を見つけるとともに、解決に向けて、多様な資料を活用しながら解決に向けた糸口を手に入れることができる。 ・自己課題を見つけ、解決に向けて行動するとともに、その過程を省察しつつ論理的に表現することができる。 ・他者との関わりにおいて課題を見つけ、解決に向けて仲間と一緒に行動するとともに、その過程を仲間とともに省察し、チームとしての成果を発表することができる。 ・現実の社会における事実の背景を探り、ものごとのプロセスを踏まえた検討ができ、解明した内容に関するレポートができるようになる。 ・自ら資料を収集し、内容を分析するとともに、複数の意見をもとに考察を深め、他者と力を合わせ、追究することができる。 ・他者との関わりの中で資料を収集し、その内容を仲間とともに分析するとともに、多様な意見を踏まえた考察を深め、新たな追究課題を創造できる。 ・捉えた社会の姿をもとに、そこに至る過程に光をあてて、将来に向けての解決のためのビジョンを構想したり、仲間とともに実践的に解決策を考えることができる。	総合日本語Ⅰa 総合日本語Ⅰb	日本語表現技術Ⅰ 日本語表現技術Ⅱ 日本語表現技術Ⅲ 日本語表現技術Ⅳ 日本語研究A（時事Ⅰ） 日本語研究B（時事Ⅱ） 日本語研究C（ビジネスⅠ） 日本語研究D（ビジネスⅡ） 日本語研究E（医療・福祉専門） 日本語研究F（人文科学） 日本語能力試験対策講座Ⅰ 日本語能力試験対策講座Ⅱ 日本語集中講座（編入） 総合日本語Ⅱa 総合日本語Ⅱb	総合日本語Ⅲa 総合日本語Ⅲb	
キャリア教育	・資料を読解し、疑問を持ってその内容を追究し、必要な資料を探索して研究することができる。 ・さまざまな人の考え方を学びながら、自分にできることを見極め、積極的に行動するとともに、グループやチームでの協働的な問題解決に取り組むことができる。 ・社会の実態を捉え、そこから問題を見つけるとともに、解決に向けて、多様な資料を活用しながら解決に向けた糸口を手に入れることができる。 ・自己課題を見つけ、解決に向けて行動するとともに、その過程を省察しつつ論理的に表現することができる。 ・他者との関わりにおいて課題を見つけ、解決に向けて仲間と一緒に行動するとともに、その過程を仲間とともに省察し、チームとしての成果を発表することができる。 ・現実の社会における事実の背景を探り、ものごとのプロセスを踏まえた検討ができ、解明した内容に関するレポートができるようになる。 ・自ら資料を収集し、内容を分析するとともに、複数の意見をもとに考察を深め、他者と力を合わせ、追究することができる。 ・他者との関わりの中で資料を収集し、その内容を仲間とともに分析するとともに、多様な意見を踏まえた考察を深め、新たな追究課題を創造できる。 ・捉えた社会の姿をもとに、そこに至る過程に光をあてて、将来に向けての解決のためのビジョンを構想したり、仲間とともに実践的に解決策を考えることができる。	インターンシップ短期 インターンシップ長期	キャリアデザイン入門 キャリアロールモデル研究 企業に学ぶキャリアデザイン プロアクティブ人材育成 キャリア基礎力Ⅰ キャリア基礎力Ⅱ	キャリアサポート演習	
DP	社会情報デザイン学部は、次の学生像を人材育成の方針とする。 1．多様化・複雑化する社会に対する知識を有し、よりよい社会を実現していくうえで必要となる思考力と自己研鑽していく態度を持っている。 2．多様な他者の価値観を理解、尊重しながら、対話を通じて他者に働きかけ、協働することができる。 3．自発的な関心に基づき課題を発見し、情報を活用しながら、他者と協働してよりよい社会をめざした創造、提案をすることができる。				

社会情報デザイン学部（S）
共通科目教育課程　2024年度生

科目群		卒業に必要な単位数
共通	必修	7単位
	選択必修	8単位
	選択	7単位以上
計		22単位以上

- 必修科目7単位履修すること
- 選択必修科目8単位履修すること。6単位を超えた分は選択科目の単位となる。
- 選択科目7単位以上履修すること
- 合計22単位以上履修すること

▶履修期欄に「前・後」と記載がある科目は、配当年次のいずれかを履修すればよい。

科目区分	授業科目	単位数 必修	選択必修	選択	授業形態	履修期	配当年次	備考	身につく力（◎…重要な目的としている ○…主な目的としている）把握・資料読解・問題探索	資料読解・問題探索への模索・省察	自己課題発見・解決	資料収集・資料分析・協働的課題追究	対話的検討・自力解決・協働的学修	協働的課題発見・協働的解決への話し合い・チームとしての省察	協働的資料収集・分析・協働的考察	実態把握・資料活用力・課題解決	実態と背景の把握・プレゼンテーション力	社会的課題の析出・解決方策の検討・協働的実践的解決
ゼミナール	入門ゼミナール	2			講義	前	1		◎	◎	○	◎	○	○	○	○		
	課題発見・探求ゼミナール			1	演習	後	1・2・3・4		○	◎	○	○	◎		◎	○	○	
	課題解決ゼミナール			2	演習	前・後	2・3				○	○	◎	◎	○	○	◎	
	総合ゼミナール			2	演習	前・後	3・4				○		○	◎	○	◎	◎	◎
総合	地域で学ぶ			2	講義	前・後	1・2・3・4		○	○	○	○			○	○		
	地域と人間生活			2	講義	前・後	2・3・4		○	○	○	○	○		○	○		
	人間関係とコミュニケーション			2	講義	後	1・2・3・4		○	○	○	○	○		○	○		
	人間理解ワークショップ			2	講義	前・後	2・3・4		○	○	○	○	○		○	○	○	
	総合科目			2	講義	前・後	1・2・3・4		○	○	○				○			
	自主社会活動			1	演習	前・後	1・2・3・4		○	○	○				○			
人間	キャリアデザインとライフプラン		2		講義	前・後	1	5科目から1科目2単位以上履修			○				○			
	リーガルリテラシー		2		講義	前・後	1			○	○						○	
	ジェンダーリテラシー		2		講義	前・後	1				○							○
	子育てと環境		2		講義	前・後	1		○					○				
	女性と健康		2		講義	前・後	1			○	○					○		
	女性の心と身体			2	講義	前・後	1・2・3			○			○				○	
	食の科学			2	講義	前・後	2・3		○							○		
	歴史のなかの女性			2	講義	前・後	2・3			○	○		○					
	芸術を読みとる			2	講義	前・後	2・3		○			○						
社会	グローバル社会		2		講義	前・後	1	5科目から1科目2単位以上履修				○	○					
	ネットワーク社会		2		講義	前・後	1			○							○	
	共生社会入門		2		講義	前・後	1			○				○	○			
	多様性と倫理		2		講義	前・後	1		○			○						
	持続可能な社会		2		講義	前・後	1		○								○	○
	くらしのなかの日本国憲法			2	講義	前・後	1・2・3		○					○				○
	ボランティア論			2	講義	前・後	1・2・3		○			○			○			
	災害と社会			2	講義	前・後	2・3				○					○		
	21世紀型の教育			2	講義	前・後	2・3				○	○		○				
保健体育	身体運動Ⅰ		1		実技	前	1・2・3・4	2科目から1科目を選択必修	○	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	○	
	身体運動Ⅱ		1		実技	後	1・2・3・4		○	○	○	○	○	◎	○	○	○	
ICT・データサイエンス	はじめてのデータサイエンス	2			講義	後	1											◎
	情報処理演習Ⅰ			1	演習	前	1		◎									
	情報処理演習Ⅱ			1	演習	後	1・2・3・4									◎		
外国語（基礎科目）	英語コミュニケーション演習	1			演習	前・後	1		○	◎		◎	○					
	英語Ⅰa		1		演習	前	1	12科目から1科目を選択必修 ただし、日本語を母国語としない者は、「総合日本語Ⅰa」「総合日本語Ⅰb」を履修すること 教員免許取得希望者は、「英語Ⅰa」「英語Ⅰb」「中国語Ⅰa」「中国語Ⅰb」、「朝鮮語Ⅰa」「朝鮮語Ⅰb」、「フランス語Ⅰa」「フランス語Ⅰb」のいずれか2科目2単位を履修	◎	○	○							
	英語Ⅰb		1		演習	後	1		◎	○	○							
	英語Ⅱa		1		演習	前	2・3・4		◎	○	○				○	◎	○	
	英語Ⅱb		1		演習	後	2・3・4		◎	○	○				○	◎	○	
	中国語Ⅰa		1		演習	前	1		○	○			○	○	○			
	中国語Ⅰb		1		演習	後	1		○	○			○	○	○			
	中国語Ⅱa		1		演習	前	2・3・4		○	○			○	○	○			
	中国語Ⅱb		1		演習	後	2・3・4		○	○			○	○	○			
	朝鮮語Ⅰa		1		演習	前	1		○	○			○	○	○			
	朝鮮語Ⅰb		1		演習	後	1		○	○			○	○	○			
	フランス語Ⅰa		1		演習	前	1		○	○			○	○	○			
	フランス語Ⅰb		1		演習	後	1		○	○			○	○	○			
	海外語学研修			1	実習	前	1・2・3・4					○			○		○	○

科目区分	授業科目	単位数 必修	単位数 選択必修	単位数 選択	授業形態	履修期	配当年次	備考	身につく力（◎…重要な目的としている　○…主な目的としている） 資料読解・問題把握・資料探索	自己課題発見・解決への模索・省察	資料収集・資料分析・協働的課題追究	対話的検討・自力解決・協働的学修	協働的課題発見・協働的解決への努力・チームとしての省察	協働的資料収集・分析・協働的考察	実態把握・資料活用力・課題解決	実態と背景の把握・プレゼンテーション力	社会的課題の析出・解決方策の検討・協働的・実践的解決
外国語目的別科目	実践英語ａ			1	演習	前	2･3･4		○	◎		◎	○				
	実践英語ｂ			1	演習	後	2･3･4		○	◎		◎	○				
	アドバンスト・リスニング			2	講義	後	1･2･3･4		◎	○		◎	○		◎		
	アドバンスト・リーディング			2	講義	前･後	1･2･3･4		◎	○		◎	○		◎		
	アドバンスト・ライティング			2	講義	前･後	1･2･3･4		○	◎		◎	○			◎	
	ビジネス英語			2	講義	後	2･3･4		○	◎		◎	○			◎	
	映画・ドラマ英語			2	講義	前･後	2･3･4		◎	○		◎					
	メディア英語			2	講義	前	2･3･4		○	◎		◎	○		◎	○	
	ＴＯＥＩＣ対策講座			2	講義	後	1･2･3･4		◎	○							
	中国語試験対策講座			2	講義	前	1･2･3･4								○	○	○
	日本語検定対策講座			2	講義	前･後	1･2･3･4								○	○	○
日本語（非母語者向）	総合日本語Ⅰａ			1	演習	前	1	※日本語を母国語としない者は、「総合日本語Ⅰａ」「総合日本語Ⅰｂ」を履修すること　ただし、JLPTN1を取得している（なければ模擬試験）、かつ、教員が実施する課題をもって話す能力と書く能力がCEFRのC2レベルであると判断された者は、他の外国語を選択することができる。	○	○			○			
	総合日本語Ⅰｂ			1	演習	後	1		○	○			○				
	総合日本語Ⅱａ			1	演習	前	2		○	○			○				
	総合日本語Ⅱｂ			1	演習	後	2		○	○			○				
	総合日本語Ⅲａ			1	演習	前	3・4		○	○			○				
	総合日本語Ⅲｂ			1	演習	後	3・4		○	○			○				
	日本語表現技術Ⅰ			1	演習	前	1･2･3･4		○	○			○				
	日本語表現技術Ⅱ			1	演習	後	1･2･3･4		○	○			○				
	日本語表現技術Ⅲ			1	演習	前	1･2･3･4		○	○			○				
	日本語表現技術Ⅳ			1	演習	後	1･2･3･4		○	○			○				
	日本語研究Ａ（時事Ⅰ）			1	演習	前	1･2･3･4		○	○			○				
	日本語研究Ｂ（時事Ⅱ）			1	演習	前	1･2･3･4		○	○			○				
	日本語研究Ｃ（ビジネスⅠ）			1	演習	前	1･2･3･4		○	○			○				
	日本語研究Ｄ（ビジネスⅡ）			1	演習	後	1･2･3･4		○	○			○				
	日本語研究Ｅ（医療・福祉専門）			1	演習	後	1･2･3･4		○	○			○				
	日本語研究Ｆ（人文科学）			1	演習	後	1･2･3･4		○	○			○				
	日本語能力試験対策講座Ⅰ			1	演習	前	1･2･3･4								○	○	○
	日本語能力試験対策講座Ⅱ			1	演習	後	1･2･3･4								○	○	○
	日本語集中講座			1	演習	前	1･2･3･4								○	○	○
キャリア教育	キャリアデザイン入門	2			講義	後	2			○	◎	○	○	○	◎	◎	◎
	キャリアロールモデル研究		2		講義	後	2	８科目15単位の中から２単位以上選択必修									○
	企業に学ぶキャリアデザイン		2		講義	前	2										○
	プロアクティブ人材育成		2		講義	後	2										○
	キャリアサポート演習		2		演習	通	3			○	◎	○		◎	◎	◎	◎
	キャリア基礎力Ⅰ		2		講義	前	2･3		◎	○	○						
	キャリア基礎力Ⅱ		2		講義	後	2･3		◎	○	○						
	インターンシップ短期		1		実習	前･後	1･2･3		○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	インターンシップ長期		2		実習	前･後	1･2･3		○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

1 社会情報デザイン学部 社会情報デザイン学科

教育研究上の目的

社会情報デザイン学科は、これからの社会において必要となる社会・情報・ビジネスに関する知識を有するとともに、自らの興味・関心に基づき課題を発見し、その課題解決に向けて多様な他者の価値観を理解、尊重しながら協働し、柔軟な発想力、企画力をもって、プロジェクトを完遂することができる人材を育成することを教育研究上の目的とする。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

社会情報デザイン学科では、教育研究上の目的を達成するために、次の学生像を人材育成の方針とする。

1．これからの社会において必要となる社会・情報・ビジネスに関する知識を有し、よりよい社会を目指すうえで必要となる思考力と自己研鑽していく態度を持っている。
2．多様な他者の価値観を理解、尊重しながら、対話を通じて他者に働きかけ、協働することができる。
3．自らの興味・関心に基づき課題を発見し、情報を活用しながら柔軟な発想でアイデアを創造、提案し、他者と協働しながらプロジェクトを完遂することができる。

そのうえで、次の資質及び能力を有している者に「学士（社会学）」の学位を授与する。

①知識・技能

1．これからの社会において必要となる社会・情報・ビジネスに関する基礎知識、専門知識を有している。
2．立場の異なる他者を尊重しながら対話する力を有している。
3．課題の発見・解決のプロセスのために必要となる情報を正しく収集・活用できる力を有している。

②思考力・判断力・表現力

1．これからの社会の構想とその実現に向けた課題解決のために必要となる論理的・創造的思考と判断力を有している。
2．多様な他者の価値観を理解することのできる態度を有している。
3．社会が必要としているモノやサービスについて、柔軟な発想で考え、新しいアイデアを提案する力を有している。

③主体性・多様性・協働性

1．これからの社会で何が必要であるかを見定め、生涯にわたり自己研鑽していく態度を有している。
2．課題解決に向けたプロジェクトを企画するうえで必要となる積極性や働きかける力を有している。
3．他者と協働しながらプロジェクトを完遂する力を有している。

教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

社会情報デザイン学科では、ディプロマ・ポリシーに定める資質・能力を育成するために必要な授業科目を精選し、系統的かつ体系的な教育課程を編成している。そのために、社会情報デザイン学科では、「基礎ユニット」「専門ユニット」「演習・卒業研究」の３つの領域区分を設け授業科目を配置している。

基礎ユニットでは、これからの社会において必要となる基礎的な知識や力を養うとともに、生涯にわたって自己実現を成し遂げるうえで必要となる基本的な姿勢を育むことを目的とする。

この目的を果たすために、以下の３つのユニットを設定する。

・「現代社会理解」では、これからの社会において必要となる社会やビジネスに関する基本的な知識やスキルを広く養うことを目的とし、「現代社会の基礎理解」「ビジネス入門」「現代社会論」「社会学概論」を必修科目とする。
・「思考・表現」では、グループワークなどを通じて、他者と協働し、チームで新しい価値を生み出すためのスキルや姿勢を育むことを目的とし、「発想法入門」「課題探究ワークショップⅠ」を必修科目とする。
・「情報活用」では、コンピューターを用いた演習などを通じて、これからの社会において必要となる情報の収集・活用に関する基本的な知識やスキルを養うことを目的とし、「社会情報リテラシー」「調査・統計リテラシー」を必修科目とする。

専門ユニットでは、自らの興味関心に基づいてより高度な専門知識を身につけるとともに、それをさまざまな場面で活用することで、社会課題の発見・解決を志向する力を養うことを目的とする。

この目的を果たすために、以下の５つのユニットを設定する。

・「経営・マーケティング」では、ビジネスの現場で生ずるさまざまな問題を解決するために必要となるマネジメントやマーケティング能力を養うことを目的とする。

・「社会デザイン」では、社会課題を発見しその解決の道筋をつけるためのより高度な知識と調査スキル、そして実践力を養うことを目的とする。

・「データサイエンス」では、さまざまなデータを収集・分析・活用する方法を習得することを目的とする。

・「情報システム」では、より高度なプログラムを作成するための知識とスキルを養うことを目的とする。

・「メディアデザイン」では、色彩や音響、映像などのデザインの技法を習得することを目的とする。

演習・卒業研究では、習得してきた知識・スキルを統合し活用する能力を養い、主体的に課題探究に取り組み、その成果を発表する力を養うことを目的とする。

この目的を果たすため、「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」、「卒業研究」を必修科目とする。

教育の実施には、それぞれの科目の内容に合った授業形態（講義、演習、実習）を用いる。他者と協働する力を育成し、主体的な学びの姿勢を高めるために、教員と学生間の双方向型授業、グループディスカッション、グループワーク等のアクティブ・ラーニングの手法を取り入れたPBL（課題解決型授業）を導入する。

そのための教育課程の編成方針は以下のとおりである。

基礎ユニット

1．これからの社会において必要となる社会・情報・ビジネスに関する基礎知識を身につけさせる。
2．立場の異なる他者を尊重しながら対話する力を育成する。
3．情報を正しく収集・活用できる力を身につけさせる。
4．身近な生活における課題発見・解決のために必要となる論理的・創造的思考と判断力を身につけさせる。
5．多様な他者の価値観が存在することを認められる態度を育成する。
6．身近な生活における課題に対して柔軟な発想で考え、新しいアイデアを提案する力を身につけさせる。
7．社会に対して広く興味・関心を持たせ、自ら継続的に学ぶ姿勢を育成する。
8．課題解決に向けたプロジェクトを企画するうえで必要となる積極性を育成する。
9．他者と協働しながらプロジェクトを完遂する力を身につけさせる。

専門ユニット

1．これからの社会において必要となる社会・情報・ビジネスに関する専門知識を身につけさせる。
2．立場の異なる他者を尊重しながら対話し、合意にたどりつく力を身につけさせる。
3．課題の発見・解決のプロセスのために必要となる情報を正しく収集・活用できる力を身につけさせる。
4．これからの社会の構想とその実現に向けた課題解決のために論理的･創造的思考と判断力を身につけさせる。
5．多様な他者の価値観を理解することのできる態度を育成する。
6．社会が必要としているモノやサービスについて、柔軟な発想で考え、新しいアイデアを提案する力を身につけさせる。
7．これからの社会で何が必要であるかを自ら見定め、生涯にわたり自己研鑽していく態度を育成する。
8．課題解決に向けたプロジェクトを企画するうえで必要となる他者への働きかける力を育成する。
9．他者と協働しながらそれぞれの専門性を駆使してプロジェクトを完遂する力を身につけさせる。

演習・卒業研究

1．卒業研究を行ううえで必要となる専門知識を身につけさせる。
2．立場の異なる他者との対話から新しい知見を引き出すことができる力を育成する。
3．研究を進めていくために必要となる情報を正しく収集・活用できる力を身につけさせる。
4．卒業研究を行ううえで必要となる論理的・創造的思考を身につけさせる。
5．多様な他者の価値観を理解したうえで、自らの主張を論理的に相手に伝える力を身につけさせる。
6．個々の研究成果を客観的に表現する力を身につけさせる。
7．卒業研究から得られた成果をこれからの社会に還元しようとする姿勢を育成する。
8．個々の研究を進めていくために、他者と協力し合える力を育成する。
9．個々の研究テーマに対して主体的に取り組む姿勢を育む。

カリキュラムマップでは、各学科の学生が、卒業までに身につけるべき知識・能力を得るための授業科目が、どのように配置されているか、各授業科目の関連性などがわかるようになっています。

カリキュラムの授業科目間のつながりや年次進行などがわかりますので、履修上の参考にしてください。

社会情報デザイン学科　カリキュラムマップ

（網掛け）→ 必修科目

<table>
<tr><th>領域</th><th>学生が身につけるべき資質・能力</th><th>1年次</th><th>2年次</th><th>3年次</th><th>4年次</th></tr>
<tr><td rowspan="8">学部基礎ユニット科目</td><td rowspan="8">・これからの社会において必要となる社会・情報・ビジネスに関する基礎知識を身につけさせる。
・立場の異なる他者を尊重しながら対話する力を育成する。
・情報を正しく収集・活用できる力を身につけさせる。
・身近な生活における課題発見・解決のために必要となる論理的・創造的思考と判断力を身につけさせる。
・多様な他者の価値観が存在することを認められる態度を育成する。
・身近な生活における課題に対して柔軟な発想で考え、新しいアイデアを提案する力を身につけさせる。
・社会に対して広く興味・関心を持たせ、自ら継続的に学ぶ姿勢を育成する。
・課題解決に向けたプロジェクトを企画するうえで必要となる積極性を育成する。
・他者と協働しながらプロジェクトを完遂する力を身につけさせる。</td><td>現代社会の基礎理解
ビジネス入門
現代社会論</td><td>社会学概論</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">情報社会とIoT
情報社会と法
マーケティング入門
業界研究</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">ジェンダー論
社会福祉論
生活経済
消費生活論
政治と社会
現代社会と人権
メディアリテラシー</td><td></td></tr>
<tr><td>発想法入門
課題探究ワークショップⅠ</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">デザインリテラシー
ビジュアルデザイン基礎</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">プレゼンテーション基礎
プレゼンテーション応用
英語実践演習</td><td></td></tr>
<tr><td>社会情報リテラシー
調査・統計リテラシー</td><td colspan="2">データ活用入門</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">データサイエンス概論
プログラミング基礎
文書作成入門</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">学部専門ユニット科目</td><td rowspan="3">・これからの社会において必要となる社会・情報・ビジネスに関する専門知識を身につけさせる。
・立場の異なる他者を尊重しながら対話し、合意にたどりつく力を身につけさせる。
・課題の発見・解決のプロセスのために必要となる情報を正しく収集・活用できる力を身につけさせる。
・これからの社会の構想とその実現に向けた課題解決のために論理的・創造的思考と判断力を身につけさせる。
・多様な他者の価値観を理解することのできる態度を育成する。
・社会が必要としているモノやサービスについて、柔軟な発想で考え、新しいアイデアを提案する力を身につけさせる。
・これからの社会で何が必要であるかを自ら見定め、生涯にわたり自己研鑽していく態度を育成する。
・課題解決に向けたプロジェクトを企画するうえで必要となる他者への働きかける力を育成する。
・他者と協働しながらそれぞれの専門性を駆使してプロジェクトを完遂する力を身につけさせる。</td><td></td><td colspan="2">経営戦略論
経営組織論
マーケティングと商品開発
広告論
会計学概論
サービス学概論
企業論</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td colspan="2">企業倫理とガバナンス
グローバルビジネス
デジタル・マーケティング
コンテンツビジネス論
先端技術とビジネス
マーケティングデザイン
ビジネスプロジェクト</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">現代家族論
異文化コミュニケーション論
地域コミュニティ論
共生社会論
課題探究ワークショップⅡ
マスコミュニケーション論</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="11">学部専門ユニット科目</td><td rowspan="11">・これからの社会において必要となる社会・情報・ビジネスに関する専門知識を身につけさせる。
・立場の異なる他者を尊重しながら対話し、合意にたどりつく力を身につけさせる。
・課題の発見・解決のプロセスのために必要となる情報を正しく収集・活用できる力を身につけさせる。
・これからの社会の構想とその実現に向けた課題解決のために論理的・創造的思考と判断力を身につけさせる。
・多様な他者の価値観を理解することのできる態度を育成する。
・社会が必要としているモノやサービスについて、柔軟な発想で考え、新しいアイデアを提案する力を身につけさせる。
・これからの社会で何が必要であるかを自ら見定め、生涯にわたり自己研鑽していく態度を育成する。
・課題解決に向けたプロジェクトを企画するうえで必要となる他者への働きかける力を育成する。
・他者と協働しながらそれぞれの専門性を駆使してプロジェクトを完遂する力を身につけさせる。</td><td></td><td colspan="2">まちづくり論
SDGs論
質的調査法</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td colspan="2">現代若者・子ども論
アイデンティティ論
公共政策
社会調査実習
リスク社会論
科学技術社会論</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">データの整理・視覚化
オペレーションズリサーチ
データによる予測・判定</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td colspan="2">データサイエンス演習Ⅰ
データによる課題解決
データサイエンス演習Ⅱ</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">社会ータベース基礎
Webコーディング
プログラミング応用
Python入門
JavaScript入門
オブジェクト指向
社会データベース応用
マクロプログラミング
C言語基礎</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td colspan="2">AIとプログラミング
ネットショップ
C言語応用</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">ビジュアルデザイン応用
映像デザイン
サウンドデザイン
メディア文化論
Webデザイン
音声コンテンツデザイン
色彩論</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td colspan="2">ポピュラー音楽論
現代アート論
拡張・複合現実</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td colspan="2">課題探究ワークショップⅢ</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>演習・卒業研究</td><td>・卒業研究を行ううえで必要となる専門知識を身につけさせる。
・立場の異なる他者との対話から新しい知見を引き出すことができる力を育成する。
・研究を進めていくために必要となる情報を正しく収集・活用できる力を身につけさせる。
・卒業研究を行ううえで必要となる論理的･創造的思考を身につけさせる。
・多様な他者の価値観を理解したうえで、自らの主張を論理的に相手に伝える力を身につけさせる。
・個々の研究成果を客観的に表現する力を身につけさせる。
・卒業研究から得られた成果をこれからの社会に還元しようとする姿勢を育成する。
・個々の研究を進めていくために、他者と協力し合える力を育成する。
・個々の研究テーマに対して主体的に取り組む姿勢を育む。</td><td></td><td></td><td>演習Ⅰ
演習</td><td>卒業研究</td></tr>
<tr><td>DP</td><td colspan="5">社会情報デザイン学科では、教育研究上の目的を達成するために、次の学生像を人材育成の方針とする。
1．これからの社会において必要となる社会・情報・ビジネスに関する知識を有し、よりよい社会を目指すうえで必要となる思考力と自己研鑽していく態度を持っている。
2．多様な他者の価値観を理解、尊重しながら、対話を通じて他者に働きかけ、協働することができる。
3．自らの興味・関心に基づき課題を発見し、情報を活用しながら柔軟な発想でアイデアを創造、提案し、他者と協働しながらプロジェクトを完遂することができる。</td></tr>
<tr><td>CP</td><td colspan="5">社会情報デザイン学科では、ディプロマ・ポリシーに定める資質・能力を育成するために必要な授業科目を精選し、系統的かつ体系的な教育課程を編成している。そのために、社会情報デザイン学科では、「基礎ユニット」「専門ユニット」「演習・卒業研究」の３つの領域区分を設け授業科目を配置している。</td></tr>
</table>

1 社会情報デザイン学部　社会情報デザイン学科(SA)
専門科目教育課程　2024年度生

科目群		卒業に必要な単位数	
共通科目		22単位以上	
学科専門科目	必修	24単位	90単位以上
	選択	66単位以上	
自由選択科目		12単位以上	
計		124単位以上	

- 共通科目から、必修科目７単位、選択必修科目８単位を含めた22単位以上を履修
- 専門科目から、必修科目24単位（卒業研究を含む）を含めた90単位以上を履修
- 自由選択科目は、12単位以上を履修
- 合計124単位以上を履修

What's "自由選択科目"!?

a. 共通科目22単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
例）共通科目28単位取得した場合は、６単位分が自由選択科目の単位となる。

b. 自学科の専門選択科目66単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
例）自学科の専門選択科目68単位取得した場合は、２単位分が自由選択科目の単位となる

c. 他学科の他学科開放科目を修得すると自由選択科目の単位となる。

a～cを組み合わせて（又は単独で）12単位以上を履修

科目区分		授業科目	単位数 必修	単位数 選択	授業形態	履修期	配当年次	他学科開放	備考	身につく力（◎…重要な目的としている ○…主な目的としている） 社会情報・ビジネスに関する基礎、専門知識	論理的・創造的思考と判断力	自己研鑽していく態度	他者を尊重しながら対話する力	他者の価値観を理解することのできる態度	積極性や働きかける力	課題発見・解決のための情報収集・活用力	新しいアイデアを提案する力	他者と協働しながらプロジェクトを完遂する力
学部基礎ユニット科目	現代社会理解	現代社会の基礎理解	2		講義	前	1年	×		○		◎	○	○			◎	
		ビジネス入門	2		講義	前	1年	×		◎	○	◎	○	○		◎		
		現代社会論	2		講義	後	1年	×		◎	○	○	◎	◎	○	○	○	
		情報社会とIoT		2	講義	前	1年	○		◎		○					◎	
		情報社会と法		2	講義	前	1年	○		◎	◎					◎		
		マーケティング入門		2	講義	後	1年	×		○						◎	◎	
		業界研究		2	講義	後	1年	○		○		◎	○	○	○			◎
		社会学概論	2		講義	前	2年	×		◎	◎			◎				
		ジェンダー論		2	講義	前	2年	×		◎	◎			○		○		
		社会福祉論		2	講義	前	2年	×		◎	◎			○			○	
		生活経済		2	講義	前	2年	×		◎		◎		○		○		
		消費生活論		2	講義	前	2年	○		◎	◎							
		政治と社会		2	講義	後	2年	○		◎	◎	○				◎		
		現代社会と人権		2	講義	後	2年	○		◎	○	○	○	◎				
		メディアリテラシー		2	講義	後	2年	○		○	◎	○	○	◎		◎		
	思考・表現	発想法入門	2		講義	前	1年	×			◎		○	○	○	◎	◎	
		課題探究ワークショップⅠ	2		演習	後	1年	×					◎	○	◎	○	○	◎
		デザインリテラシー		2	演習	前	1年	×		○	◎			◎		◎	○	
		ビジュアルデザイン基礎		2	演習	後	1年	×		○	◎			◎		◎	○	
		プレゼンテーション基礎		2	演習	前	2年	×		○	◎		○	○	◎	○		◎
		プレゼンテーション応用		2	演習	後	2年	×			○	○	○	○	◎	○	◎	◎
		英語実践演習		2	演習	後	2年	×		○	○		◎	◎		○	○	
	情報活用	社会情報リテラシー	2		講義	前	1年	×		◎	○	○	○			◎		
		調査・統計リテラシー	2		講義	後	1年	×		○		○	◎	◎		◎	○	
		データサイエンス概論		2	講義	後	1年	×		◎	◎				◎			
		プログラミング基礎		2	演習	後	1年	×		◎	○					○		
		文書作成入門		2	演習	後	1年	×		○	◎	◎						
		データ活用入門		2	演習	前	2年	×		◎	○					◎		
学部専門ユニット科目	経営・マーケティングユニット	経営戦略論		2	講義	前	2年	○		◎	○	◎	○	○		◎		
		経営組織論		2	講義	前	2年	○		◎		○		○	◎			◎
		マーケティングと商品開発		2	講義	前	2年	×		○	◎				○	○	◎	
		広告論		2	講義	後	2年	×		◎	◎			◎			○	
		会計学概論		2	講義	後	2年	○		◎	○	◎						
		サービス学概論		2	講義	後	2年	○		◎		◎	○	○		◎	○	
		企業論		2	講義	後	2年	○		○		◎				○		
		企業倫理とガバナンス		2	講義	前	3年	○		○	◎		◎	◎		○		
		グローバルビジネス		2	講義	前	3年	○		◎		◎		○				
		デジタル・マーケティング		2	講義	前	3年	×			◎	○				○	◎	
		コンテンツビジネス論		2	講義	前	3年	×		○			○	○	◎	○	◎	◎
		先端技術とビジネス		2	講義	後	3年	×		◎		◎				○	○	
		マーケティングデザイン		2	演習	後	3年	○					○	○	◎	○		◎
		ビジネスプロジェクト		2	演習	後	3年	×					○	○	◎	○	◎	◎
	社会デザインユニット	現代家族論		2	講義	前	2年	○			◎	○		○		◎		
		異文化コミュニケーション論		2	講義	前	2年	○		◎			◎			◎		○

科目区分		授業科目	単位数 必修	単位数 選択	授業形態	履修期	配当年次	他学科開放	備考	身につく力（◎…重要な目的としている　○…主な目的としている）社会情報・ビジネスに関する基礎・専門知識	論理的・創造的思考と判断力	自己研鑽していく態度	他者を尊重しながら対話する力	他者の価値観を理解することのできる態度	積極性や働きかける力	課題発見・解決のための情報収集・活用力	新しいアイデアを提案する力	他者と協働しながらプロジェクトを完遂する力
学部専門ユニット科目	社会デザインユニット	地域コミュニティ論		2	講義	前	2年	○		○	◎		○	○		◎		
		共生社会論		2	講義	前	2年	○				○	◎	◎				
		課題探究ワークショップⅡ		2	演習	前	2年	×					○	○	◎	◎	○	◎
		マスコミュニケーション論		2	講義	後	2年	×		◎	○	○	◎	◎	○	○	○	
		まちづくり論		2	講義	後	2年	○		○	○			◎		◎		
		SDGs論		2	講義	後	2年	○		◎			◎			◎		
		質的調査法		2	演習	後	2年	×		○			○	◎	○	◎	○	
		現代若者・子ども論		2	講義	前	3年	○		◎			○	◎		○		
		アイデンティティ論		2	講義	前	3年	○		◎	◎			◎				
		公共政策		2	講義	前	3年	○		◎	◎					○		
		社会調査実習		2	実習	前	3年	×			○		○	◎	○	◎		○
		リスク社会論		2	講義	後	3年	×		◎	○			◎				
		科学技術社会論		2	講義	後	3年	×		◎		○					◎	
	データサイエンスユニット	データの整理・視覚化		2	講義	前	2年	×		◎	○					◎		
		オペレーションズリサーチ		2	講義	後	2年	○		◎	◎					◎		
		データによる予測・判定		2	講義	後	2年	×		◎	○					◎		
		データサイエンス演習Ⅰ		2	演習	前	3年	×			◎	◎				○	◎	
		データによる課題解決		2	講義	前	3年	×		◎	○					◎		
		データサイエンス演習Ⅱ		2	演習	後	3年	×		○	◎					◎		
	情報システムユニット	社会データベース基礎		2	演習	前	2年	×		◎						○		
		Webコーディング		2	演習	前	2年	×		◎	○							
		プログラミング応用		2	演習	前	2年	×		○	◎					○		
		Python入門		2	演習	後	2年	×		◎	○					○		
		JavaScript入門		2	講義	後	2年	×		◎	○					○	○	
		オブジェクト指向		2	演習	後	2年	×		◎	◎					○		
		社会データベース応用		2	演習	後	2年	×		◎						○		
		マクロプログラミング		2	演習	後	2年	×		◎	◎					◎		
		C言語基礎		2	演習	後	2年	×		◎	○					○		
		AIとプログラミング		2	講義	前	3年	×		○	◎					○		
		ネットショップ		2	講義	前	3年	×		○	◎					○	◎	
		C言語応用		2	演習	前	3年	×		○	◎					○		
	メディアデザインユニット	ビジュアルデザイン応用		2	演習	前	2年	×		○	◎			◎		○	◎	○
		映像デザイン		2	演習	前	2年	×		○	○		◎	◎		○	◎	○
		サウンドデザイン		2	演習	前	2年	×		○	○			◎		○	◎	○
		メディア文化論		2	講義	後	2年	○			◎			◎		◎		
		Webデザイン		2	演習	後	2年	×		◎	◎					◎		
		音声コンテンツデザイン		2	演習	後	2年	×			◎		○			◎		
		色彩論		2	演習	後	2年	×		○	◎		○	◎		◎		
		ポピュラー音楽論		2	講義	前	3年	○		○	◎		○	◎		◎		
		現代アート論		2	講義	前	3年	×			○		○	◎		◎		
		拡張・複合現実		2	講義	前	3年	×		○	◎			◎		◎		
	総合演習	課題探究ワークショップⅢ		2	演習	後	3年	×				○	○	○	◎	○	◎	◎
演習・卒業研究		演習Ⅰ	2		演習	前	3年	×		○	○	◎	◎	○	○			◎
		演習Ⅱ	2		演習	後	3年	×		○	○	◎	◎	○	○			◎
		卒業研究	4		演習	通	4年	×		○	○	◎	◎	○	○			◎

［「卒業研究」の履修について］

註１：１・２年次終了時に次の条件①～③を満たす場合、「演習Ⅰ」の３年次前期からの履修を認める。

①修得単位数が62単位以上

②「入門ゼミナール」（共通科目）「はじめてのデータサイエンス」（共通科目）「現代社会の基礎理解」「発想法入門」をすべて修得していること。

③学科必修科目（「ビジネス入門」「現代社会論」「社会学概論」「課題探求ワークショップⅠ」「社会情報リテラシー」「調査統計リテラシー」のうち５科目以上を修得していること。

註２：「卒業研究」を履修するには、原則として「演習Ⅰ」と「演習Ⅱ」を修得していること。